

ORIGAMI TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E



クローズアップ Close-up

RES / 回転建立方式
— 切れ目でひろがる折り紙 —

Rotational Erection System (RES)
Expanding Origami with Cuts

宮本好信
Miyamoto Yoshinobu

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

シャコ

Squilla

今井幸太

Imai Kota

折り図 Diagrams

シベリアンハスキー

Siberian Husky

森澤碧人

Morisawa Aoto

つまみおり Information

第6回折紙探偵団九州コンベンション参加受付開始

The Registration Open for the 6th Origami Tanteidan Kyushu Convention



通巻 **156** 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

谷折り線
Line indicating
valley fold

山折り線
Line indicating
mountain fold

手前に折る
Fold paper
forwards

後ろへ折る
Fold paper
backwards

折り筋を
つける
Making a crease line

段折り
Pleat fold

裏返す
Turn paper over

引き出す
Pull out

図の見る
位置が変わる
Rotation

図が大きくなる
A magnified view

見えない
ところ
A hidden line

押す、
押しつぶす
Push paper in

切る
Cut

「シベリアンハスキー」(P.26)

作: 森澤碧人

Siberian Husky (P.26) by Morisawa Aoto

「シャコ」(P.36) 作: 今井幸太

Squilla (P.36) by Imai Kota

■創作折紙の世界を今後力強く牽引してくれるであろう人材が次々に登場、非常に心強いと思える今日この頃。蛇腹構造からの徹底的な調整で甲殻類の生々しさを表現したり、22.5度を基本とした構成にインサイドアウト技法や立体感を盛り込んだりと、使う技術も縦横無尽。折って挑戦するだけでなく、純粋に鑑賞して衝撃を受けることもまた楽しみ方のひとつです。 (解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi

No. **156**



Siberian Husky: Morisawa Aoto

クローズアップ / Close-up

**P.13 RES / 回転建立方式
一切れ目でひろがる折り紙ー**

Rotational Erection System (RES)
Expanding Origami with Cuts

宮本好信
Miyamoto Yoshinobu

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.26 シベリアンハスキー

Siberian Husky

森澤碧人
Morisawa Aoto



P.36 展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge!

シャコ

Squilla

今井幸太
Imai Kota

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー

Origami Photo Gallery

今号の折り図・展開図掲載作品より
Models Based on Diagrams and Crease
Patterns of This Issue

解説・北條高史
Comments: Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 ユニット折り紙カルテット

Modular Origami Quartette

川崎敏和
Kawasaki Toshikazu

南極ペンギンBOX

Antarctic Penguin Box

P.8 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

カバ、キタキツネ

Hippopotamus, Sakhalin Red Fox

読み物 / Articles

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

Origami⁶(全2巻) 第6回 折り紙の科学・数学・教育
国際会議論文集

Origami⁶: Proceedings of the Sixth International Meeting
on Origami in Science, Mathematics, and Education. 2
vols. Eds.

上原隆平
Uehara Ryuhei

P.18 ぼくらは折紙探偵団 小原智美・川井千世・川崎亜子

Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

Ohara Tomomi
Kawai Chiyo
Kawasaki Ako

布施知子ORIGAMI展~ただいま準備中~

Special Exhibition of Works of Fuse Tomoko in April 2016

P.37 ペーパーフォルダーの横顔

Paper Folders on File

追悼: 藤本修三

Obituary: Fujimoto Shuzo

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子
Fuse Tomoko

情報 / Information

P.38 日本折紙学会26期事業報告と27期予定

JOAS' Annual Report: Activities in the 26th Year and
Prospects for the 27th Year

P.40 つまみおり Rabbit Ear

第6回折紙探偵団九州コンベンション参加受付開始

The Registration Open for the 6th Origami Tanteidan
Kyushu Convention

第12回 南極ペンギンBOX

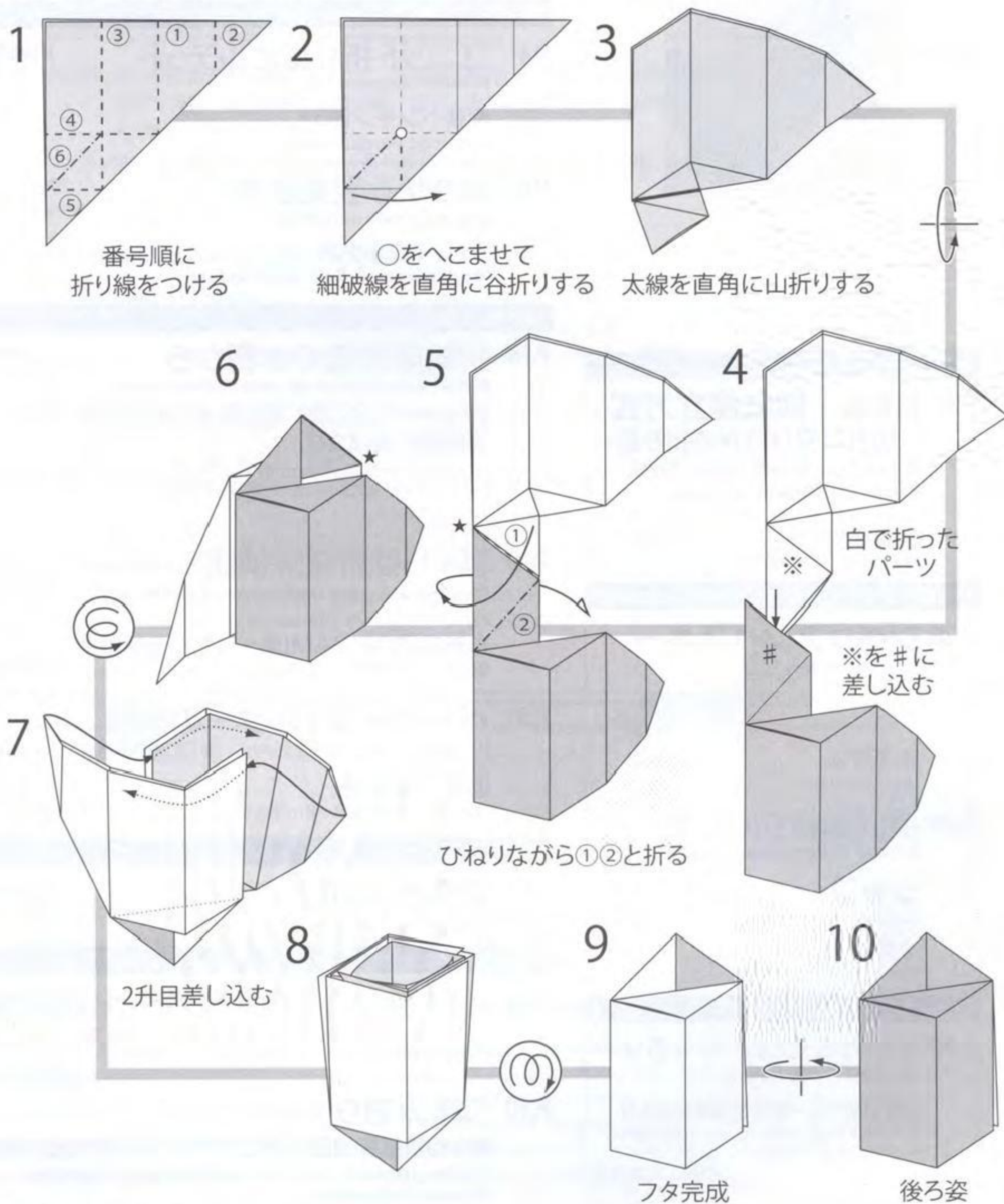
Antarctic Penguin Box

© 2016 KAWASAKI Toshikazu

2015年マイ・ベスト作品です。

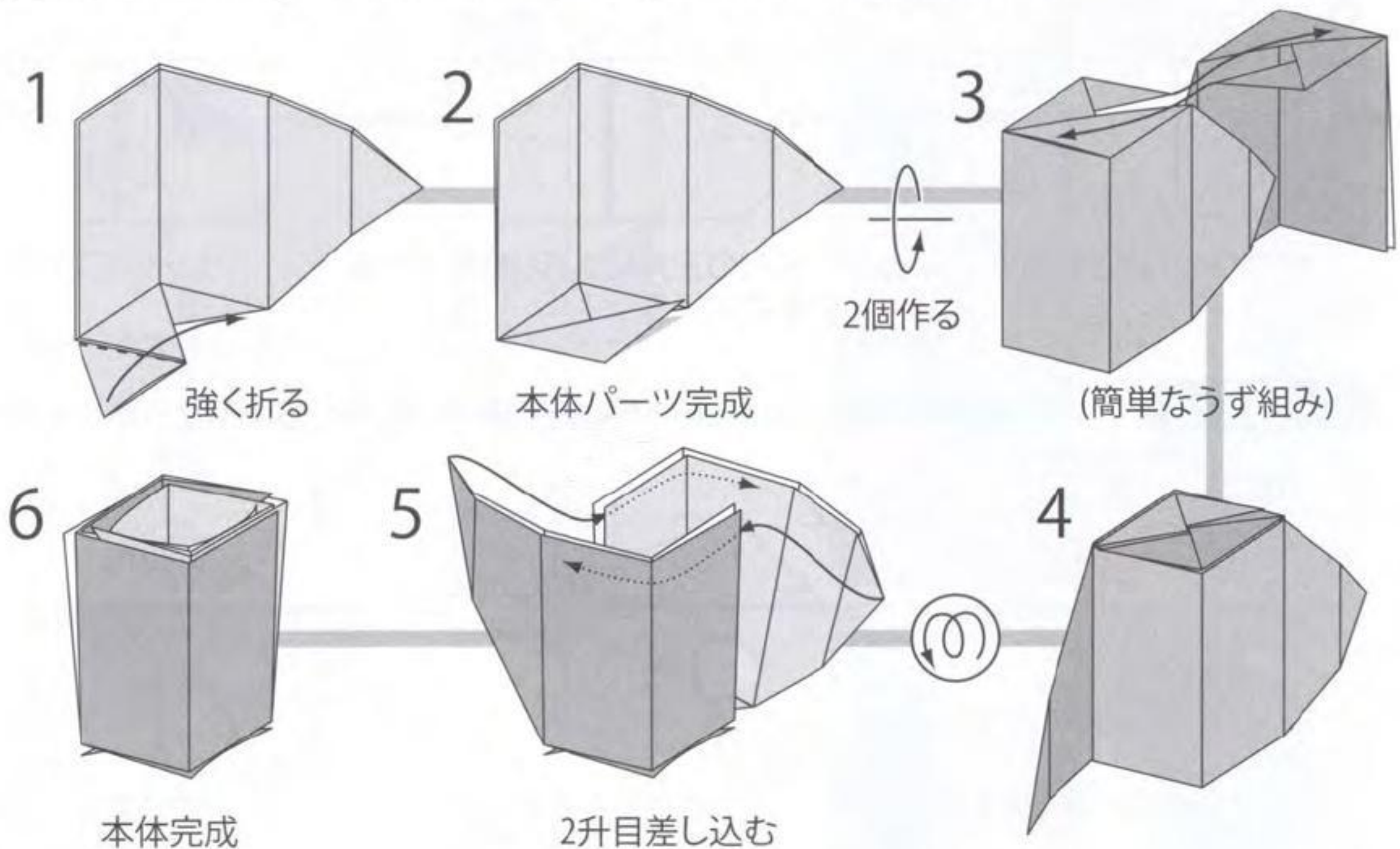
川崎敏和
 Kawasaki Toshikazu

BOXのフタを作る 15cm角の色紙(白と青)で折ったパーツを組んで作ります。



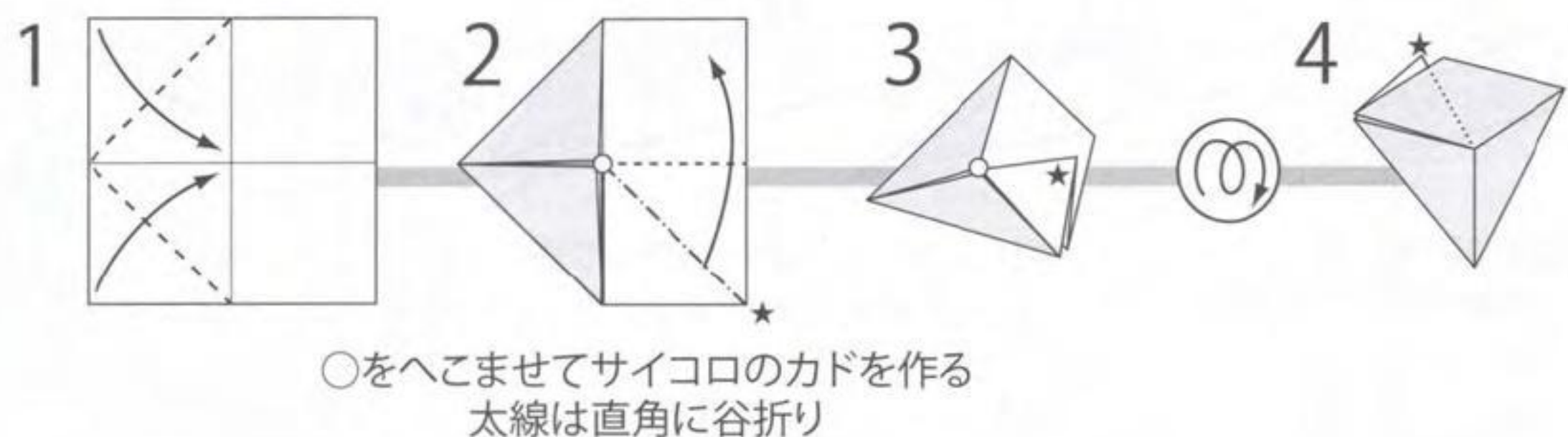
BOXの本体を作る

青色で折ったフタの工程3を2個準備してください。



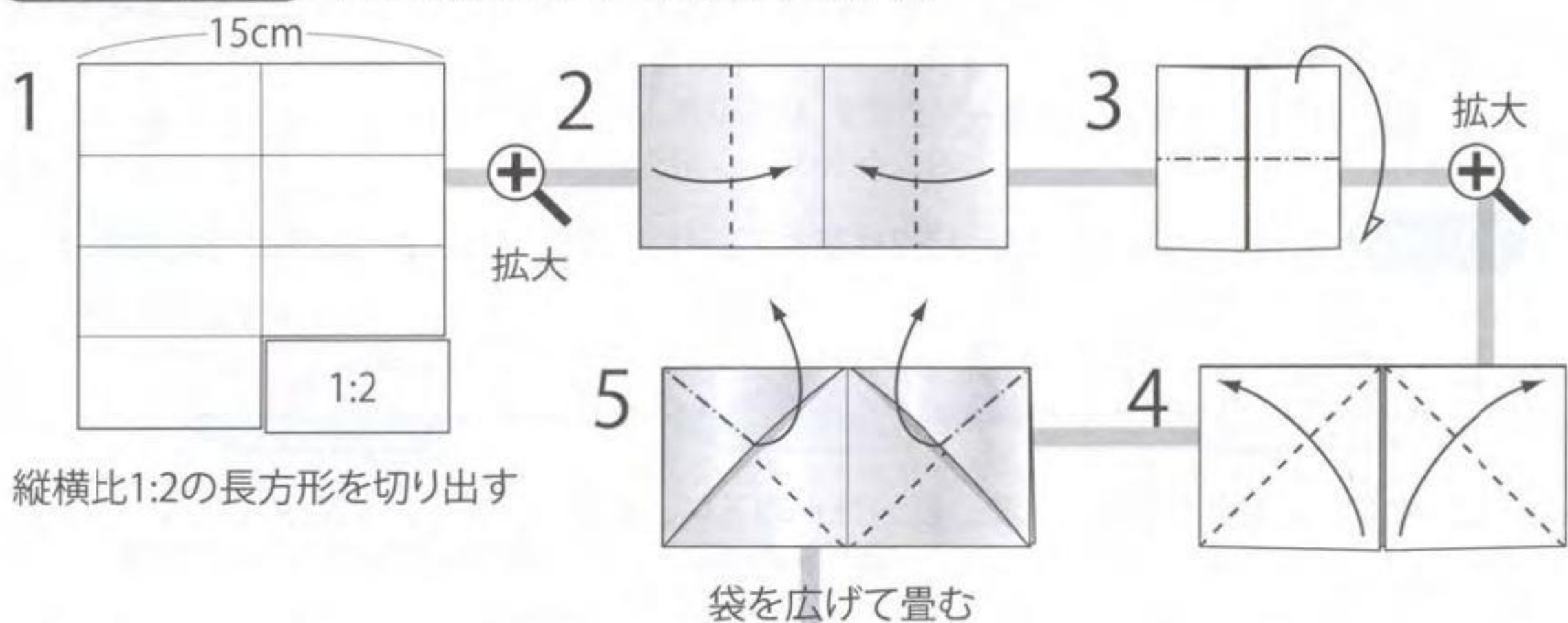
くちばしを作る

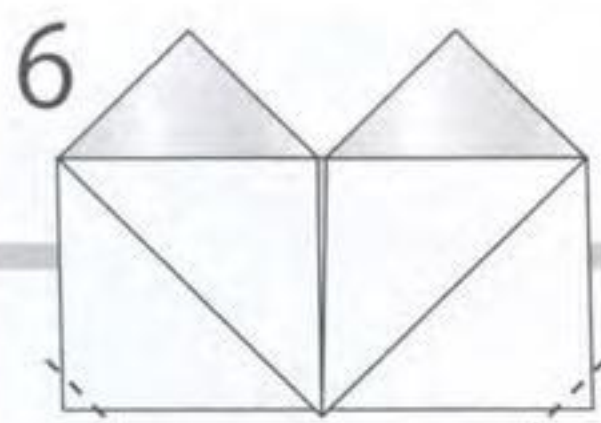
15cm角の色紙(黄)を縦横4等分した3.75cm角の紙で折ります。



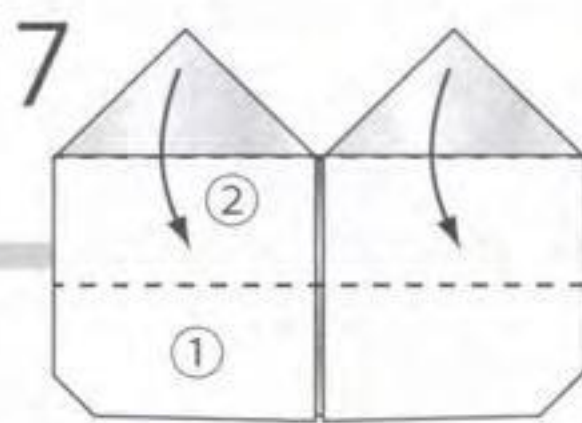
サングラスを作る

7.5×3.75cmのホイル紙で折ります。

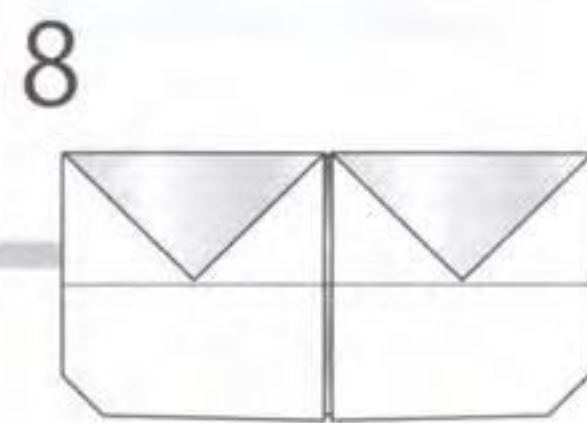




カドを3mmほど折る



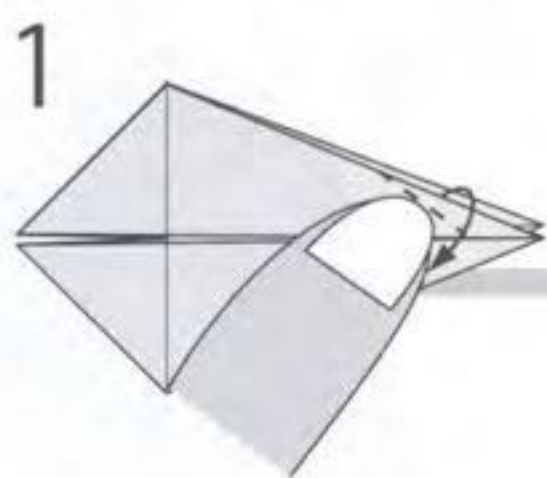
①裏側の三角にも折り目をつける
②手前に折る



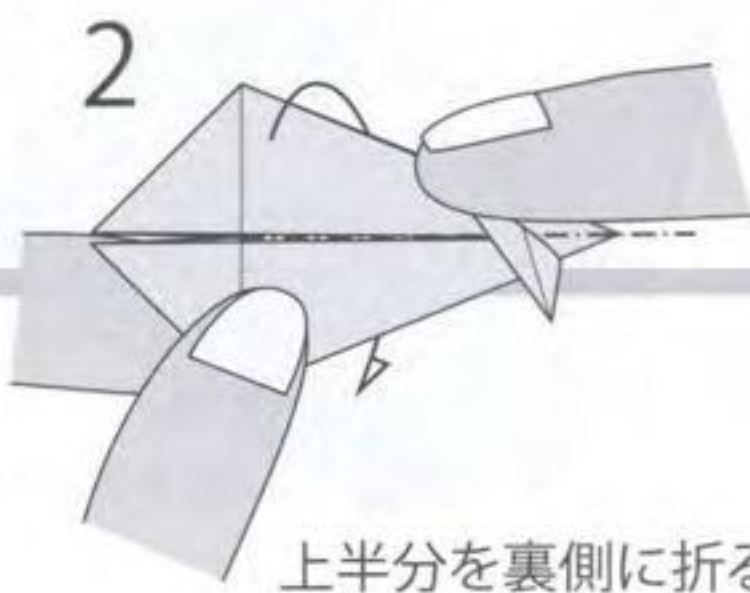
サングラス完成

小魚を折る

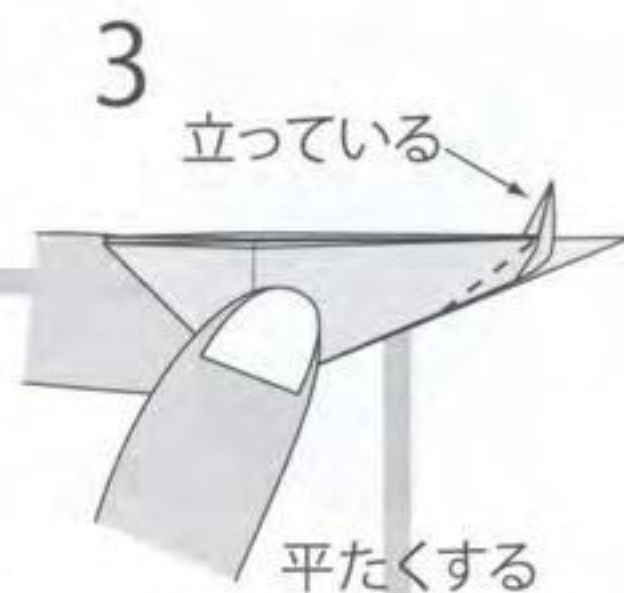
くちばしとほぼ同サイズの光沢のある紙で折ります。魚の基本形から始めます。



ツメを当てて強く折る

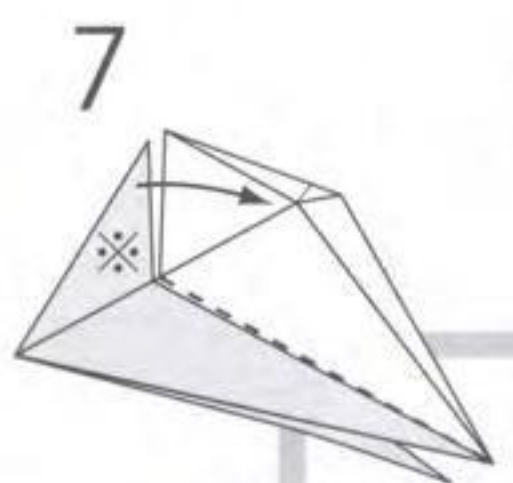


上半分を裏側に折る

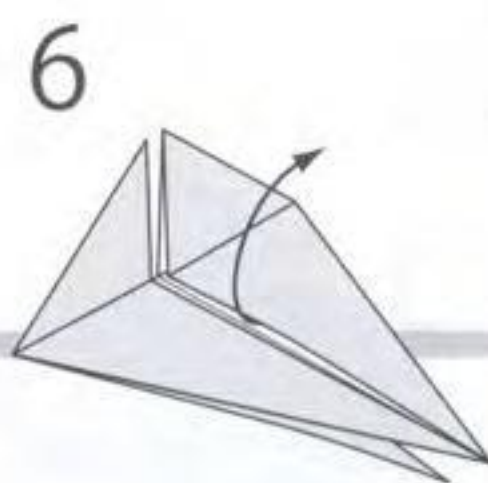


立っている

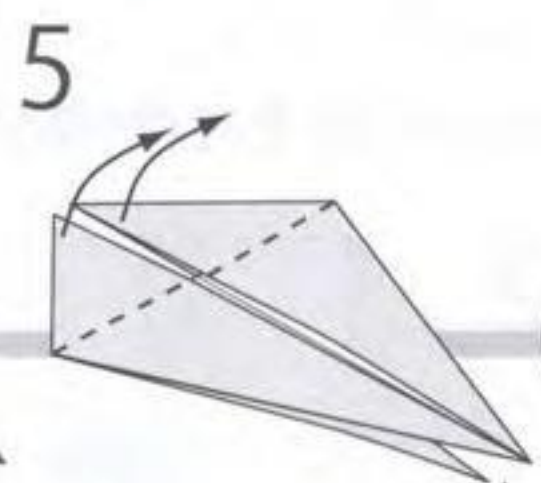
平たくする



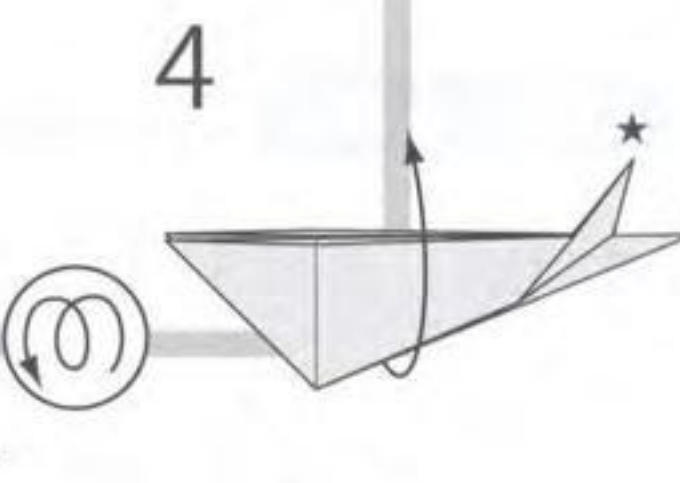
破線を直角に折って
※を中に入れる



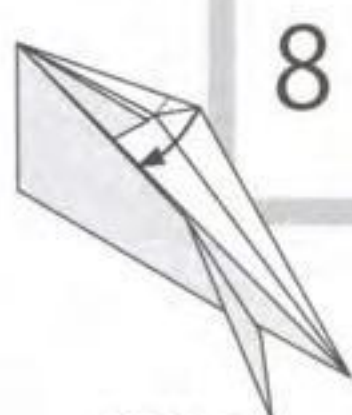
開く



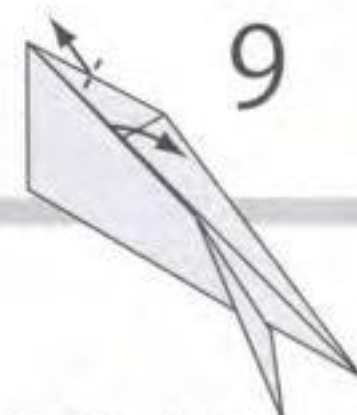
直角に折って立てる



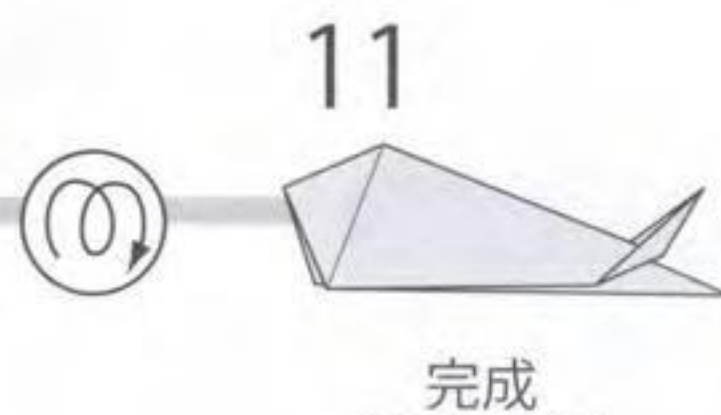
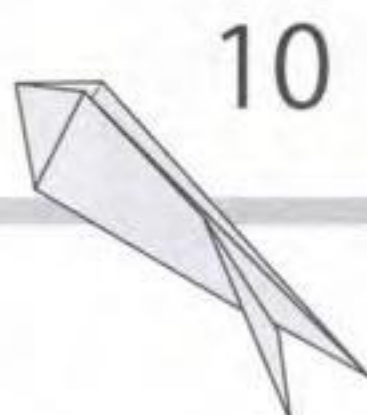
開く



閉じる



平たくする



完成
(泳ぐ小魚)

アレンジ

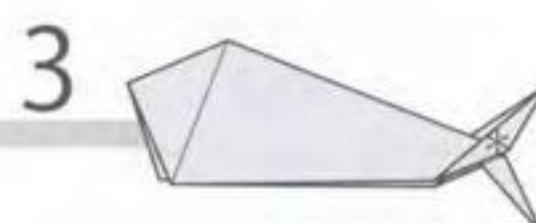
工程1～4のかぶせ折りを2枚重ねて折り、以降は同様に折った形から始めます。



上1枚をかぶせ折りする



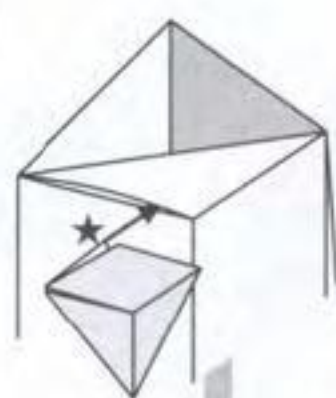
濃い部分を*の下に入れる
裏側も同様



完成
(ペンギンがくわえる小魚)

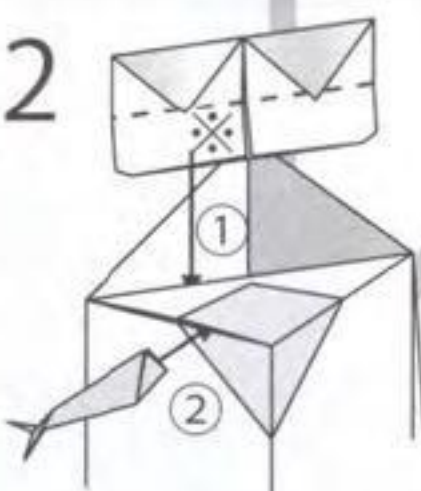
組み立てる

1



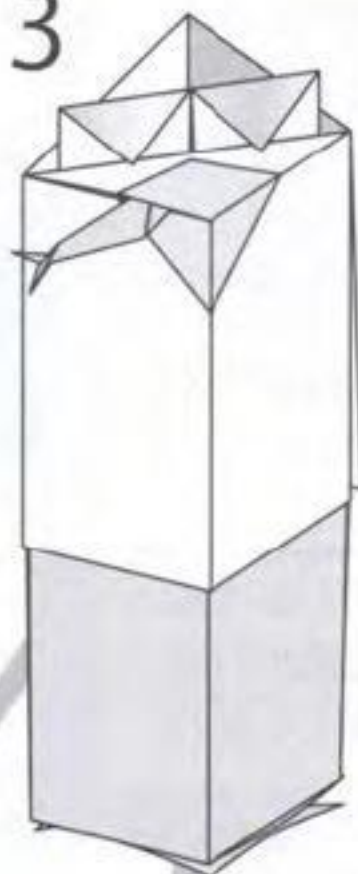
カード★を差し込む

2

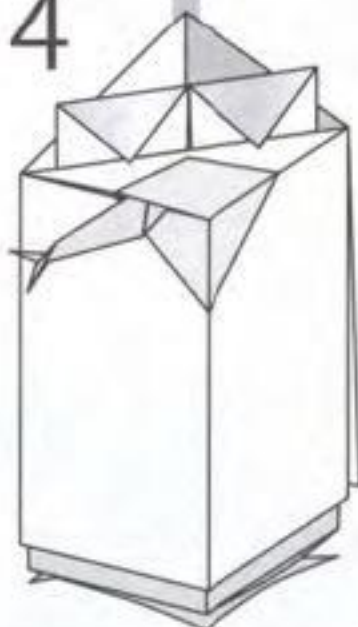


①※を差し込んで
破線を直角に
谷折りする
②小魚を差し込む

3



4



南極ペンギンBOX完成



折り紙の 周辺

第75回

表現

Artistic Expressions with
Origami

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

展示会の準備やホテルの為の仕事で連日手を動かしている。本の仕事が中心のときは、折り図を描くのに圧倒的な時間を費やしたが、この頃は、折り線をつけたり、大きめの紙で試作を折ったりする時間が多くなった。今までやり残しておいたことができるような状況に、ようやく自分を置いている。とっておいたお菓子をいよいよ食べようか、という感じだろうか。それがおいしいかどうかはさておき。

紙を折って、折られた紙の美しい

世界を表現することを考えている。目標の形に向かって、どう攻略していくか考えるのとは違って、折りながら名前のつかない面白い形を見つけ、それを膨らませていく。そんなのもうやっているよ、とおっしゃる方もいるだろうし、すでにそんな作品もたくさん見ている。私はようやくこれからだ。

数学者や科学者は、折り鶴はひとつ折って、折り方がわかれば充分だろう。しかし表現者は、それを使ってある世界を描く。そのために必要な折り鶴は一つかもしれないし、十かもしれないし、千羽、万羽必要かもしれない。

とはいうものの、私の表現は、指と紙が先にきて、この形はどうなるのかなあ、何の思想もなく出来上がっていく。多少は考えるが、折りに導かれて、ああこうなったか、という世界。体が動くうちにいろいろ試したいけ

れど、回復力も遅くなったし、果たしてどこまで続けることができるやら……。

暖冬が一転して例年どおりの冬になった。年末には散歩の折りに、ウゲイスカグラのピンクの花が咲いているのを見つけた。早すぎる春にびっくりしたが、その後の大雪と低温でどうなったかと案じていた。雪が少なくなった2月中旬に見たら、枝にその花はなく、他にふくらんでいたつぼみも寒そうに口を閉じていた。ウゲイスカグラの名を、長いことウゲイスカズラと思い込んでいて、数年前に友人に指摘されたときも、図鑑を見るまで信じられなかった。こんな間違いはきっとだれにもあるだろう。読みやすいように読んでしまおう、わかったつもりになってしまう。これで世界を狭めている。気をつけなければ。

第77回 **カバ** 中村 楓・作 **キタキツネ** 加茂弘郎・作

Hippopotamus by Nakamura Kaede
Sakhalin Red Fox by Kamo Hiroo

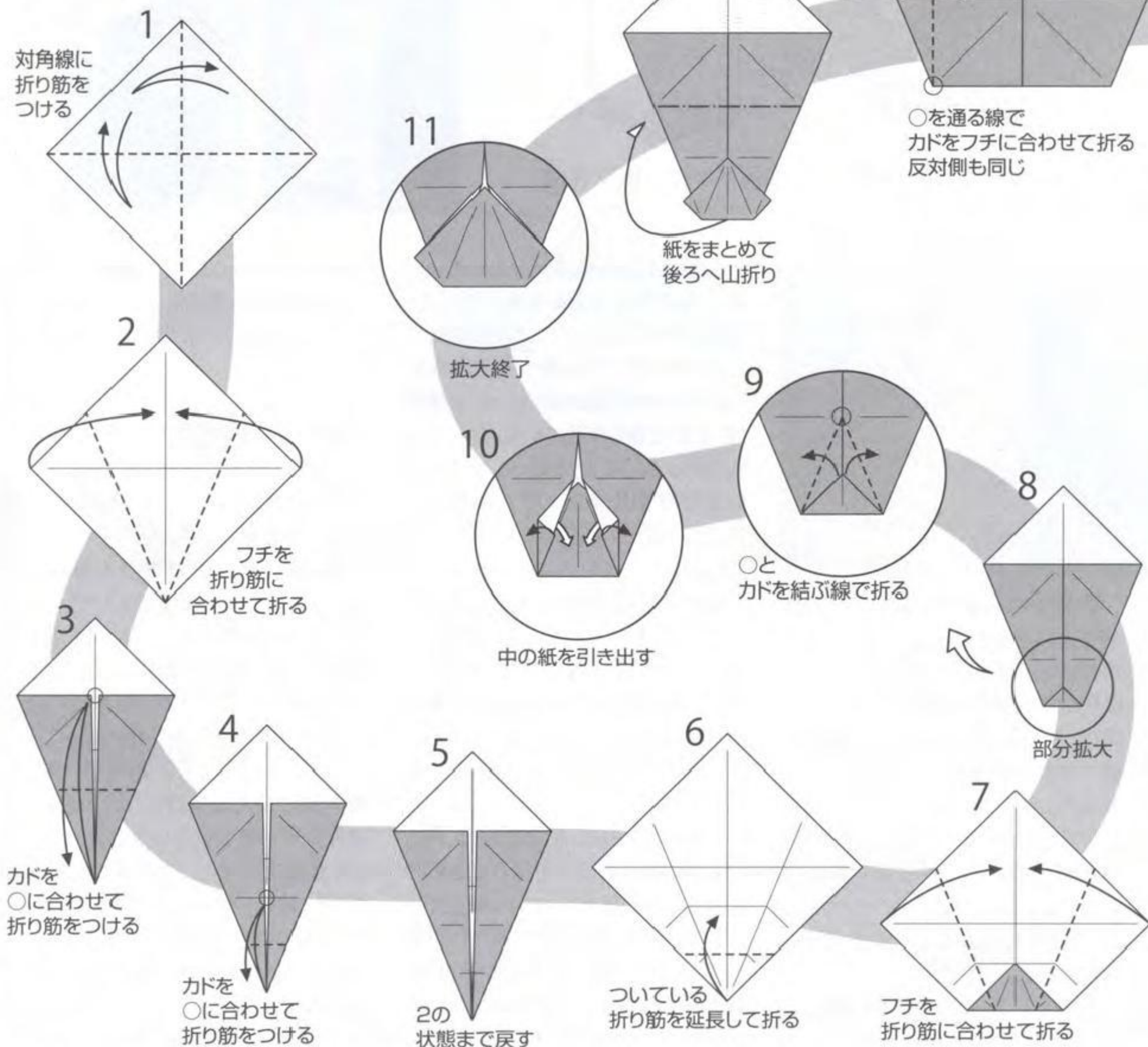
すっきりとした造形に定評のある両氏の、折り紙らしさあふれるシンプルなデザインの動物を2点紹介します。どちらの作品も手順通りに進めればかなりの再現性の高さで完成できますが、キタキツネは比較的難しい折り方が多いので、先の図の形を確認しながら折り進めましょう。

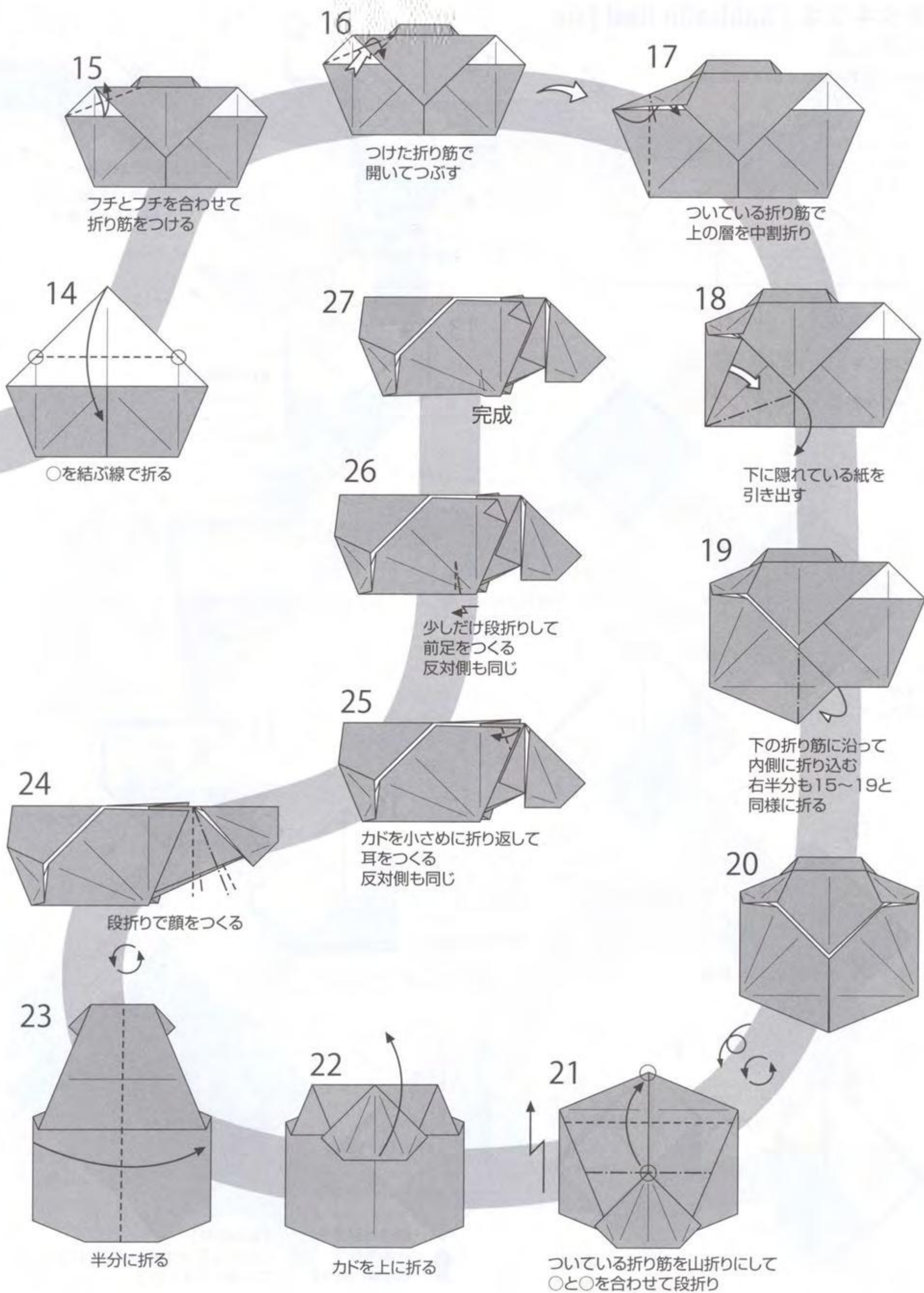


カバ / Hippopotamus

中村 楓

Model & Diagrams by Nakamura Kaede
2016/02/02

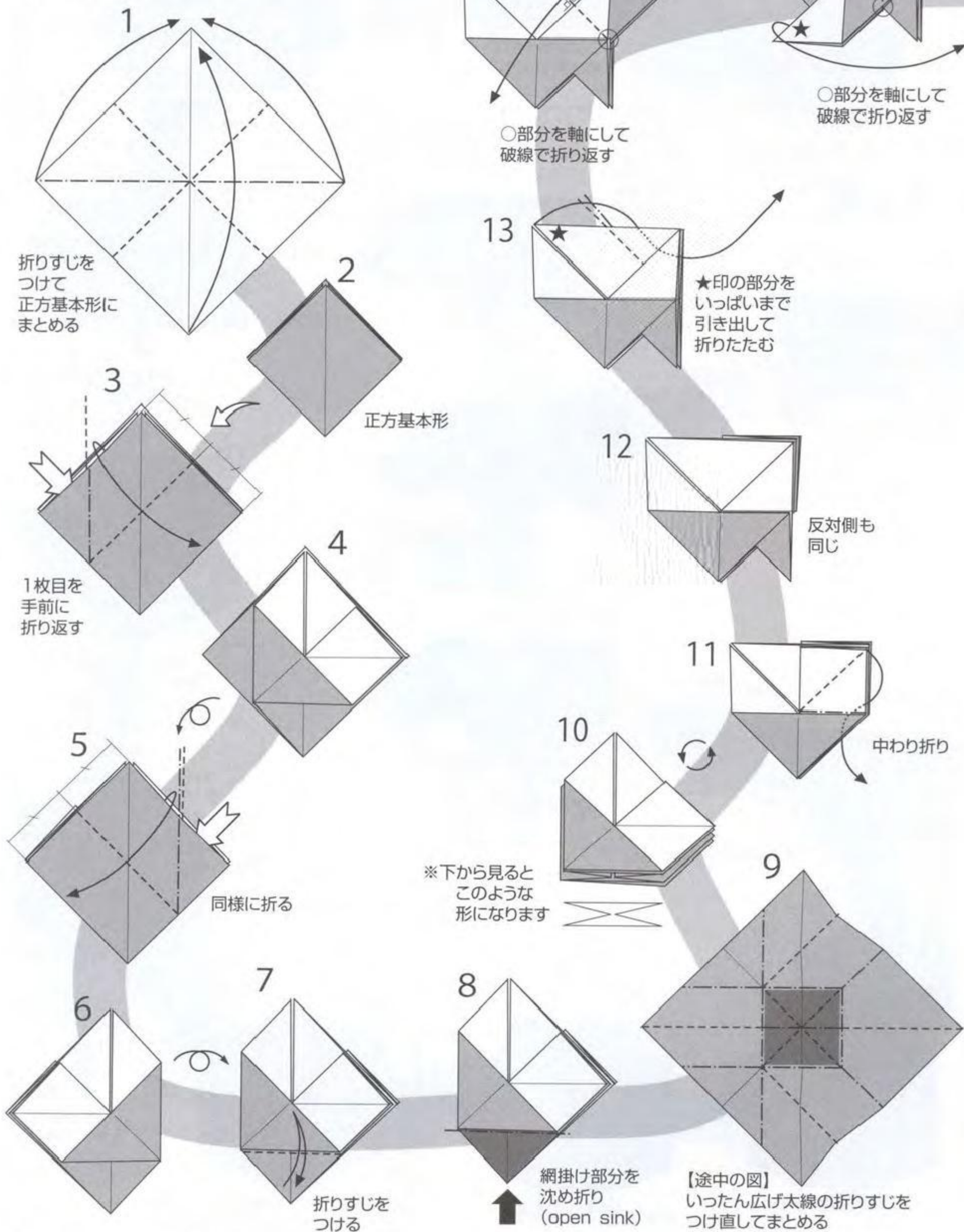


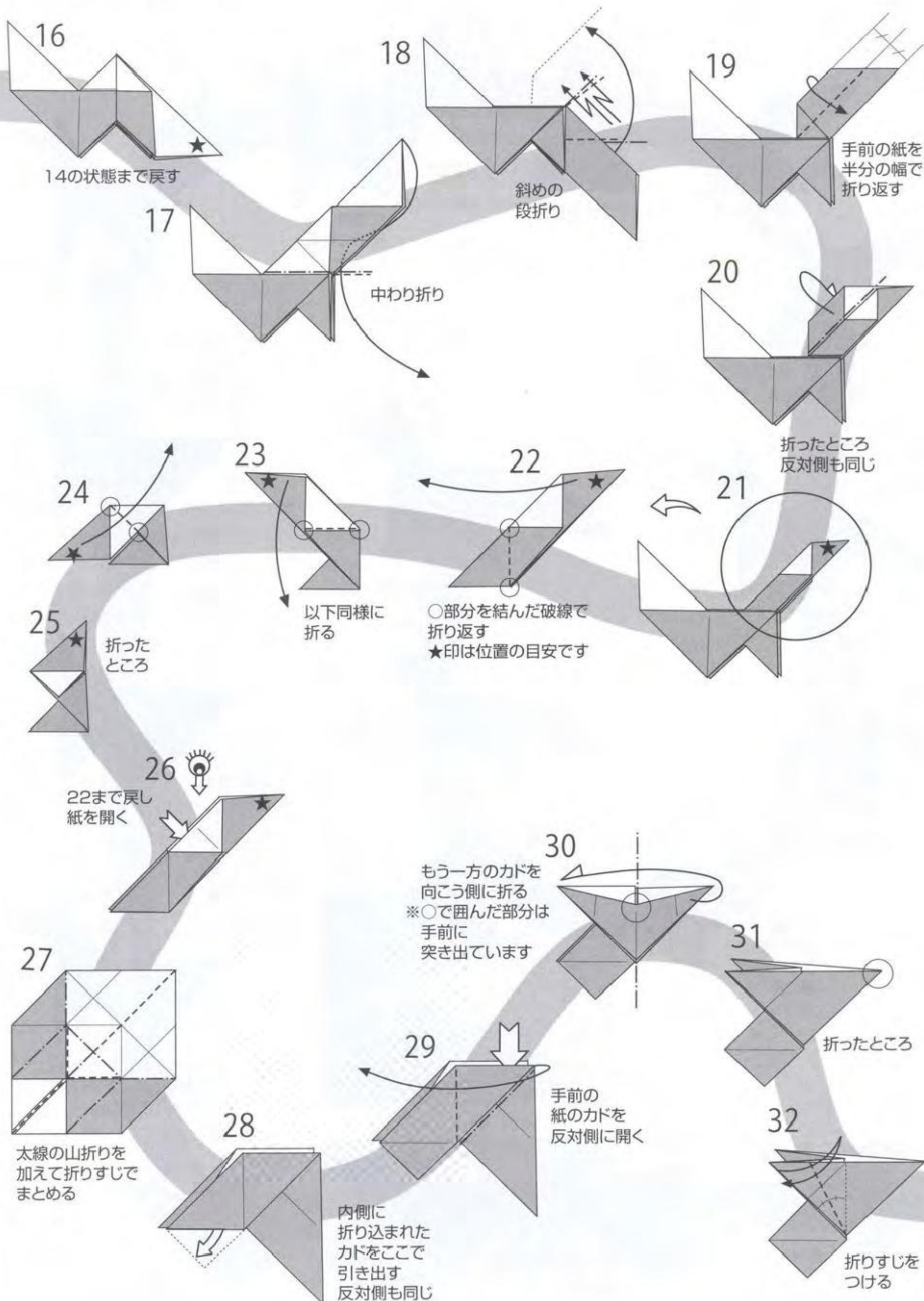


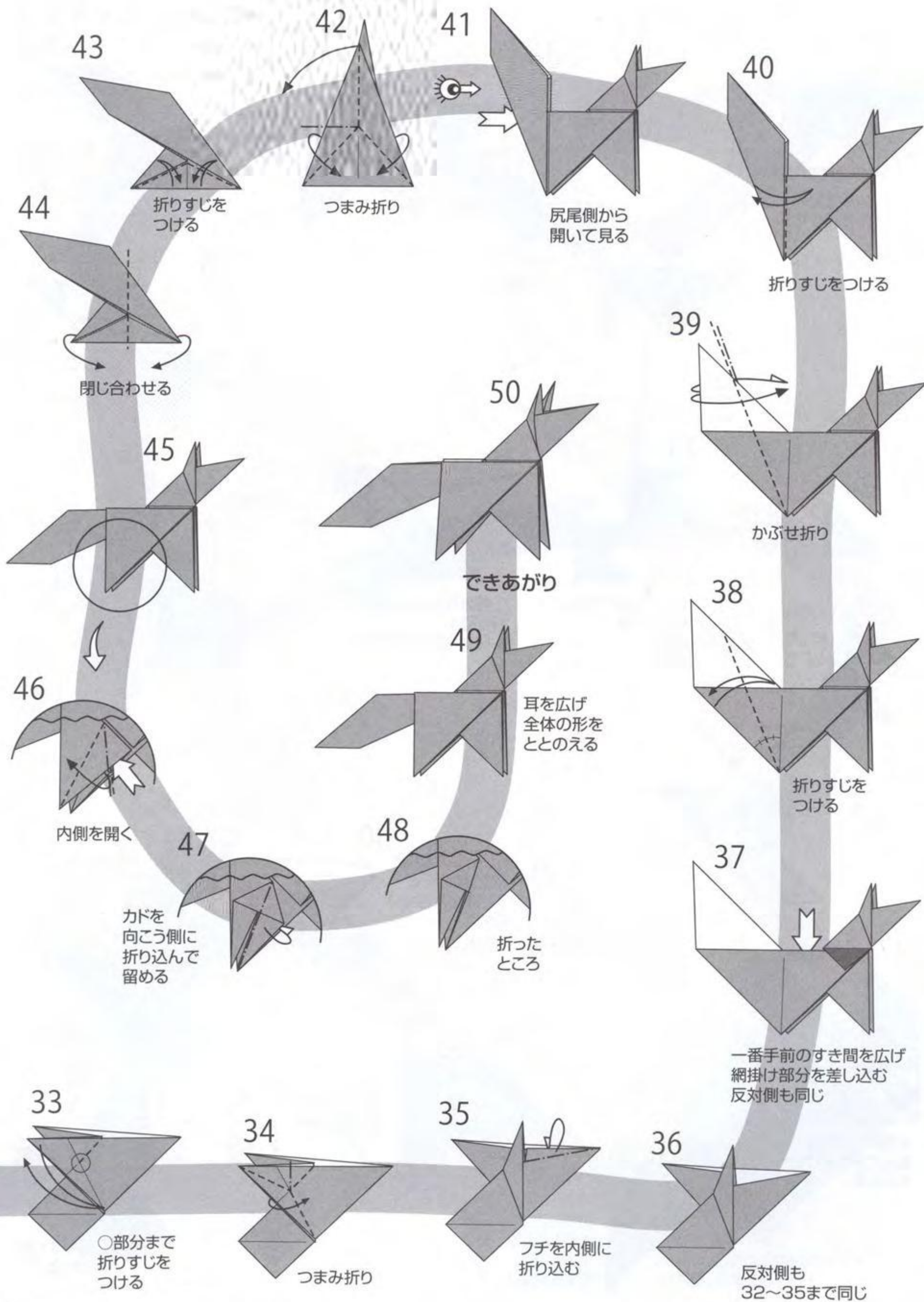
キタキツネ / Sakhalin Red Fox

加茂弘郎

Model & Diagrams by Kamo Hiroo
2011/12/07







RES / 回転建立方式 一切れ目でひろがる折り紙

Rotational Erection System (RES): Expanding Origami with Cuts

宮本好信

Miyamoto Yoshinobu

飛び出す折り紙

本誌読者は子供のころから折り紙が得意な方が多いと思います。私は図画工作¹が好きでしたが折り紙は苦手でした。いまでも、折紙探偵団のコンベンションで★2.5の講習で小学生についてゆくのがやっとです。

私の子供の頃はゲーム機、パソコンがありませんでしたから、模型製作や工作²で遊んでいました。大学時代でも図学製図³は手描きの時代でゲームセンター⁴のほうが時代を先取りしていました。その後30年、デジタル技術や数理科学⁵はめざましい進歩をとげ、工作にデジタル・ツールが利用できるようになりました。

大学で建築設計を教えるようになり、昔にもどって自ら工作したくなりました。私が勤務する大学には立派な工作機械が機械学科実習場にあり、さらに学生用工房もあるのですがレーザー切断機がありません。そこで家庭用の小型カッティング・プロッタ⁶を紙工作に使えないか試してみることにしました。ローマのオリンピック・ドーム(設計:ネルヴィ、1960)の構造をA4判厚手コピー用紙で作りました(図1)。3D-CAD⁷で立体上の交点や交線が簡単に設計でき、展開図も同時に作図できました。パソコンとカッティング・プロッタのおかげで手作業では難しい曲線の多い切断が数分で完了しました。しかし、頂環部で多数の差し込みを組むのには時間がかかりました。オープン・キャンパスでこれらを展示して見学の高校生に冗談半分で「組み立ての自動化が研究課題」と説明しましたが、実は解決の目途はありませんでした。

これ以前にも紙面に垂直に立ち上げることを考えたことがありました。小学生の頃、ポップアップ絵本が「飛び出す絵本」としてテレビCMで宣伝されたことがあり、私は紙面から垂直に「飛び出す」とかってに思い込みました。本屋に現物を見にいくと、よくある見開き形式ポップアップ絵本だったので、おおいに落胆⁸しました。「飛び出す」立体化への発想はこのときにうまれ、頭のすみにずっと残っていました。

RES考案

そこで、部材を組む作業なしに平面を立体化する方法としてRESを考案⁹しました。RESは1枚の紙を切り目と折り目を設計して立体化する技法であり、折り紙を切れ目でひろげる技法、切り紙を折り紙的に立体化する技法ともいえます。RESはRotational Erection Systemの略称で回転建方/建立¹⁰方式を意味します。名称は建築を意識して

いますが、規模の大小を問わず建築、家具、雑貨、装身具や極小機械への利用が可能です(図2)。

構成と幾何学

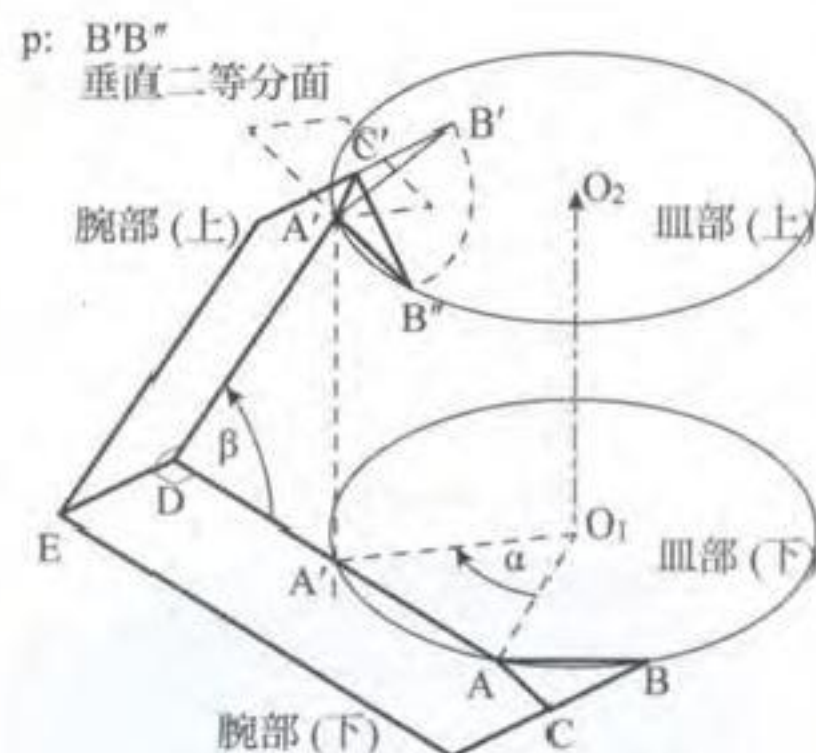
RESは基部(ベース: Base)、腕部(アーム: Arm)、耳部(タブ: Tab)、皿部(ハブ: Hub)¹¹の4種の部材で構成されます。腕部は基部面内の軸まわりに回転しつつ、皿部は耳部を介して中心軸まわりに回転します。腕部上端は回転途中で外側に変形します。平坦状態と建立状態では各部が変形なしに安定していますが、立ち上げ途中で不安定になります¹²。皿部の水平回転角度(α)と腕部の垂直回転角度(β)を決めれば各寸法を計算¹³できます。平坦状態と建立状態の水平面内、垂直面内の三角形の幾何条件を利用しています。皿部が傾斜した場合は、この条件を各々の腕部、耳部の組について適用します(図3、図4、図5)。



図1 ラメラ・ドーム



図2 部分球面 大中小



$$\alpha = \angle AO_1A', \quad \beta = \angle ADA', \quad R = O_1A, \\ L = DA, \quad L = 2R \sin(\alpha/2)/(1 - \cos \beta), \\ H = O_1O_2 = L \sin \beta$$

図3 基本構成

RES / 回転建立方式 一切れ目でひろがる折り紙ー

Rotational Erection System (RES): Expanding Origami with Cuts

宮本好信

Miyamoto Yoshinobu

作例説明

回転体

正多角形の皿部の周囲に曲線で腕部を配置するとドーム型の造形ができます。腕部の曲線が相互に交わらないような範囲であれば自由な曲線で軸回転対称のドームができます。半球ドーム、5/8球ドームが可能です。球面や軸回転対称曲面を制作する際には、腕部の個数を多くして視覚的に曲面が連続して知覚されるようにします(図6)。

多段式

皿部の大きさを保つように条件を決めて、折目切目パターンを皿部に縮

小して埋め込めば多段形状ができます。三重塔、五重塔、八重塔を四角形、六角形、N角形の平面形で制作可能です(図7)。

L型断面

板状の腕部は圧縮荷重に対して折れやすい性質があります。耳部と腕部の折れ目を腕部に延長して基部に達するように工夫すれば、腕部の断面がL型¹⁴になります(図8)。

L型断面の腕部を傾斜した皿部に用い、さらに多段にすることもできます(図9)。

曲面利用

紙のような薄板材は曲げたわみに

より滑らかな曲面ができます。腕部が3個の軸回転対称RESに曲面を活かした作品を試みました(図10)。立ち上げはかなり不安定ですが、建立状態でたわみの力がバランスして安定します。

展示家具試作

寸法の大きな作品への応用として、ポリプロピレンのサンドイッチ・パネル(厚さ5mm)を加工して三重塔状オブジェを制作しました¹⁵(図11)。ヒンジ部は表面材を残して加工しています。パネルの強度・弾性が強く、途中まで皿部を持ち上げるとバネのように立ち上がります。腕部・耳部がL型

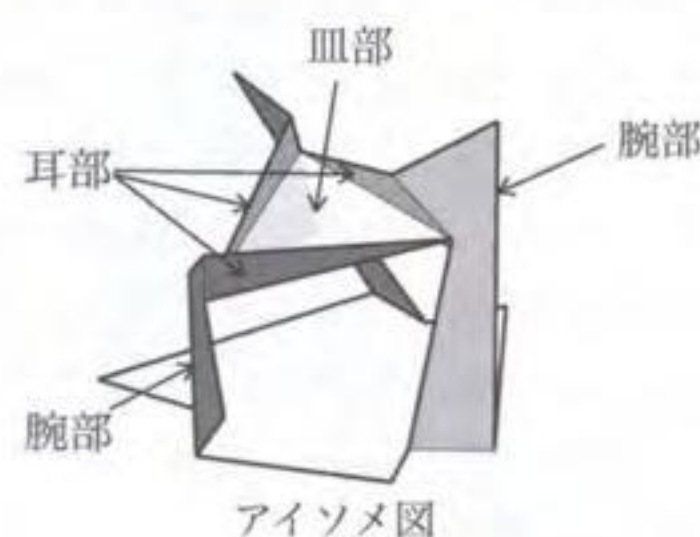


図4 皿部傾斜例

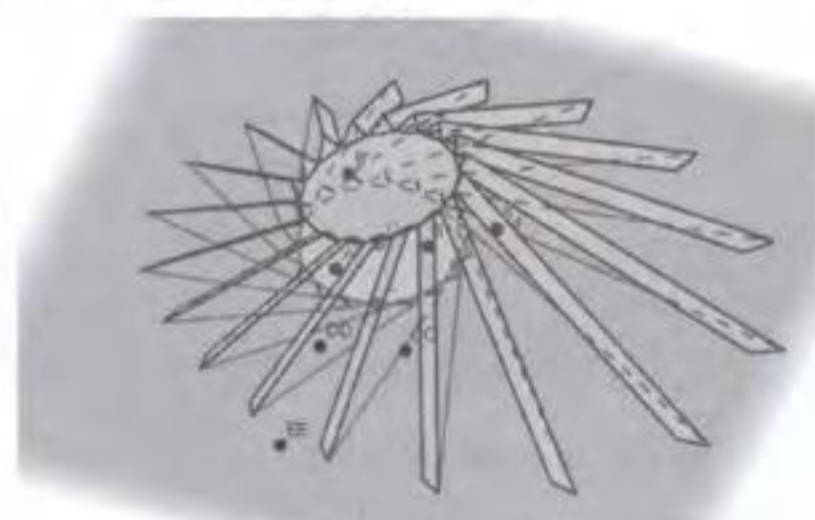


図5 傾斜正18角形皿部



図6 二重曲線ドーム



図7 正方形五重塔



図8 L型断面腕部



図9 傾斜三角皿部三層



図10 曲面腕部 三角錐頂部

○宮本好信(みやもと・よしのぶ)
=愛知工業大学 建築学科 教授 (2008-)、日建設計(1986-2008:中国銀行上海、所沢航空記念館、日本化学会館、東京ミッドタウン・ガレリア)。折・曲・切を統合する「拡張折紙」による建築を構想している。



断面のため剛性が高く、建立状態でしっかり安定するので、遊具や自立サインとしての実用可能です。

建築試作

最近、構造用合板で大型模型を試作¹⁶しました。1.2 cm厚の構造用合板をNC加工で部材を切り出し、建築用ヒンジ、チェーン、ターンバックルなど、建設現場資材を利用しています(図12)。

建築応用

米国やオーストラリアで普及しているチルト・アップ・コンクリート工法の応用です(図13)。平坦な床に鉄筋と型枠板を配置し、コンクリートを流



図11 サンドイッチ・パネル試作
120 x 120 x 120cm, t=0.5cm



図12 正八角形合板試作 直径212cm、高さ87cm、板厚1.2cm

し込んで各部材を製作します。基・腕、腕・耳の折り目はいったん分離して、建方時に再接合します。建方の際は皿部をクレーンで垂直に揚重して直下に仮設構台を設置します。その後、クレーンで腕部先端を一对ずつ揚重して皿部に固定します。全ての腕部を固定後、ケーブルを緊張して構造体全体を安定化します。

RESの未来

機械工学分野では1995年頃から部材変型を利用するコンプライアント機構の研究が続いています。RESは同分野の薄板発現機構LEMに応用できる技法として期待されています。机の上の紙工作からうまれた形を応用して、微小機械から宇宙建築まで設計できるかもしれません。折り紙的制約と機能から生成される未来の機械や建築の形態探求はまだまだ続きそうです。

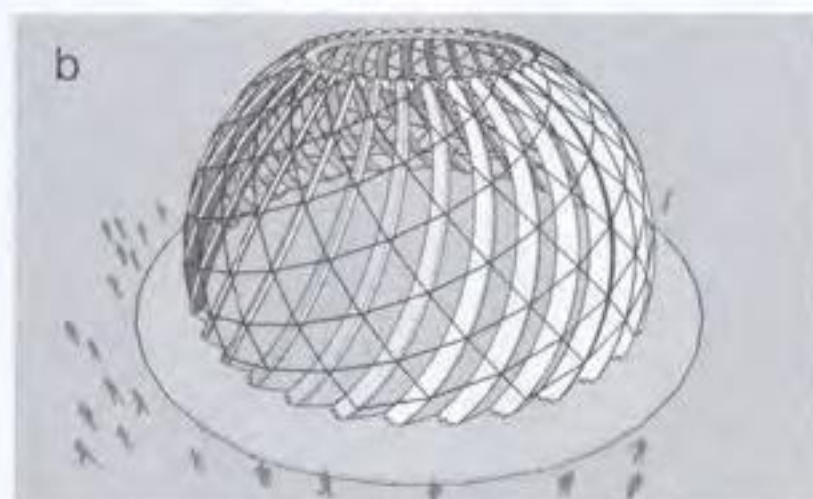


図13 半球ドーム骨組、直径30m
a. 床にコンクリートを流して各部材を製作
b. 腕部を立ち上げ、ケーブルを緊結して完成

- 1 神戸市立中道小学校(現 会下山小学校)では私が在籍した当時、図工専任教諭が学芸会オペレッタ舞台の大判切り紙による書割、図書室のサイン・グラフィックなどを製作をするほか、校外では美術作家として活動していた。課題は絵画や彫塑だけでなく、バウハウスの基礎デザイン、陶芸、木工、模型など幅広い内容であった。
- 2 紙と新しい材料 1971 少年少女工作美術館〈2〉学習研究社:ポップアップ、不織布ドレス、段ボール家具など現在でも通用する内容。
- 3 多面体と建築—そのなぞとのかたち 1979 宮崎興二:建築と幾何学の話題が満載。ダニエル・シェヒトマンの2011年ノーベル化学賞の準結晶につながる非周期的空間充填多面体を予言。
- 4 アタリ社 バトルゾーン(世界初3D FPSゲーム1980)。これに触発されてコンピューター・グラフィックスを独学した。
- 5 折り紙の数理と科学 2005 トム・ハル編集 川崎敏和監訳:東京ミッドタウン・ガレリアのサイン計画で折り紙をテーマにした際に参考書として入手。
- 6 グラフテック社 Craft ROBO CC200-20
- 7 SketchUp(Win, Mac): 3Dモデリング用のフリーソフト
- 8 消費者保護運動以前の時代で、テレビや雑誌は誇大広告が多かった。
- 9 2011年2月、画像SNSのflickrに作品写真を発表。2011年6月、シドニーの紙デザイン・フェスティバル「A4」で招待展示、シドニー工科大学(UTS)で講演。
- 10 建方(たてかた): 建設現場で構造体を組み上げること、建立(こんりゅう):寺院や塔を建設すること。こん=呉音
- 11 ハブは自転車などの車輪のスポークが集まる部材のこと。日本語では轂(こしき)。
- 12 この性質をバイステーブル(bi-stable)という。bi=ふたつの、stable=安定した
- 13 Geogebra(Win, Mac, Android, iOS): 代数・幾何フリーソフト
- 14 工業用語ではL型断面部材をアングル材、鋼材ではアングル鋼・山形鋼という。
- 15 製作:川上産業産業株式会社
- 16 設計協力:丹羽哲夫、久米弘記

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

上原隆平

Uehara Ryuhei

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/> にアクセスしてください。

49冊目 『Origami⁶ (全2巻) 第6回 折り紙の科学と数学と教育の国際会議論文集』

編集:三浦公亮、川崎敏和、館 知宏、上原隆平、ロバート・J・ラング、パッツィー・ワン=アイバーソン

Origami⁶: Proceedings of the Sixth International Meeting on Origami in Science, Mathematics, and Education. 2 vols. Eds. by Miura Koryo, Kawasaki Toshikazu, Tachi Tomohiro, Uehara Ryuhei, Robert J. Lang, Pasty Wang-Iverson

2016年1月初頭、アメリカのシアトルに行きました。アメリカにある2つの数学の学会(MAAとAMS)が合同で開催するカンファレンスに行くためです。Webページ(<http://jointmathematicsm meetings.org/jmm>)をみると、なんと6000人を超える登録者がいたとか。すごいですね。日本で数学のカンファレンスをやっても、参加者60人はあったとしても600人ですら、まずないんじゃないでしょうか。それが6000人とは! 実際、とてもたくさん、到底すべては見きれないほどの発表やイベントがあり、とても盛り上がっていて、楽しめました。

さて今回、このカンファレンスに初めて参加したのは、Erik Demaine氏とThomas Hull氏とRobert Lang氏が主催していた、折り紙の数学に関する特別セッションに呼ばれていたからでした。他には東京大学の館知宏氏と、筑波大学の三谷純氏も参加・発表していました。折り紙についてのいろいろな発表はとても楽しかったのですが、ここでは割愛して、

併設のイベントに話を移しましょう。

併設のイベント会場では、出版社のブースや、数学グッズ・サイエンス・パズルを売る店などが出っていて、大いに盛り上がっていました。中でも出版ブースは、さまざまな興味深い本を並べていて、いろいろと趣向を凝らしていました。アメリカ数学会AMSのブースでは、最新刊をたくさん並べていたのですが、その中でも一番力をいれて並べていたのが、今回紹介する『Origami⁶』です(写真1)。この2冊組の分厚い本は、2014年に東京大学で開催された6OSME(第6回折り紙の科学・数学・教育国際会議)で発表された論文を集めたものです。国際会議OSMEは、1989年の1回目はイタリア、1994年の2回目は日本の大津、2001年の3回目はカリフォルニア、2006年の4回目もカリフォルニア、2010年の5回目はシンガポール、そして2014年の6回目は日本の東京で開催されてきました。私自身は2006年の4OSMEから参加していますが、いろいろと手を

尽くして、会議録だけはすべて持っています(写真2)。こうして並べてみると、凸凹はあるものの、だんだんと会議が成長していくのがわかって面白いですね。ちょっとページ数を数えてみると、1回目が391ページ、2回目が555ページ、3回目が353ページ、4回目が560ページ、5回目が646ページ、そして今回の6回目は、ついに1冊に収まらず、2冊で合計744ページになっています。1冊目のテーマは数学で368ページで、2冊目のテーマはテクノロジー、アート、教育でこちらは377ページなので、理科系有利な内容になっていますね。でも中には折り紙の歴史に関する論文も入っていて、非常に盛りだくさんなお得な本だと思います。

この本は論文集なので、著者はたくさんいますが、それをまとめるのが編集者です。今回の『Origami⁶』の編集作業は、三浦公亮氏、川崎敏和氏、館知宏氏、上原、Robert Lang氏、Patsy Wang-Iverson氏という6人があたりました。国際会議

6OSMEが終わってからこの『Origami⁶』が完成するまでには、それはそれでさまざまな面白い(?)逸話もあるのですが、最大の日本人功労者は、私の独断によると、館さんなので、苦労話は彼に譲ることにして、ここでは彼のおかげで、とても質の高い本ができたと報告するにとどめます。



▲写真1



▲写真2

○上原隆平(うえはら・りゅうへい)
＝北陸先端科学技術大学院大学・
情報科学研究科・教授。学内外のい
くつかの役回りが3月で無事に終わ
りそうでホッと一息ついています。
今後は折り紙研究に割ける時間が
増えそうなので、楽しみです。



さて、シアトルのAMSのブースでは、
『Origami⁶』の刊行記念として、
origami flash foldというイベントをや
るというビラ(写真3)が配られていま
した。何か楽しそうなイベントなので
行ってみると、なんと、論文の著者た
ちによる折り紙ワークショップが開催
されるとのこと。著者たちって…もし
かして私達ですか?…というわけで、
館さんや私は、急遽その場で教えても
らった折り紙を、一般のイベント参加
者に教えるという、なんだかアメリカっ
ぽいイベントにまきこまれる羽目にな
りました。とはいうものの、このイベ
ントのために作られた専用折り紙(写
真4)をもらえたので、それはそれで
良い思い出になり、楽しかったです。
さて、この話はこれで終わりではあり
ません。ワークショップのときに私の
隣で苦労している人がいたので、そ
の人に折り紙を教えてあげながら、よ
もやま話をしていました(折り紙をし
ながらって、なんとなく隣の人と話が
はずみますよね)。そして話の流れで
自分が『Origami⁶』の編集者であり、

中の論文の著者でもあると教えてあ
げると、ブログに書いていいか聞か
れたので、気軽にオッケーしたところ、
後日、AMSのオフィシャルブログに掲
載されてしまいました(<http://blogs.ams.org/jmm2016/2016/01/08/flash-origami/>)。しかも私は、自分
の研究成果を指さしながら、ものす
ごくうれしそうな顔で写ってます。私
の研究内容についても後で調べてく
れたみたいで、ブログでかなりきちん
と紹介してもらえたので、非常にラッ
キーでした。帰国後、大学に出張書
類を出したとき、「参加の証明になりま
すね」とこのページを事務方に教えた
ところ「すごく楽しそうな出張ですね
と…。はい、すごく楽しい出張でした。
いつもこうだといいなあ。

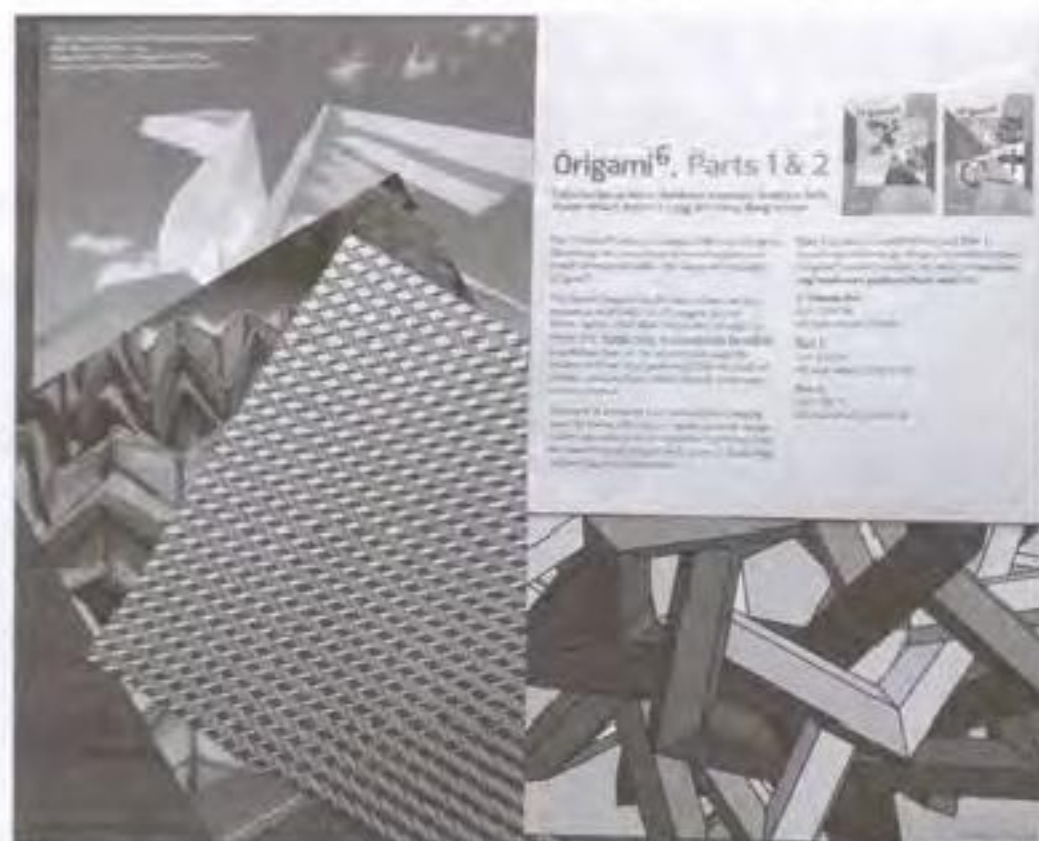
さて、シアトルではたくさん山積み
になっていた『Origami⁶』ですが、
その後、なかなか日本にまで届かず、
やきもきしました。結局2月の最初に
なって無事に手元に届きました。とも
あれ、こうして手元にある『Origami⁶』
をパラパラとめくってきれいな図を眺

めたり、じっくりと本文を読んだりし
ていると、もはや国際語となったオリ
ガミの守備範囲の広さと、奥行き
の深さを感じずにはおれません。この2
冊も、値段は安くないけど、じっくり
と長く読むことができ、まさにオリ
ガミの最先端の詰まった密度の濃い
本だということがひしひしと感じられ
ます。次回のOrigami⁷もさることな
がら、今後オリガミがどこまで広がっ
ていくのか、楽しみです。その中で日
本折紙学会の果たす役割りなどにつ
いても考えさせられるシアトル行でし
た。さすがにコンベンションに6000
人来る日は、そう簡単には来ないと思
うけど…。

おまけ：どうしても日本語
で読みたいという方には、
『ORIGAMI³』の抜粋の日本語訳が
あります(写真5)。当時の最新では
ありますが、今見ても、決して古
びていないところが興味深いです。
『ORIGAMI⁶』も要望があれば…関係
者の皆様、いかがでしょう:-)



▲写真3



▲写真4



▲写真5

ぼくらは 折紙探偵団

Here We Are, THE ORRIGAMI TANTEIDAN

第22回 布施知子 ORIGAMI 展～ただいま準備中～

Special Exhibition of Works of Fuse Tomoko in April 2016

来る2016年4月22日(金)から6月1日(水)まで安曇野市豊科近代美術館で開催される「布施知子ORIGAMI展～紙と折りのリズム～」。

1. はじまりの2015年11月(小原智美)

「知子の部屋」が2014年の12月に終了してしまい、布施先生にお会いする機会がなくなってしまって寂しい限りだった。年に一度なら「知子の部屋」ができるかもしれないという話を耳にしていたが、先生はお忙しい日々を過ごされていて、開催は難しいご様子だった。この残念な気持ちを布施先生にお伝えしたら、なんと、アトリエ訪問を快諾してくださった。そこで、布施先生に了承を得て川崎さん、川井さんに声をかけ同行することになった。

2015年11月、ちょうどこの日は火渡りというお祭りがあるということで、ドキドキワクワクしながら私たちは長野へ向かった。

久しぶりに布施先生に再会し、まずは蕎麦屋に寄った。そこで先生から「実はね、3人をお願いがあるの」と今回の折り紙展に関して次のような話を切り出された。「箱の展示室」を、私たち3人で考え、「あっと驚くような展示室」にしてほしいというのだ。私たちはびっくりした。びっくりしたまま火渡りを見物し、そして先生のアトリエにお邪魔した。

最初は大きな話に恐縮していた私たちに「無理そうなら断っていいのよ」と先生はおっしゃってくくださったが、こんな展示は? こういうのは? とどんどん乗り気になっていた。そして先生

はたくさんの箱を見せてくださった。先生の最初のお考えでは、先生の箱を使って展示方法だけ私たちが考える、のつもりだったけど、壁に貼ったり、糸を通す? こんな紙で折って見たらどう? と話しているうちに先生の作品を傷つけることはできないから、

★布施知子トリビア1★ 平織りを折るときの秘密兵器は耳かき

自分達で箱を折ろうという話になっていった。先生も「私たちが箱を折る」を前提に、箱の他にもさまざまな作品を見せてくださり、創作にまつわるいろいろな話をしてくださった。

すっかりその気になって先生とお別れしたけれど、本当に私たちの制作・展示で大丈夫なのか、期待と不安が入り交じっていた帰りの電車。でも、こんな機会は滅多にない! 時間はたっぷりある! 長野の紅葉を楽しむ大人の遠足は、大きな宿題を持ち帰ることになった。



▲2m×10mの紙を広げて折っているところ

このコーナーでは、折り紙に関連した幅広いトピックを探索して、ちょっと面白い雑学的な豆知識をご紹介します。読者からの疑問、質問、追加の情報も受け付けていますので、お気軽にwebman@origami.gr.jpまで電子メールでお寄せください。

小原智美、川井千世、川崎亜子

Ohara Tomomi, Kawai Chiyo, Kawasaki Ako

2. 公開制作の2016年1月(川井千世)

「箱の展示室」のお話から約3ヶ月。私たちはその間、展示方法の考案と箱の試作を重ね、展示室の下見を済ませ年を越した。そして2016年1月下旬、折り紙展のプレイベントである「布施知子作品公開制作」参加の為に、長野を訪れた。公開制作は美術館2階の一番広い展示室で行われた。来館者にお披露目するのは、アトリエであらかじめ付けられた印を元に折る作業、ゼロから印を付けて折る作業、大きく分けてこの2つだ。

まず入り口で靴を脱ぐ。そして膝当てをする。数名いるお手伝い要員は、知子さんに指示を仰ぎ、必要な道具を手にし、紙の大きさに適した場所を確保して紙を広げる……のだが、この時の緊張は半端ない。なんせ相手は2m×10mの大物にして、厚さは0.1、2ミリという、大変な気遣いを強いる存在なのだ。丁寧に扱わないとバリバリと音を立てて、自身で余計な筋を付けかねない。3、4人で呼吸を合わせ丁寧に広げなければ使い物にならなくなってしまう。次に印の付いている紙は折る作業に入るのだが、この印が光の加減で見えたり見えなかったりする上、強く折っ



▲巨大螺旋折りのチーム

では紙にヒビが入ってしまうし弱くては意味をなさない。視力と繊細さを要求される、地味だが重要な作業だ。最後、2枚貼り合わせる作業で、私たちは驚愕の光景を目の当たりにする。知子さんの付けた印を元に折った線は、1ミリのズレも無く、繋がるべき線と線に、全てピッタリと繋がったのだ。印は完璧だった。感動の瞬間だった。

多くの来館者、テレビ、新聞の取材。大盛況の内に公開制作は終わった。最終日は出来上がった作品を倉庫に運んだのだが、全ての作品が展示されるわけではない。当然、完成度の低いものはお蔵入りとなる。期間中も、時折見せる知子さんの厳しい瞳に、来館者に作品の説明をする知子さんの真剣な眼差しに、私はアトリエでお聞きした芸術家布施知子の、作品への想いを重ねた。翻って私は折り紙とどうありたいのだろう。どう向き合っていくのだろう。折り紙展の後、私は何を思うのだろう。ガランとした展示室で、ふと残りの人生を思った。

3. 箱折りの2016年2月(川崎亜子)

最終的には3人の持ち寄ったアイデ



▲来館者に作品の説明をする布施知子氏

アを知子氏がプロデュースした形で決定した。箱に使う紙はとても素敵だったがやや高価で、展示予定数から算出すると目玉の飛び出るような値段になってしまった。そこで知子氏が代理店を通して輸入元の会社に値段交渉をしてくれた。すると知子氏のこれまでの活躍とドイツでの展示会実績などに感銘を受けてくださり、なんと紙を無償提供していただく話にまとまった。なんだかオオゴトになっていた。ご自身の新作の企画・制作にも

★布施知子トリビア2★ 毎日の業務開始はNHKの朝ドラ終了後

お時間が必要だというのに、結局何から何までを知子氏のお力に頼るばかりで私たちは大変申し訳ない思いと、知子氏の発想力、行動力に感服した次第である。ようやく2月に入り、私たちは箱の制作に取りかかるのであった。最初の話から3ヶ月経って、ようやくである。

私は、知子氏はアスリートのようなとつくづく思った。作品と真摯に向き合い、自身を律し、日常の努力や時間を決して怠らない。ご本人が納得

▶最終日、お手伝いに参加した人たちと、布施知子氏を囲んで(前列中央・布施知子氏、右隣・小原智美、後列右から3番目・川井千世、後列右から4番目・川崎亜子)



○小原智美(おはら・ともみ)=カッターマット上の小宇宙で、箱と戯れるのを応援してくれる娘2人に感謝。今夜はシチューがいいなあ。

○川井千世(かわい・ちよ)=[あ、お手伝いはいいから。ん? 応援もいらない。お願いだからあっちで遊んで]箱作りは猫2匹の説得から始まる。

○川崎亜子(かわさき・あこ)=やんちゃな息子2人が喧嘩しないことが一番のお手伝い。おやつとゲームの与えすぎに要注意。

しない限り、一切の妥協を許さない。「プロとして当然よ」ときっと知子氏は軽くほほえむだろう。そんな日々の積み重ねが放出された時、ため息が漏れるほどの作品を生む。多くの著書を発表し、世界の注目を集め、各国でのコンベンションの招待作家によく選ばれる。世界各地での作品展も然り、多くの功績が評価され、紙を提供していただけるというプラスのループを発生させる。

そんな知子氏の作品展に微力ながらお力になれる感動をかみしめている。私たちの制作が素晴らしい展示の質を落とさぬよう、

知子氏の姿を少しでも見習いたいと強く思う。せめてものリスペクトとして私は箱を折る前には必ず石けんで手を洗うようにしている。

今回の折り紙展は、知子氏の膨大な作品のごく一部の展示にすぎないが、これほどの規模で知子氏の作品を一度に見ることができるチャンスはめったに訪れないであろう。是非会場でため息に埋もれていただきたい。

編注)関連写真をP.24に掲載しています。併せてご覧ください。

今号の折り図・展開図掲載作品より

解説：北條高史 (P.20-21)

Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue Comments: Hojyo Takashi (P.20-21)

いくら考えても解決しないことがあるときには、手指を動かす作業に集中してみる。

結局なにも解決しないかもしれないけれども、

なにかが微妙に変化したような気がしないでもない、かもしれない。

「南極ペンギンBOX」 作：川崎敏和(P.4)

Antarctic Penguin Box: Kawasaki Toshikazu (P.4)

■ユニットの箱なのに、しかも、「ぐらい折り」が表面にまったく現れない「45度を基本単位とした構成」なのに、たくさん集まるとなぜかシュールな光景になってしまう作品。そういえば、髪(?)の色分けも、魚をくわえるくちばしの構造も左右非対称。いろいろな部分に変則的要素が詰め込まれていて、それを発見する楽しさがあります。

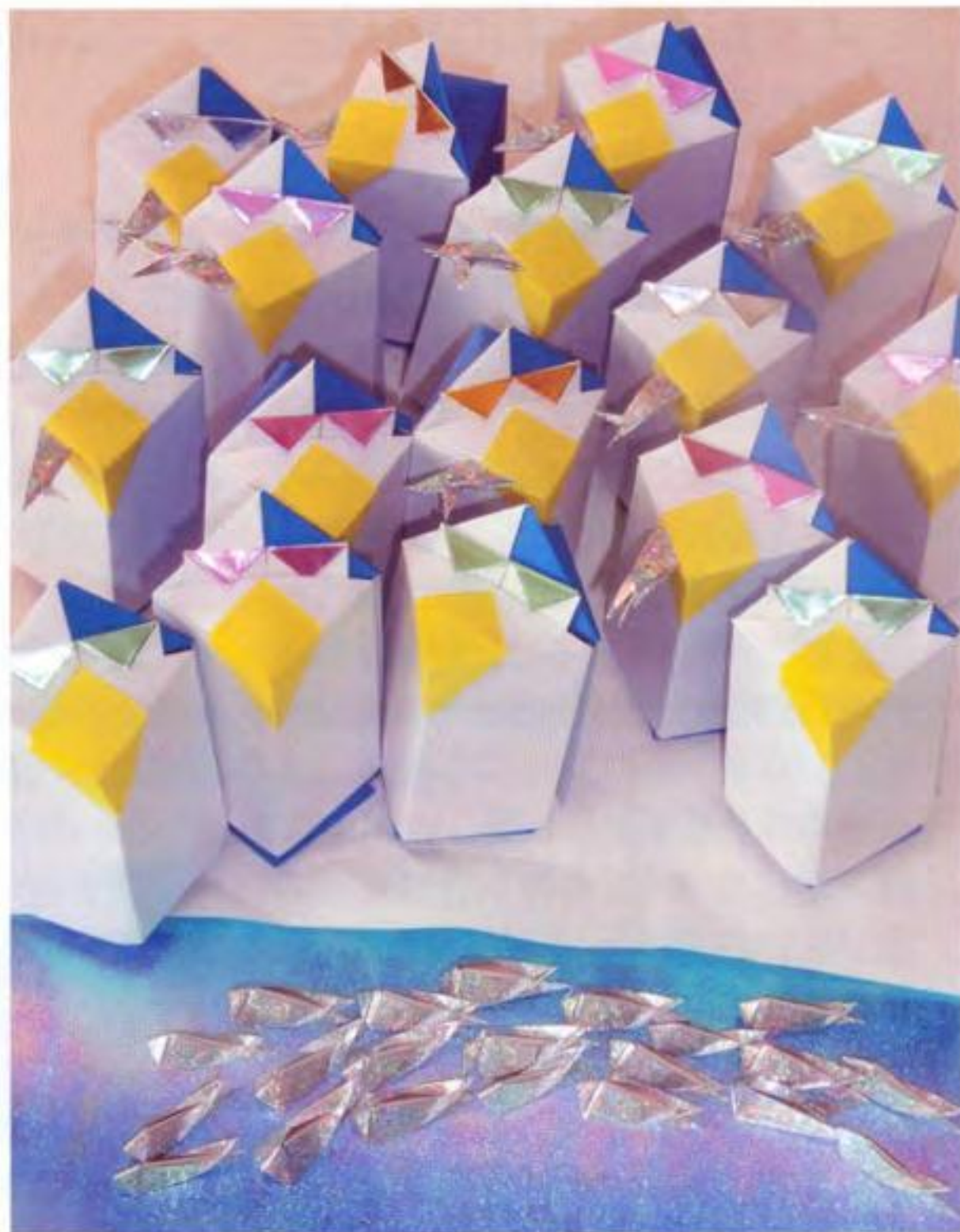


Photo by Kawasaki Toshikazu

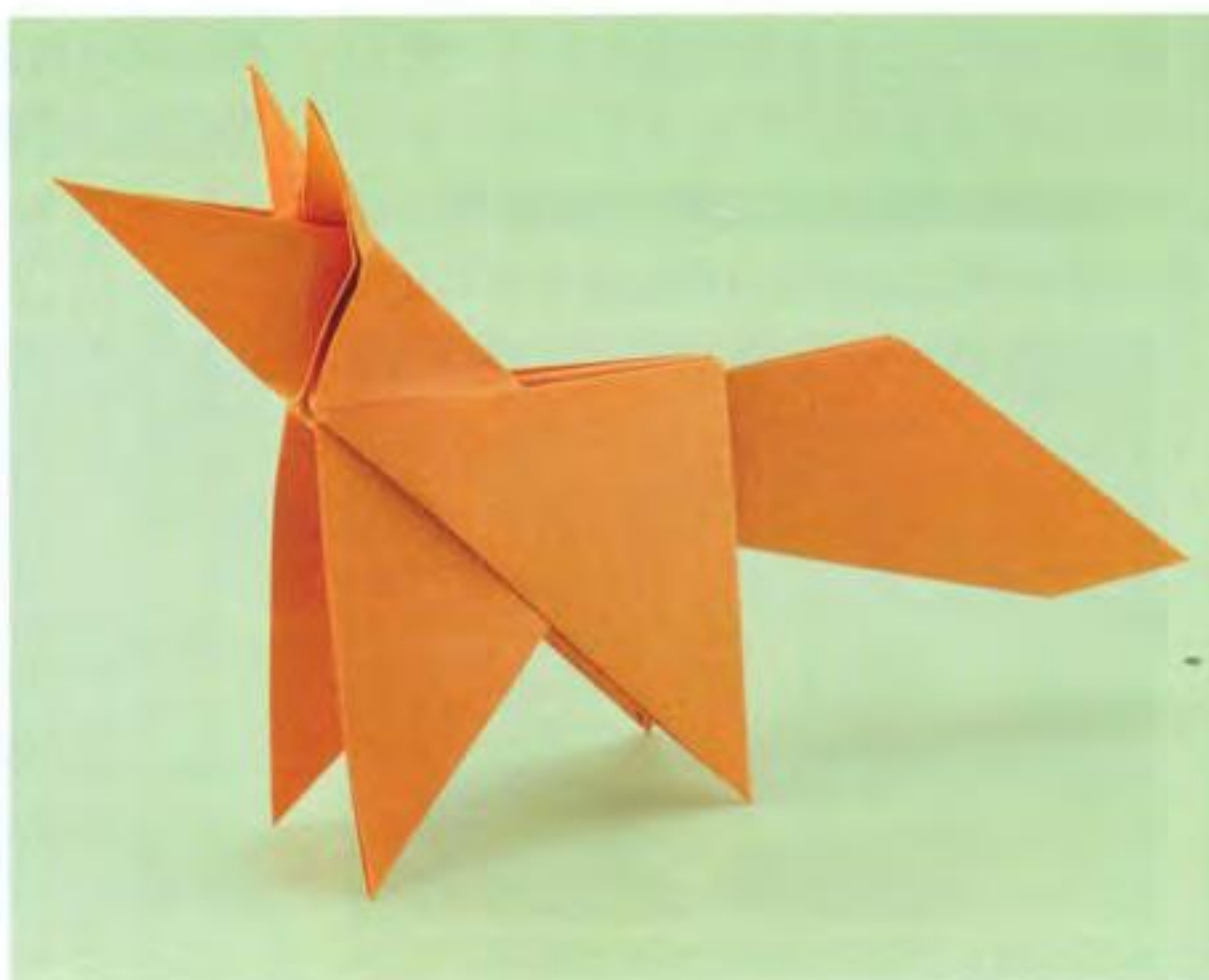
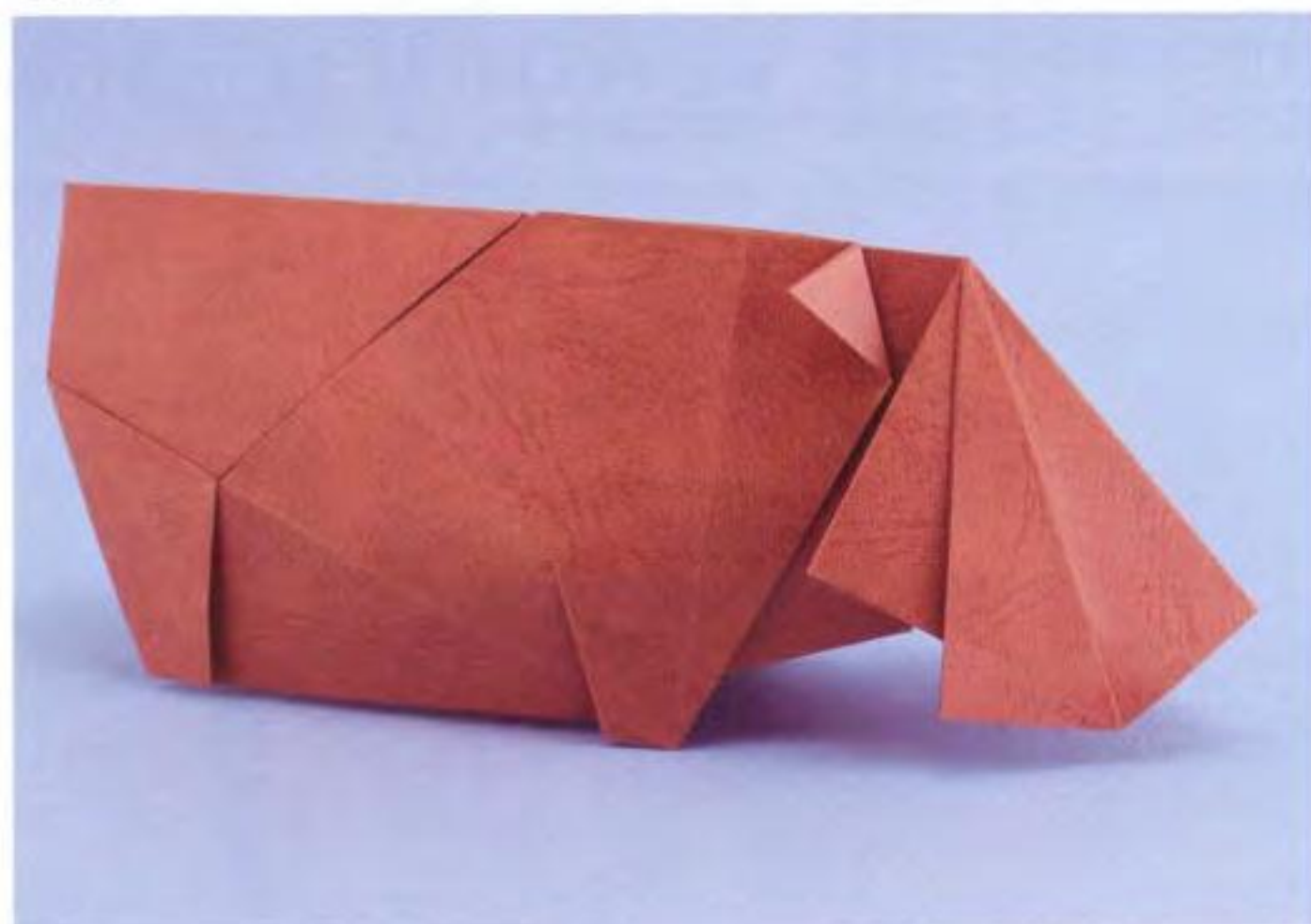
「カバ」 作：中村 楓(P.8)

「キタキツネ」 作：加茂弘郎(P.10)

Hippopotamus: Nakamura Kaede (P.8)

Sakhalin Red Fox: Kamo Hiroo (P.10)

■なにをつくっているのかまったく予想がつかない状態が続いてから、その次の工程で完成形のイメージが突然出現したり。間違っただけで解釈する余地がまったくない、きっちりとした規準を持つ工程のみで進めているにもかかわらず、表情豊かな動物が飛び出したり。何度も練習していると、それまでに気付かなかった魅力ポイントがさらに発掘されるかもしれません。





「シベリアンハスキー」 作：森澤碧人(P.26)

Siberian Husky: Morisawa Aoto (P.26)

■にらみをきかせた般若面のような顔に加えて、全身のすみずみにわたってインサイドアウト技法を活用した色分けが的確に配置されています。毛皮のボリューム感や、骨太で重量感のある体型を表現すべく、胴の立体感や脚の微調整にも気を遣ってみてください。



「シャコ」 作：今井幸太(P.36)

Squilla: Imai Kota (P.36)

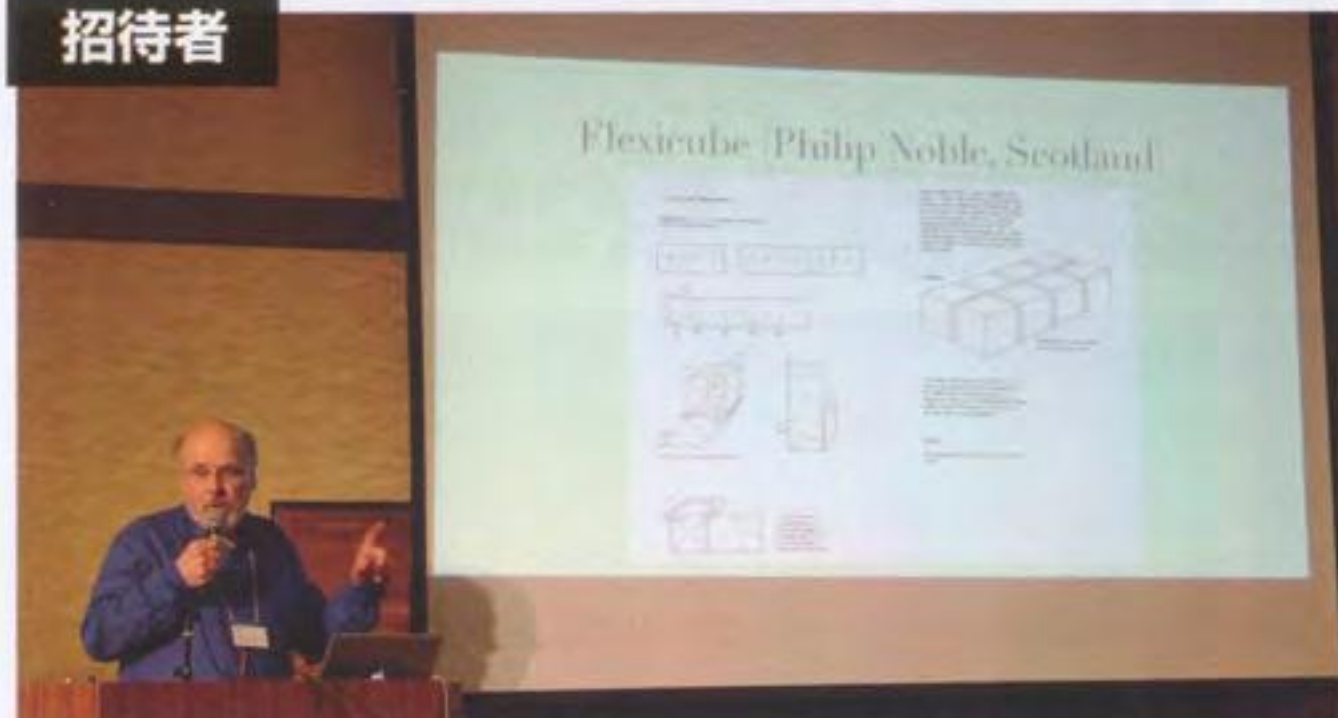
■背中側だけでなく腹側もしっかりとした作り込み。…というよりも、現代の技術でこの題材に取り組むならば、当然の如く腹側をしっかりと作り込んでほしい！ そんな期待に正面から、力強く応えている作品だと思います。複雑な節足動物作品では薄い紙を使わざるを得なくて、その結果として透けてしまう部分があったりして気になるものですが、この作品ではそのような透明感もよく合うようです。



第16回折紙探偵団関西コンベンションより

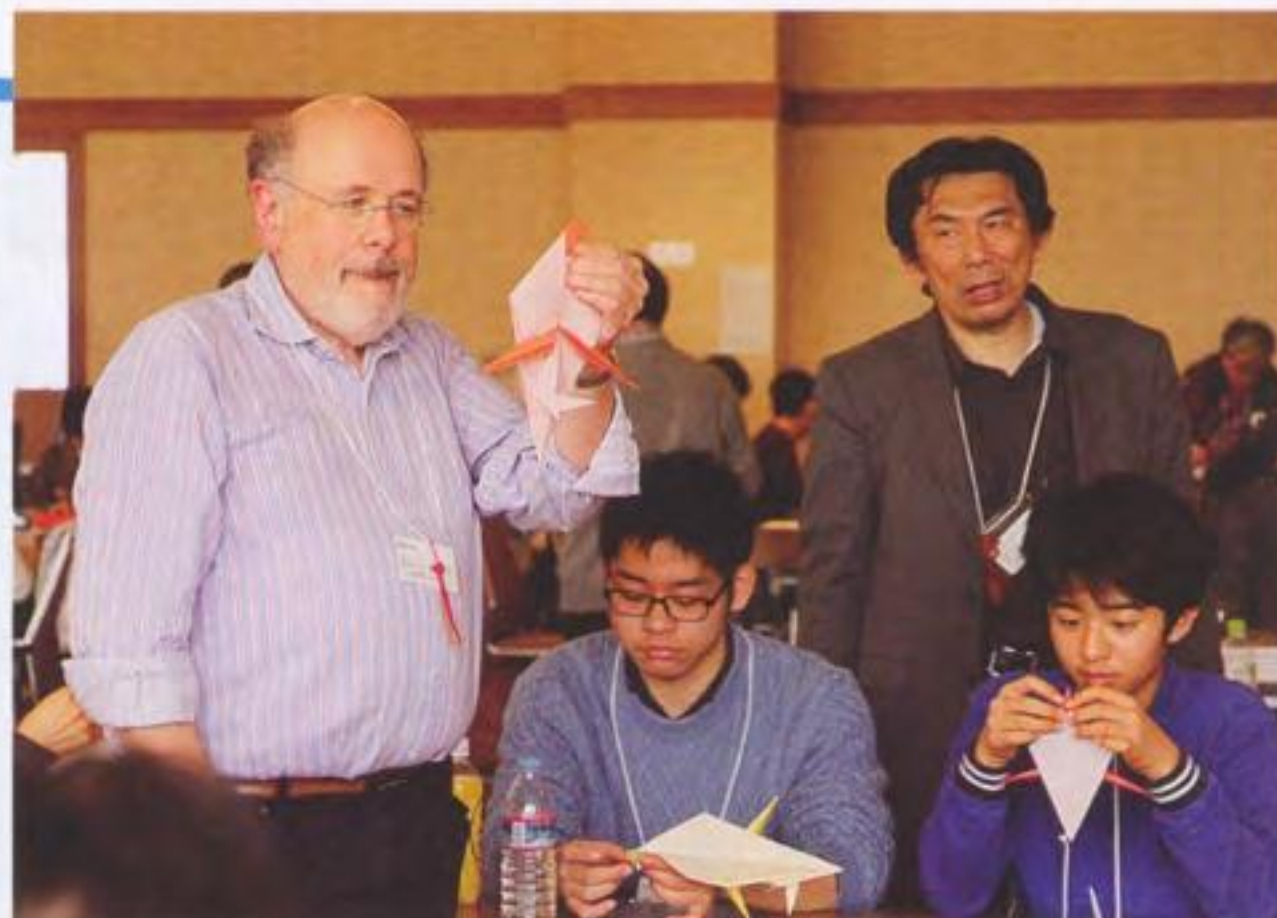
Photos from the 16th Origami Tanteidan Kansai Convention

招待者



▲ブリル氏の講演会では、ヨシモト・キューブのアイデアが、折り紙でどのように考えられてきたか歴史的にたどり、自身の作品を紹介した上で、今後の課題が述べられた

▶ブリル氏の作品は、折りの技術や描写力は勿論、モチーフ選びや着眼点のセンスが光る



▲今年のスペシャルゲストのデビッド・ブリル氏(左)と、折紙探偵団関西友の会代表の立石浩一氏(右奥)



折り紙講習



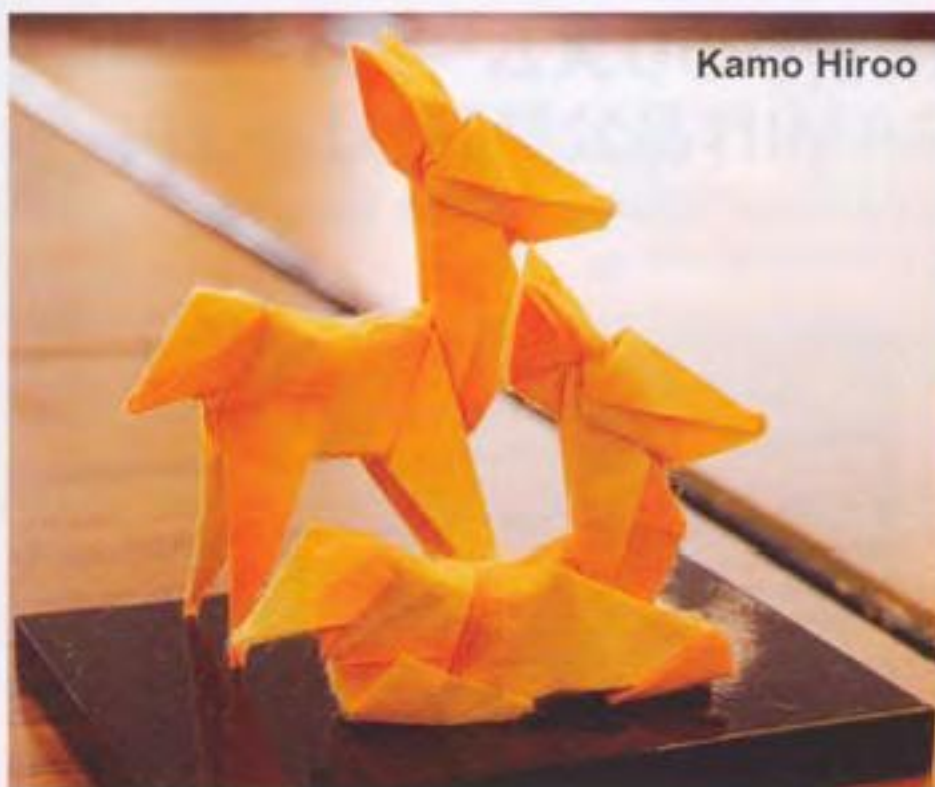
▶講習は、広いホールを6つに仕切って行われた



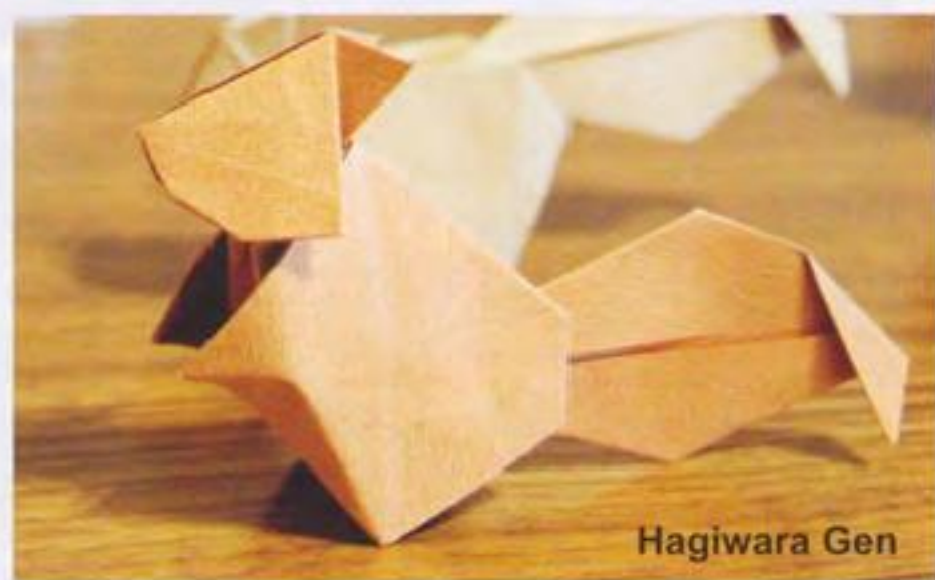
展示作品



Kitanishi Kazuki



Kamo Hiroo



Hagiwara Gen



Hashimoto Haruka



Kawamura Miyuki



Nakamura Kaede



Yuki Shingo



Hashimoto Haruka

展示作品コンテスト



Ishii Seichi

◀ 参加者が気に入った作品に投票する、展示作品コンテスト。大人の部で1位だった石井誠一氏(左)と、子どもの部で1位だった馬場真澄くん(下)の作品



Baba Masumi



◀ 喜びを語る石井氏(左)と、馬場くん(下)



Fukuroi Kazuki

スタッフの皆さん



▲ 関西コンベンションスタッフの皆さん、ありがとうございました。そしてお疲れさまでした!

「布施知子 ORIGAMI展～紙と折りのリズム～」の プレイベント「布施知子ORIGAMI作品公開制作」(P.18)

The Pre-Event Open Studio Performance by Fuse Tomoko for the Special Exhibition "Fuse Tomoko: The Rhythm of Paper Folding" (P.18)



Photos by Kawasaki Ako, Ohara Tomomi



▲布施知子氏(右)とお手伝い筆頭の横田敬子氏



▲2m×10mの紙をひたすら段折り

第26期会員特別配布資料(P.38)

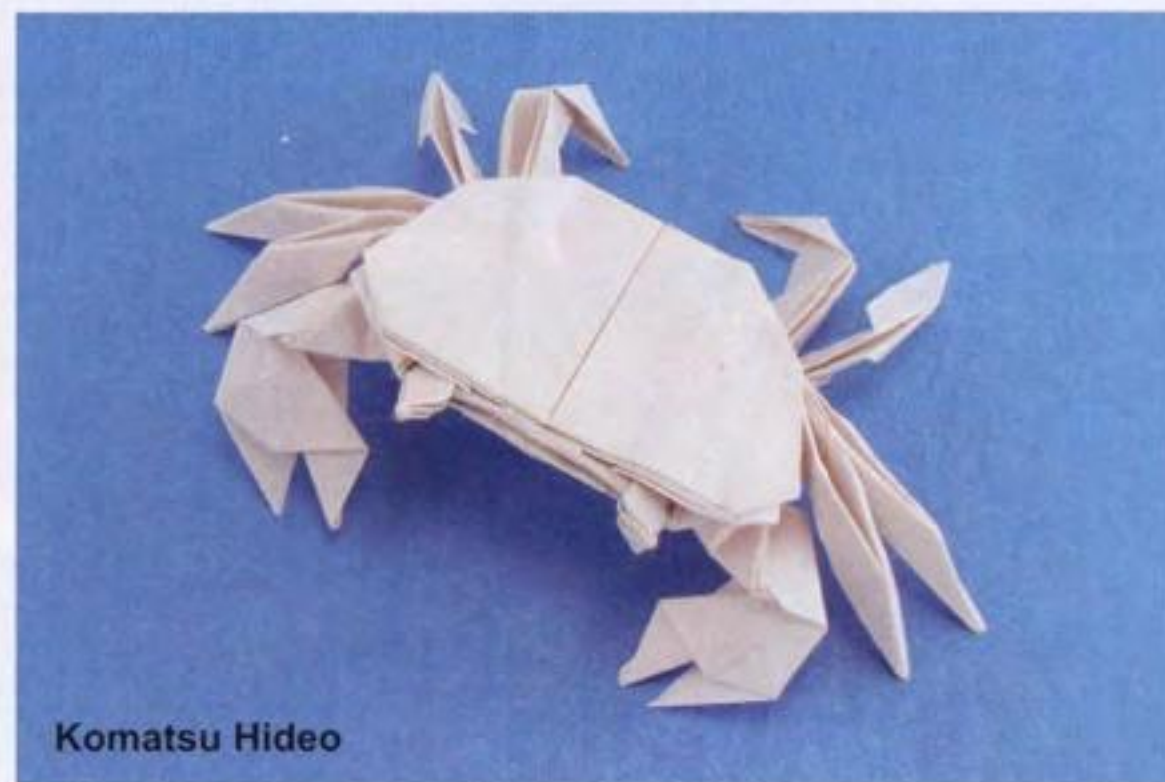
The 26th Members' Special Materials (P.38)

■今期の配布物は、ロバート・J・ラング氏の「キリギリスHP」と小松英夫氏の「カニ」の折り図に決まった。



Robert J. Lang

Photo by Robert J. Lang



Komatsu Hideo

4月おりがみはうすにて開催:三谷 純作品展より(P.41)

Special Exhibition at Origami House: Mitani Jun's Works (P.41)

■4月1日より、三谷 純氏の折り紙作品展が、おりがみはうすで開かれる。会期中のワークショップも企画中なので、ぜひ参加していただきたい。

▶結晶の境界…紙のシャープな折りでメリハリの付いた造形



Photos by Mitani Jun

▶歌舞伎顔…曲線が多用され、コンピュータを用いた設計技術がいかなく発揮された造形



折紙探偵団東京友の会例会より

From the Regular Meeting of
Origami Tanteidan Tokyo Group



Imai Kota



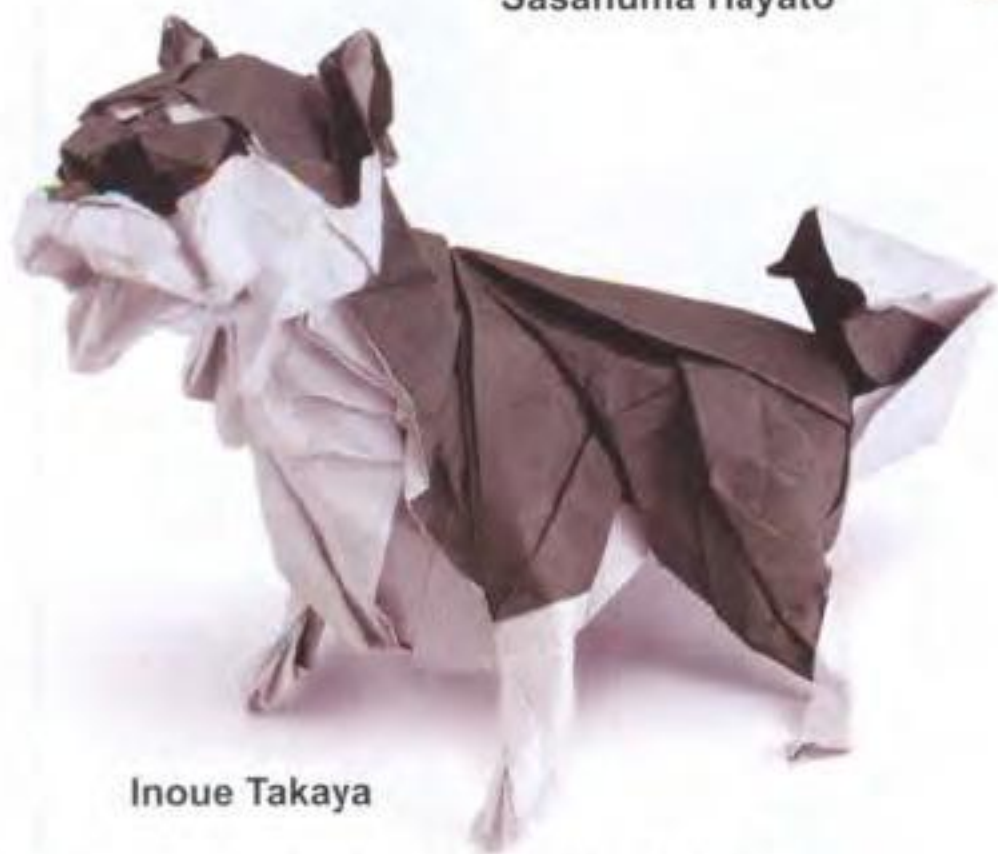
Nakamura Kaede



Sasanuma Hayato



Katsukawa Higashi



Inoue Takaya



Mizuno Yo (age 9)

OrigamiATC研究会より

To the Participants of the OrigamiATC Workshop

■ATCとは、アーティスト・トレーディング・カードの略。2.5×3.5インチ(64×89mm)のカードに好きなように表現して、交換するというものだ。OrigamiATC研究会は、JOASホールで2ヶ月に1回程度開かれている、折り紙を使ったATC愛好家の集まりだ。2月4日の交換会では、「音楽」をテーマにしたカードが集まった。直接(リアル)参加6名、郵送参加は19名、合計25名であった。

次回4月6日(水)の交換会のテーマは「旅」。旅から連想するもの(事)なら何でもOK。カードのサイズを守りつつ、自由な発想で取り組んでいただきたい。

※長方形以外のカードを作る場合は、2.5×3.5インチ(約64×89mm)にカードが内接するようにすること。

▼2月の交換会に集まったカードから(敬称略)



「猫も音楽」／内河弘一・作
使用作品:ねこ、いぬ、たこの足
(山口 真・作)、キス(松野幸彦・作)



「雪」／内河和美・作
使用作品:雪の結晶(雪くちなし応
用:布施知子・作)、木(朝日 勇・作)



「春の足音」／山本千佳子・作
使用作品:こびと(石倉君代・作)、トラン
ベツト(布施知子・作)

この黒枠が2.5×3.5インチ
(64×89mm)▶

次回OrigamiATC交換会:2016年4月6日(水)の
郵送参加方法(2016年4月4日必着)

◆作品規定

- ・2.5×3.5インチ(64×89mm)で作成する。
- ・折り紙の要素を1つ以上入れる。
- ・定形郵送するため、厚みは8mm以下にする。
- ・テーマ:旅(旅から連想するものなら何でも)
- ・裏面には、A.作品の題名と、B.作者名(ハンドル可)、C.使った折り紙作品の名前と創作者名、又は参考文献名とその著者名の3つを必ず記入のこと。できれば、作成日や通し番号、コンセプトも書くといよい。

◆応募方法

- ・OrigamiATCを3枚(1口分)を作り、宛名(名前に「様」も)を記入して82円切手を貼った返信用封筒を同封し、おりがみはうすへ送付する。
- ・返信用封筒(1口ごとに1枚)は、「長形3号(120×235mm)」を使うこと。

Origami Artist Trading Card

Title:	大輪のバラを君に。
Theme:	赤 (Red)
Name:	スタッフhanako
HP, ブログ:	スタッフhanakoのおりがみはうす日記 http://ameblo.jp/hanako-origami/
作品について	折り紙の作者名・作品名を記入 「バラ (山口 真・作)」 「すてきな花の折り紙」(HP)より
	2014年1月15日

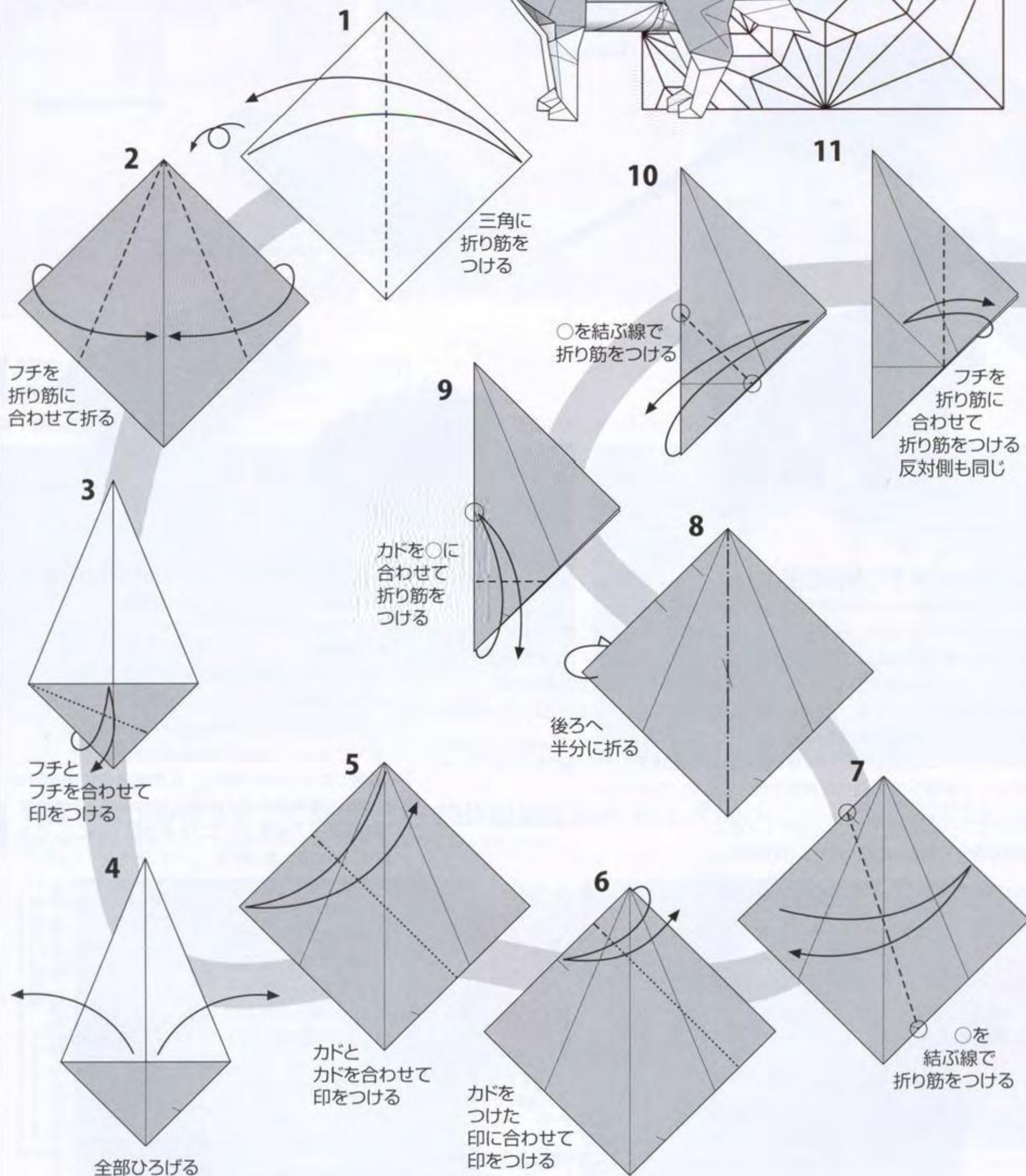
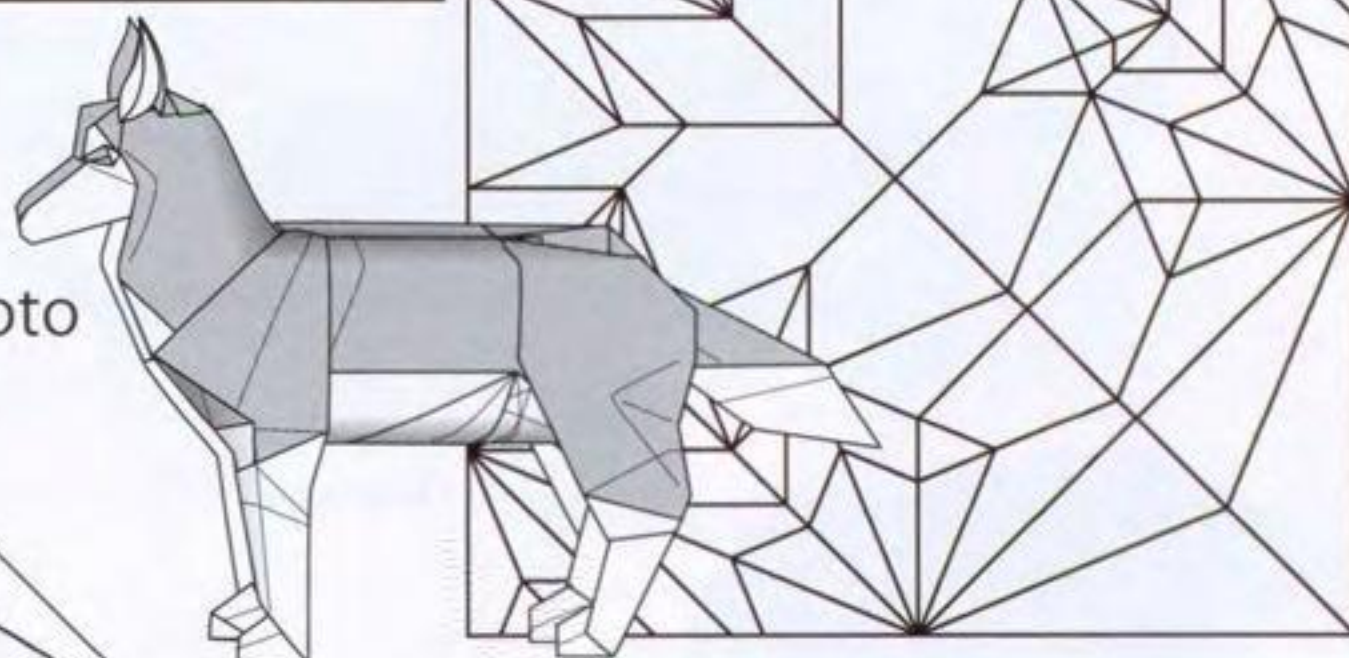
▲裏面表記の例

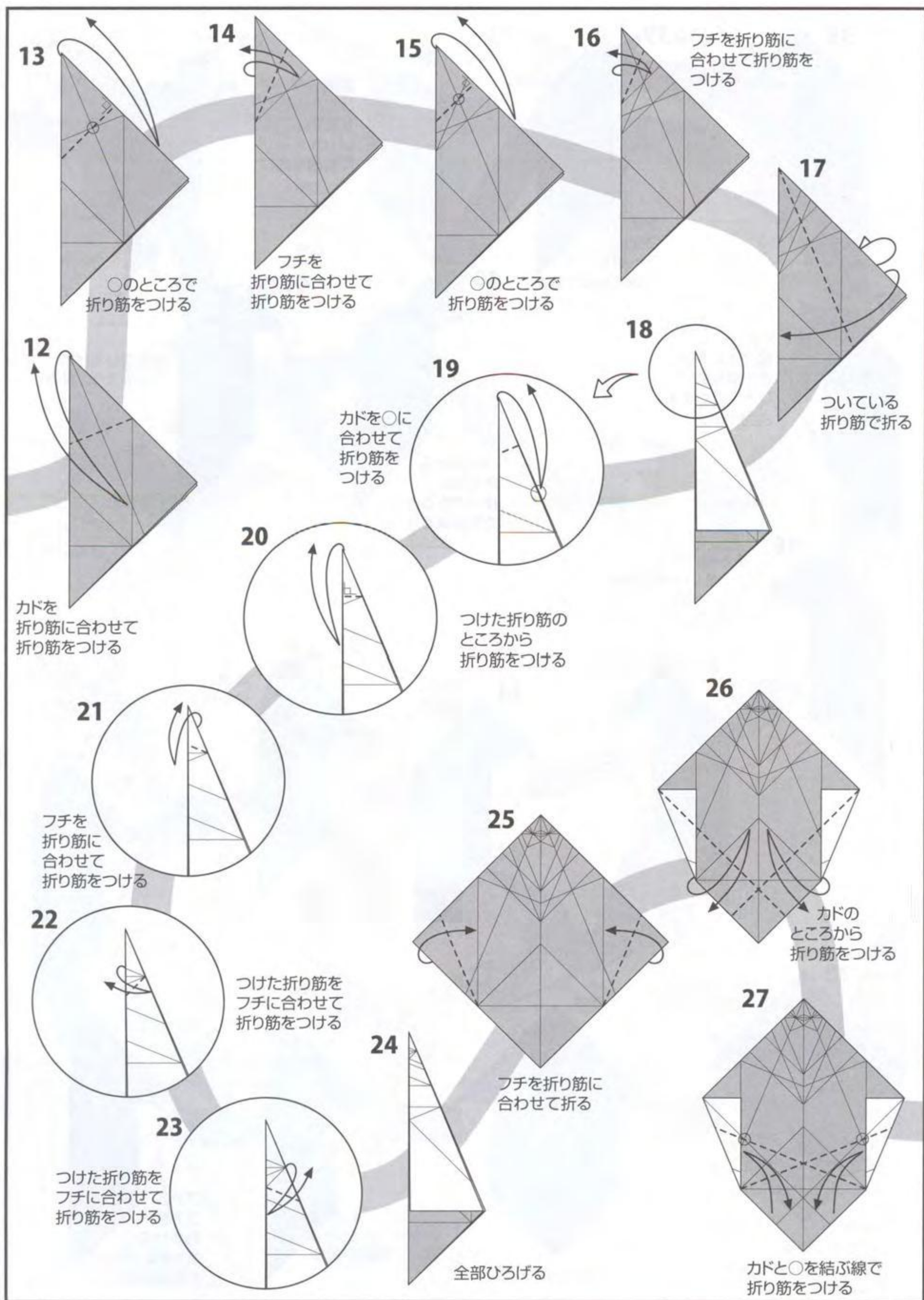
シベリアンハスキー

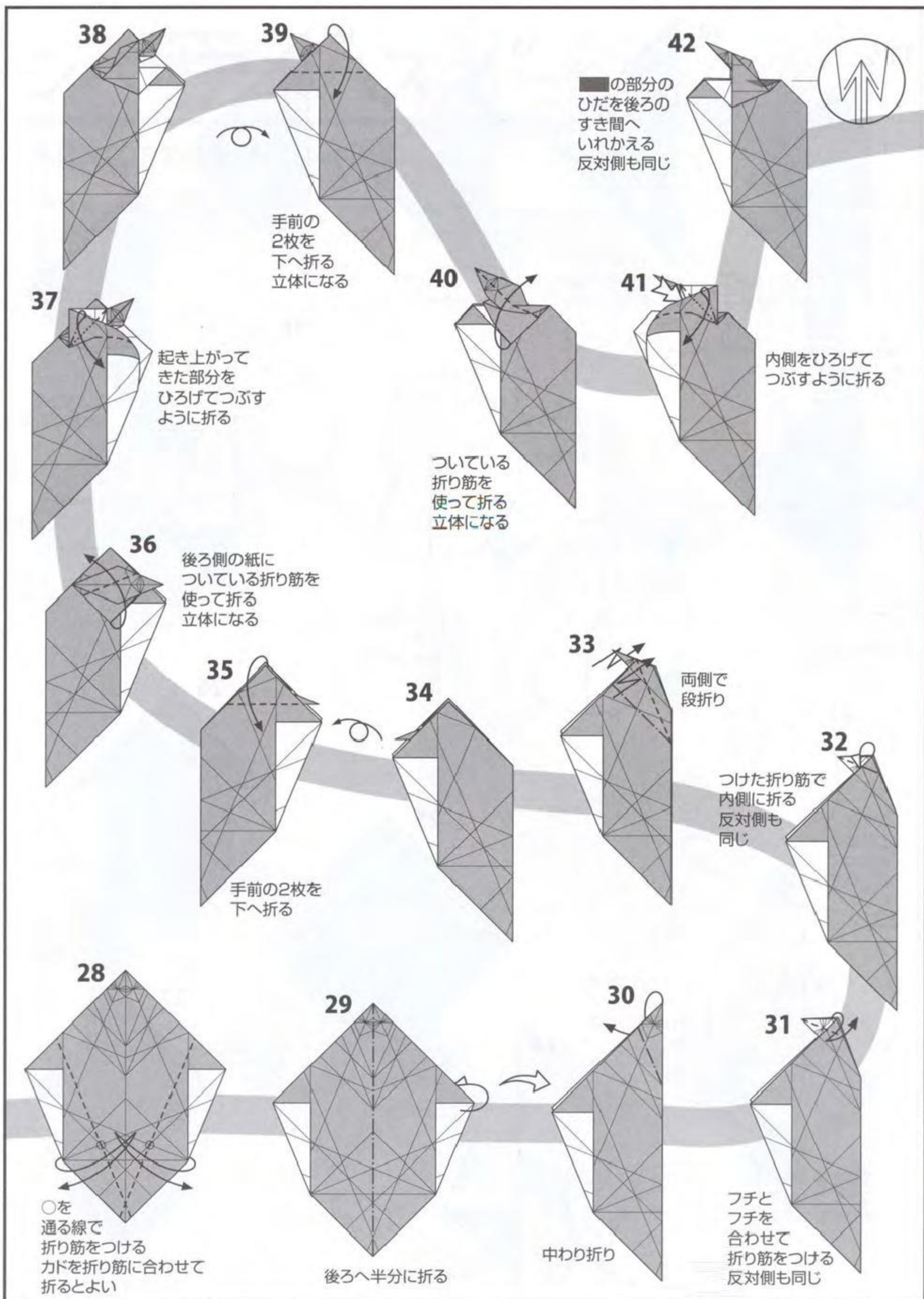
Siberian Husky

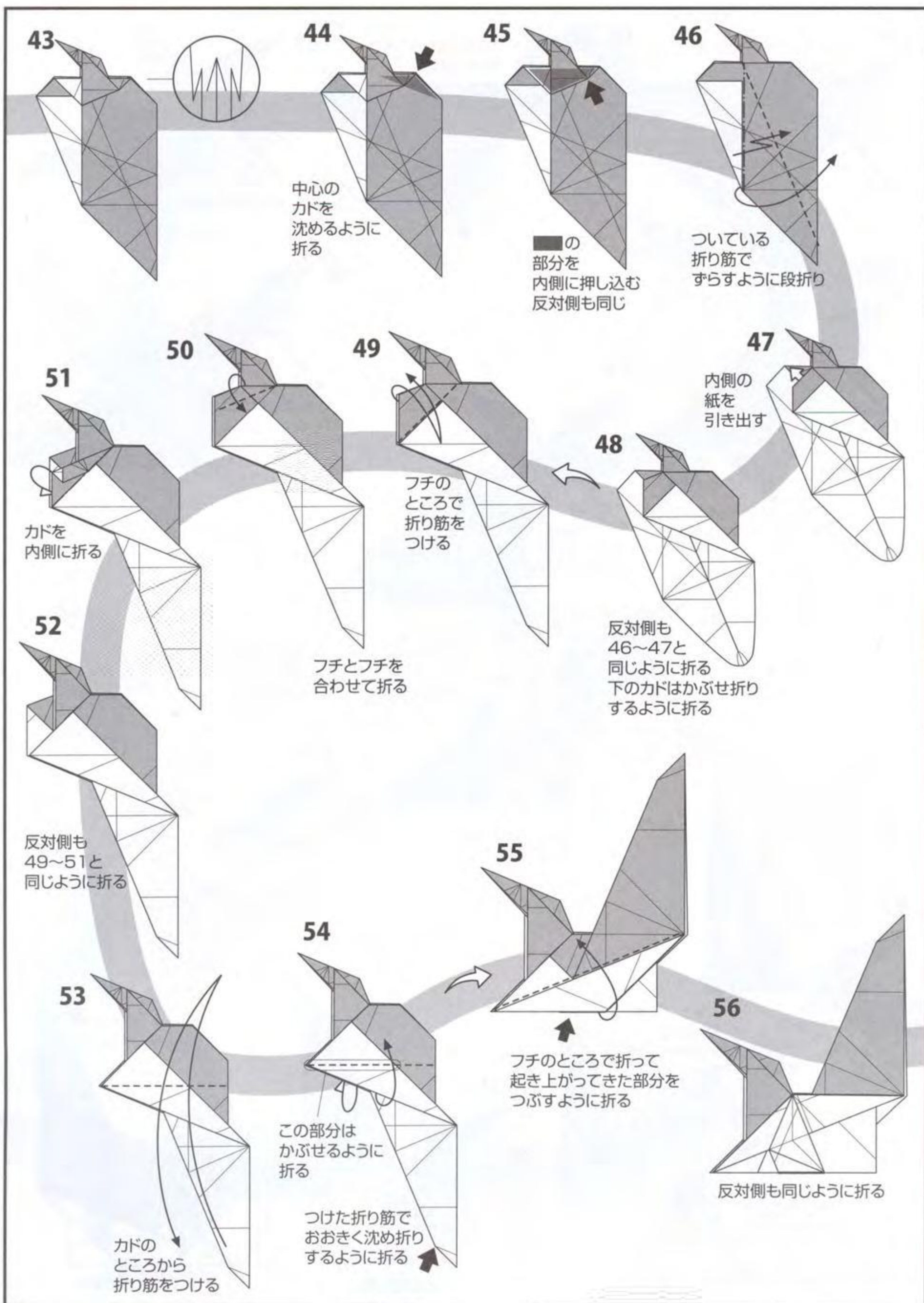
作・図 森澤碧人

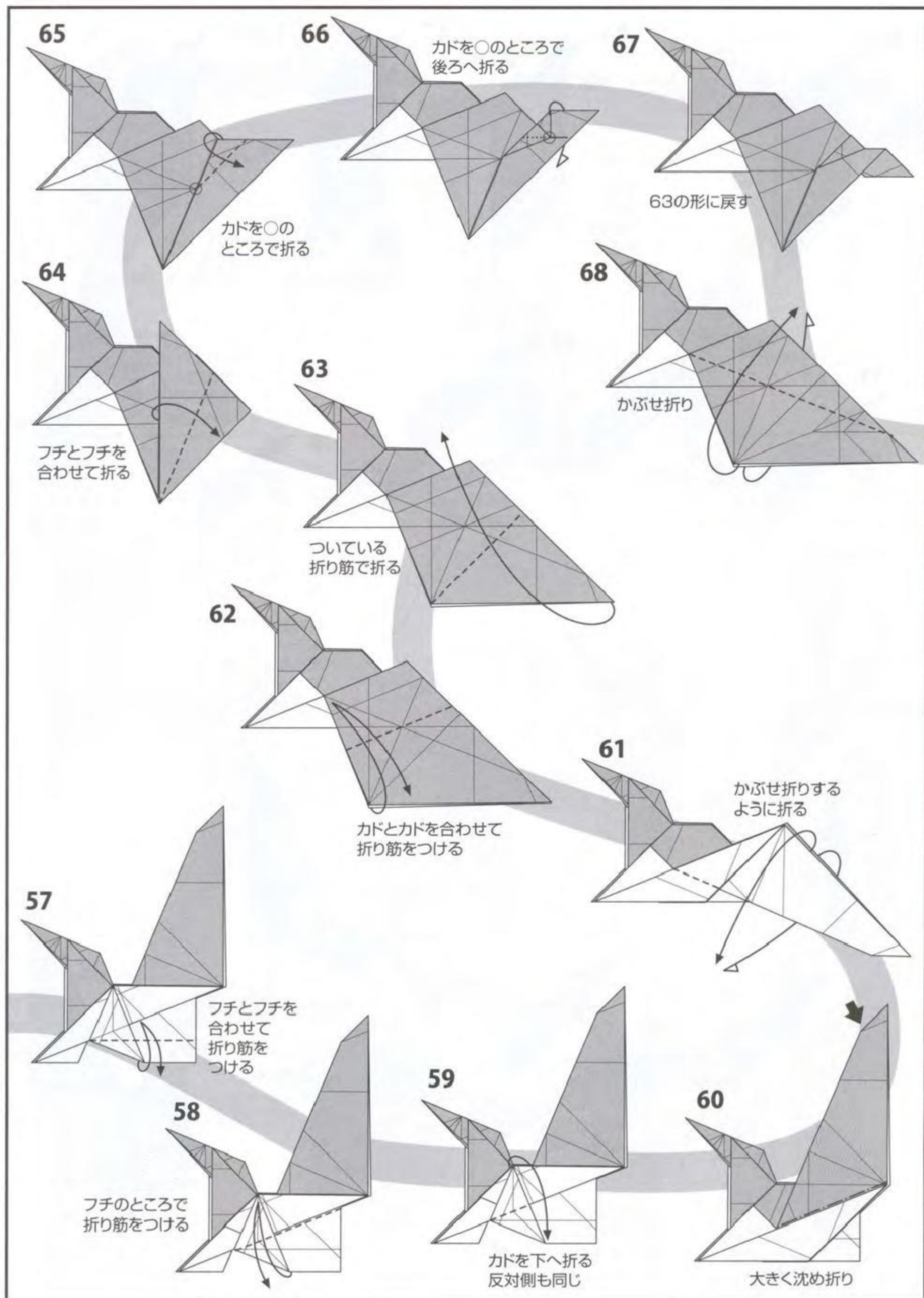
Model and Diagrams Morisawa Aoto

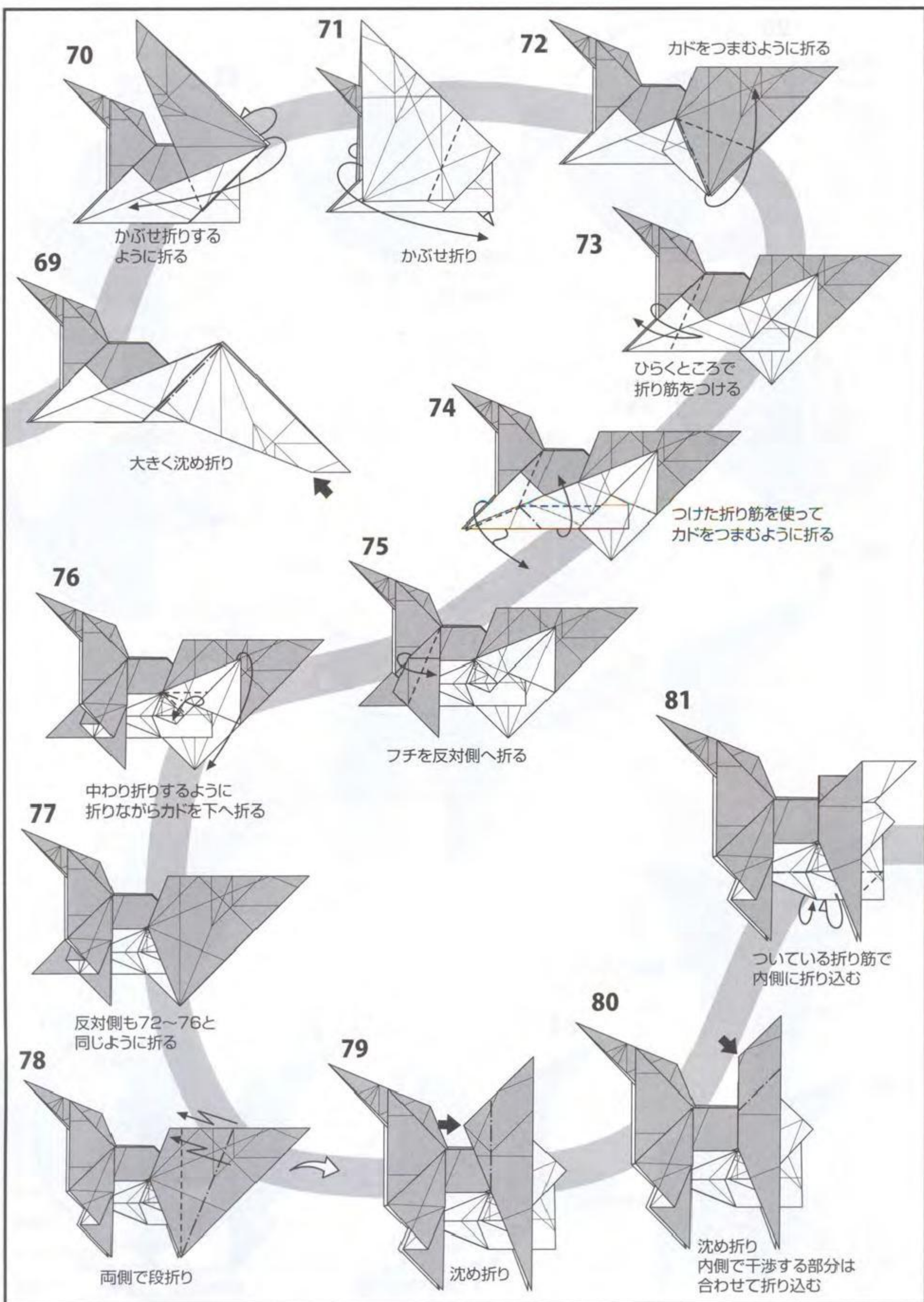






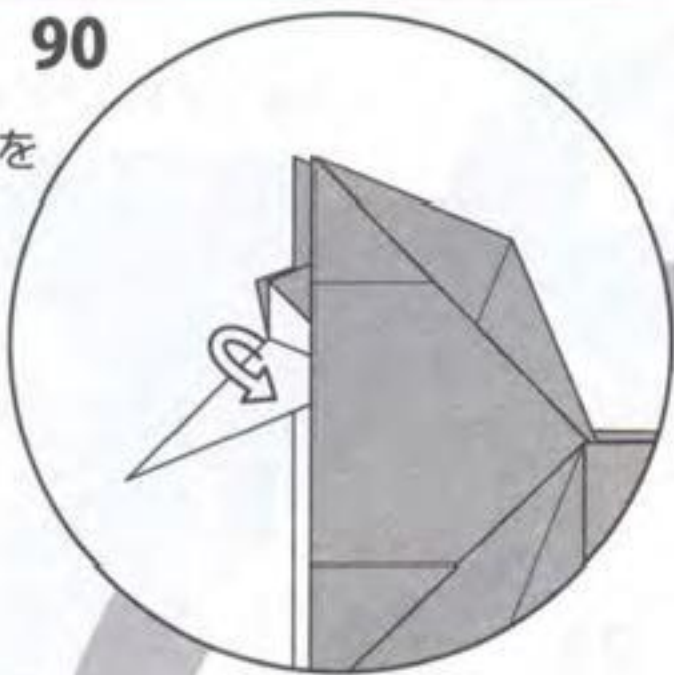






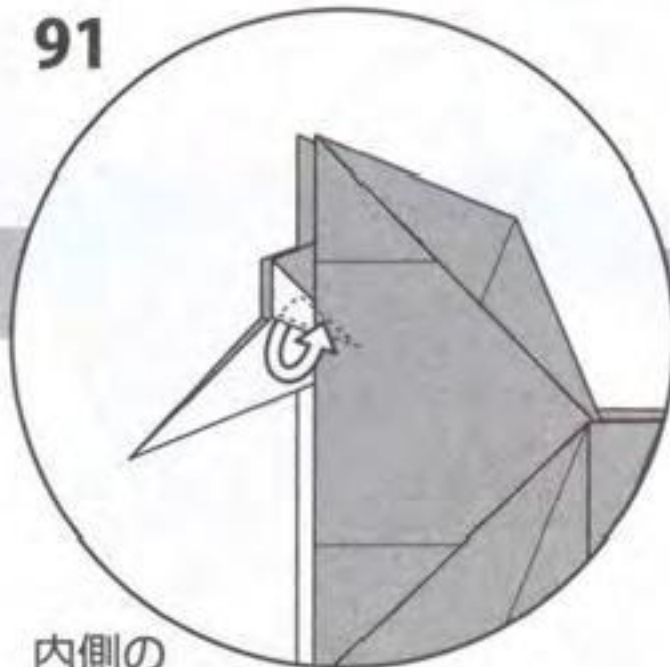
90

紙の重なりを
はずす
反対側も
同じ



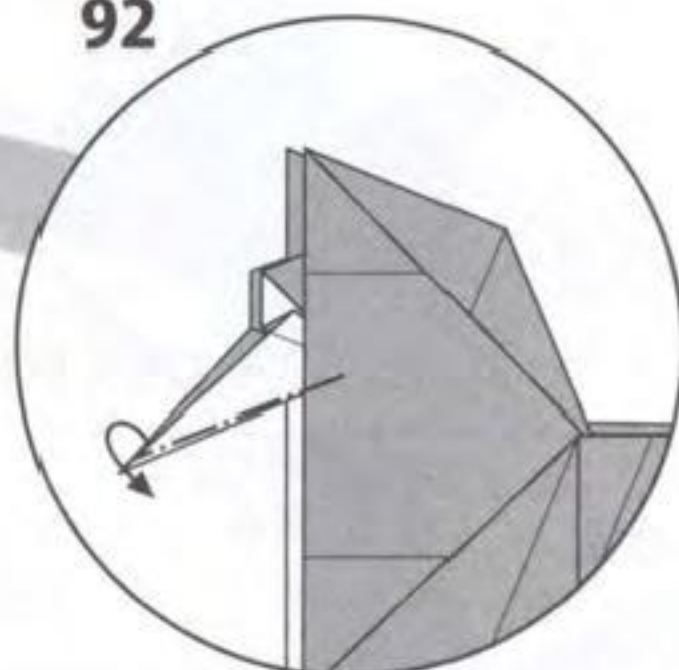
91

内側の
カドを出すように折り直す
反対側も同じ



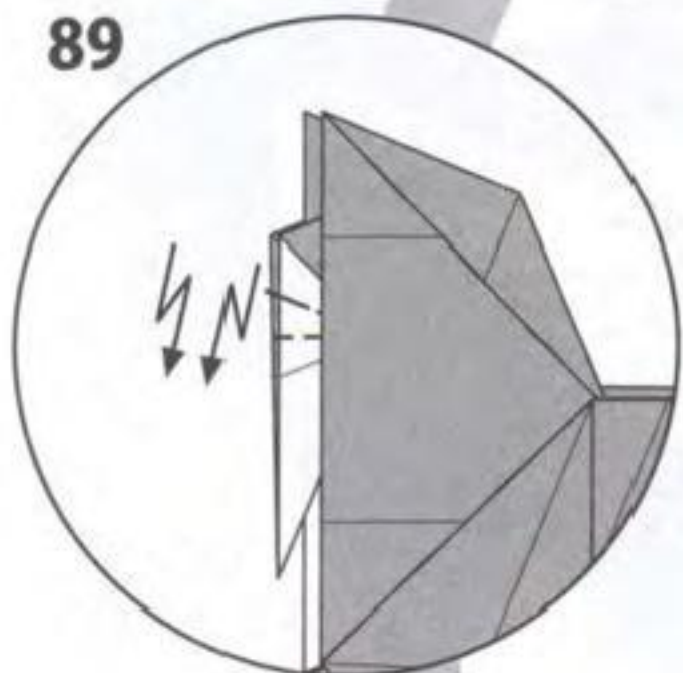
92

フチを少しずらすように折る
反対側も同じ



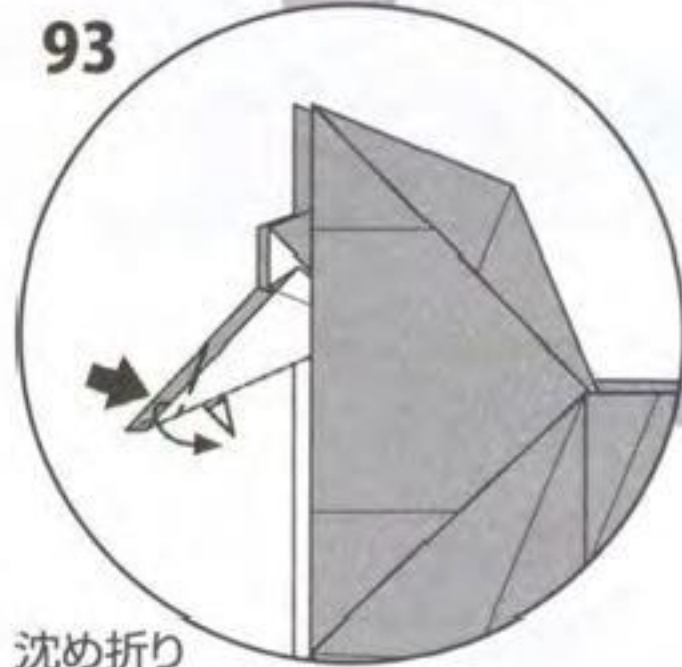
89

両側で
段折り



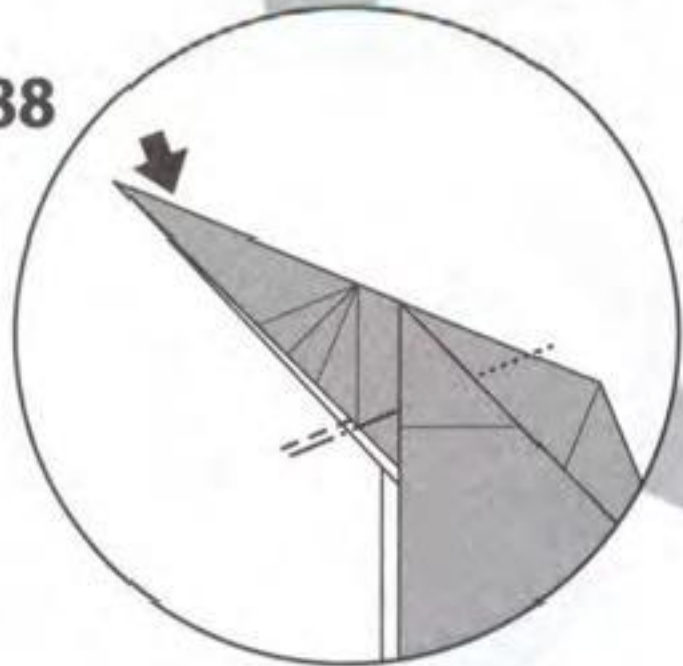
93

沈め折り
両側の部分は
かぶせるように折る



88

ついている折り筋で
沈め折り

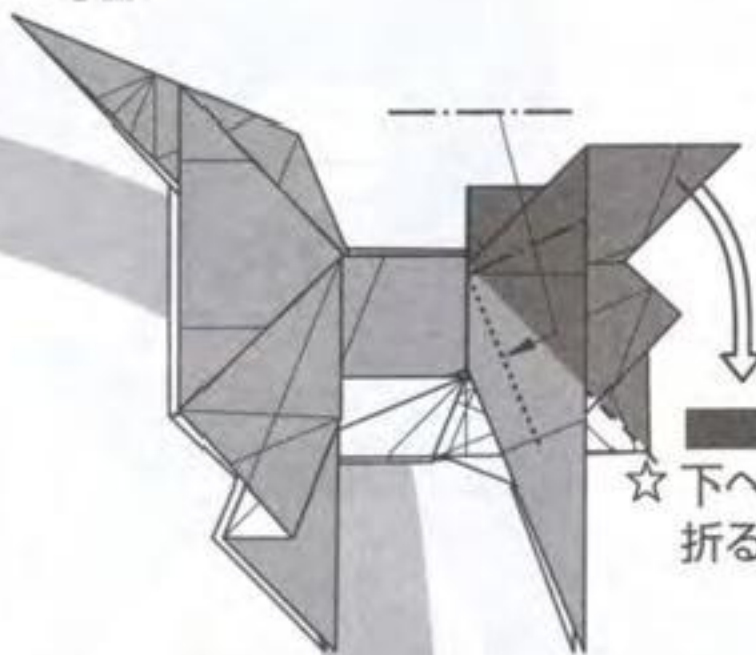


87



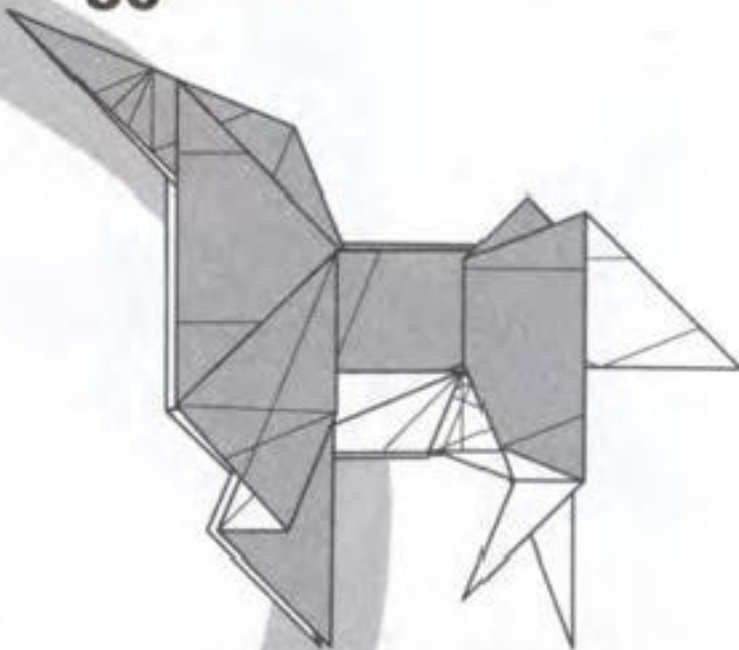
82

■の部分
☆下へずらすように
折る



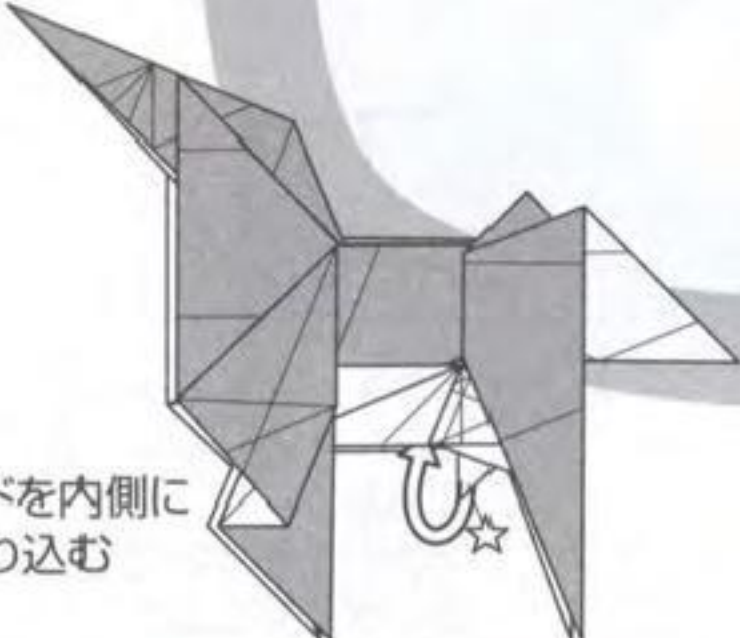
86

反対側も84~85と
同じように折る



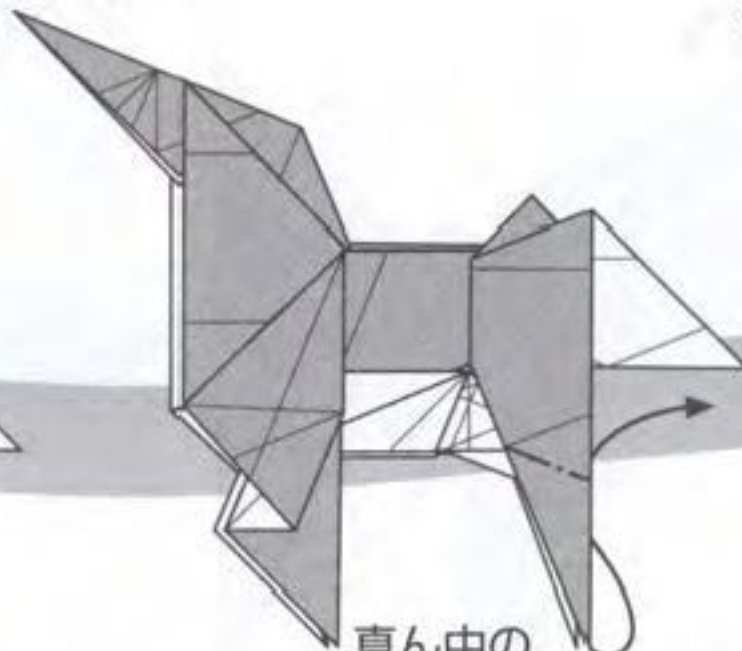
83

カドを内側に
折り込む



84

真ん中の
すき間で中わり折り

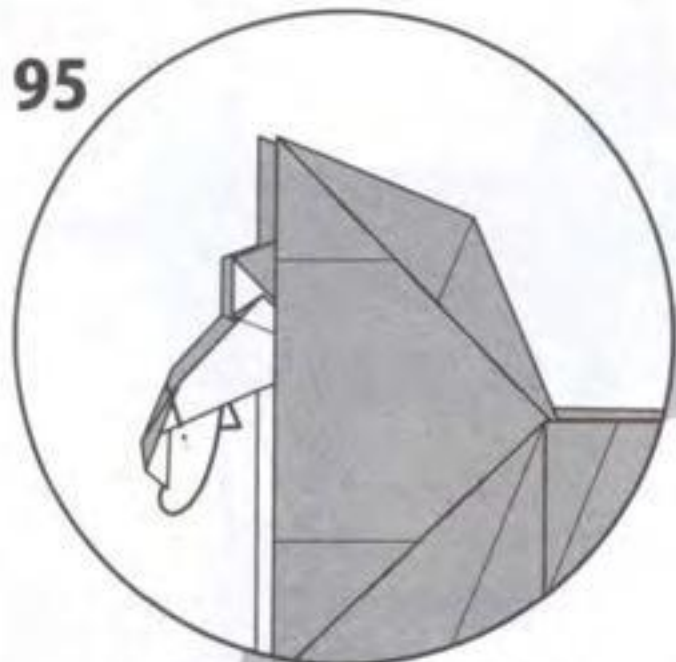


85

カドを後ろへ折る

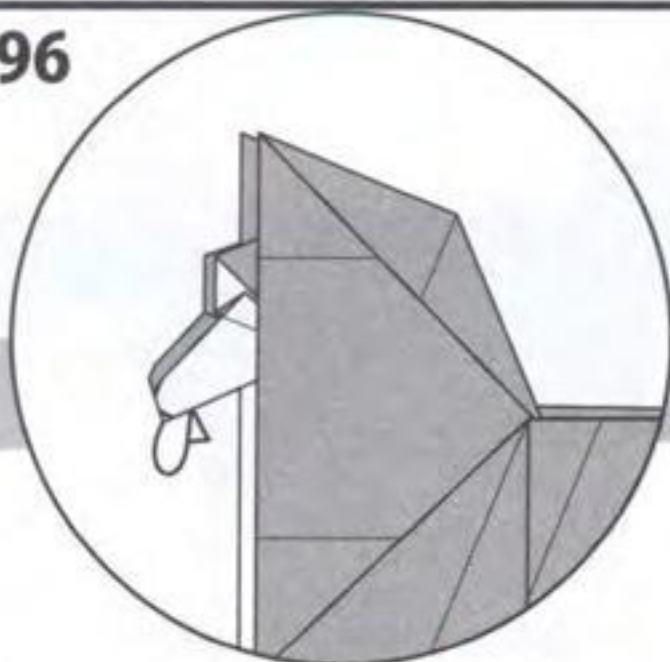


95



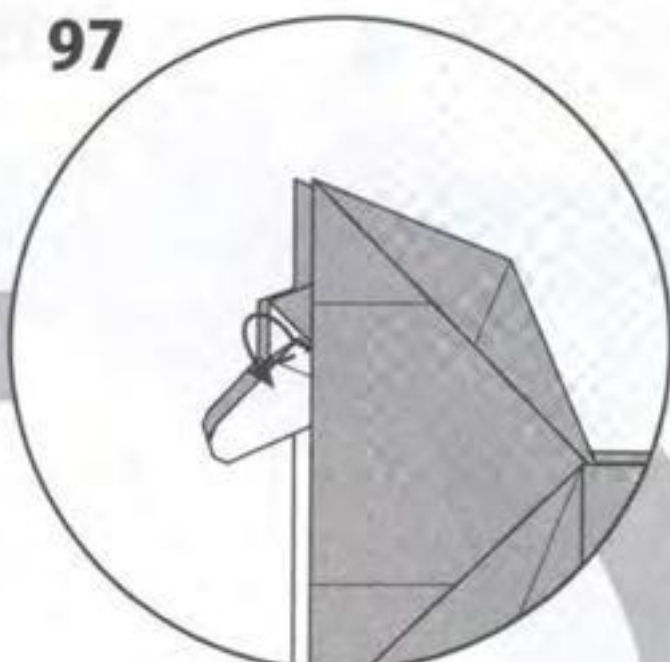
カドを内側に折り込む

96

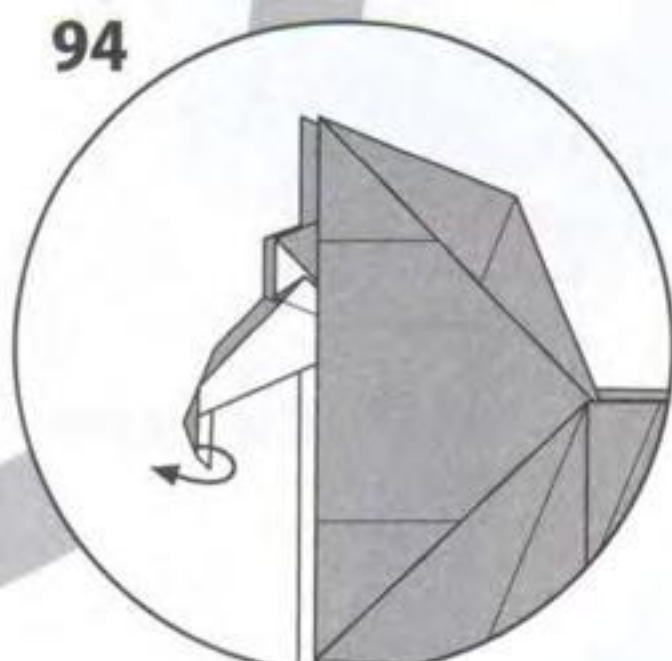


カドを内側に折り込む

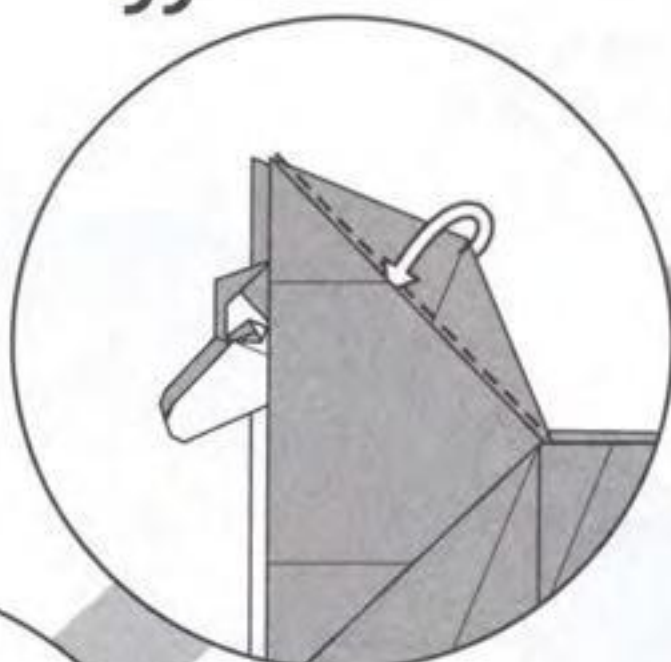
97

すき間を
ひろげて
つぶすように
折る

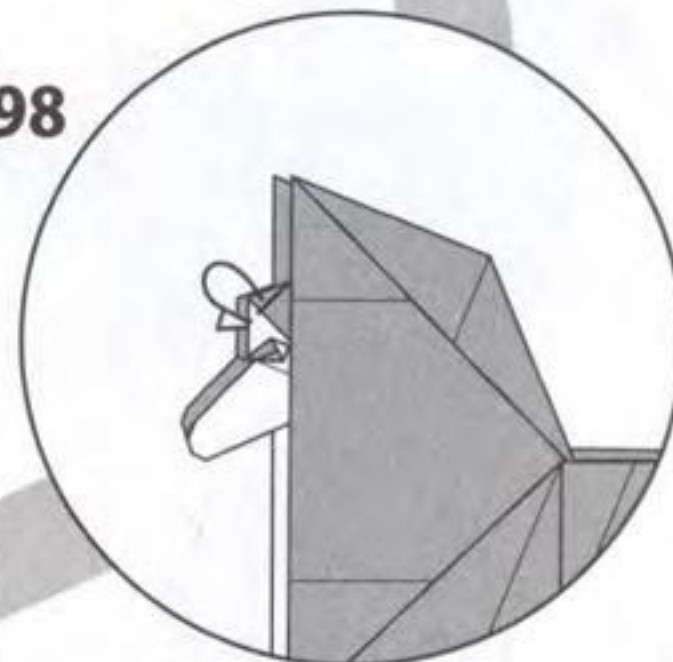
94

少しずらすように折る
反対側も同じ

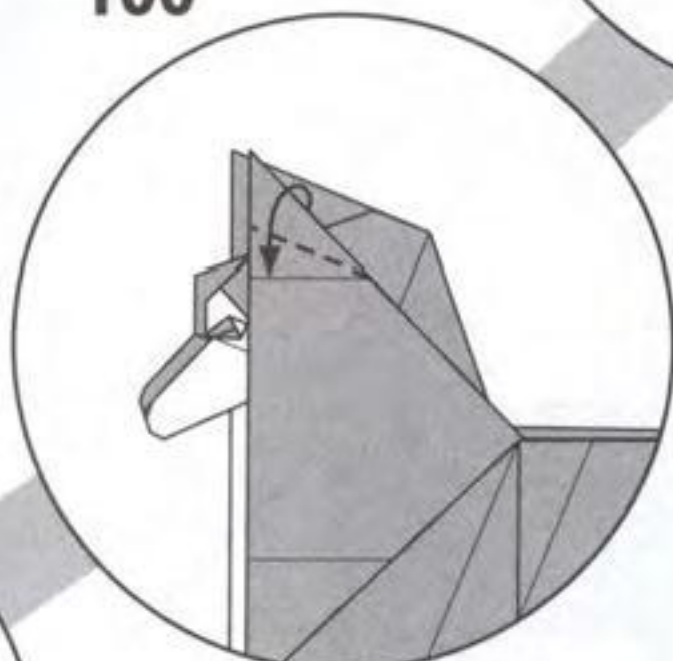
99

カドを手前の
すき間に折り込む

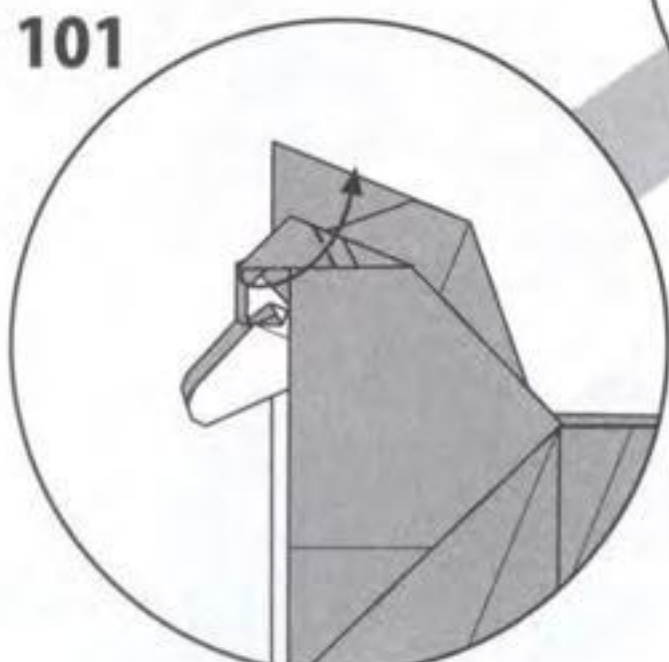
98

カドを後ろの
すき間へ折り込む

100

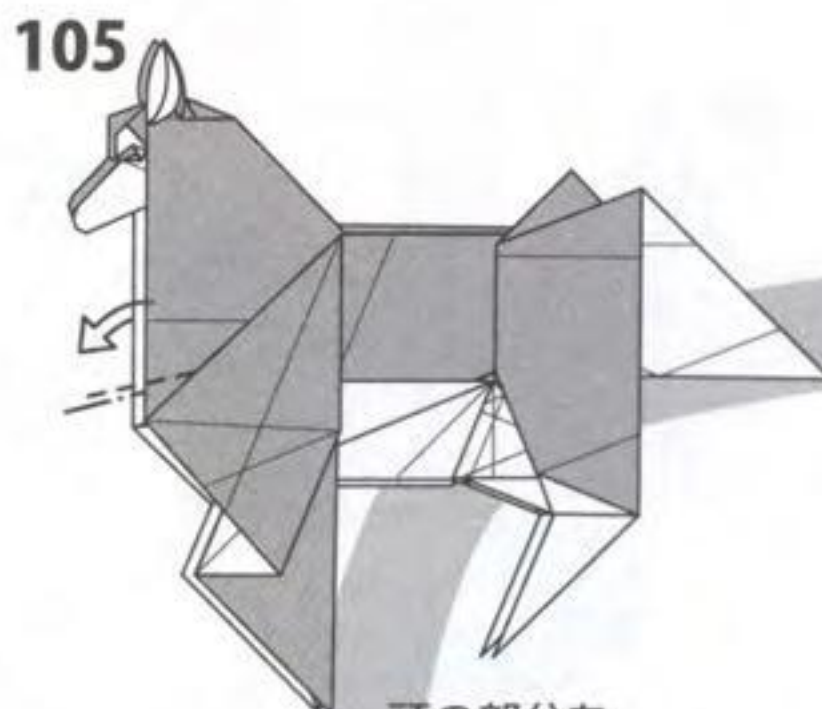
フチを折り筋に
合わせて折る

101

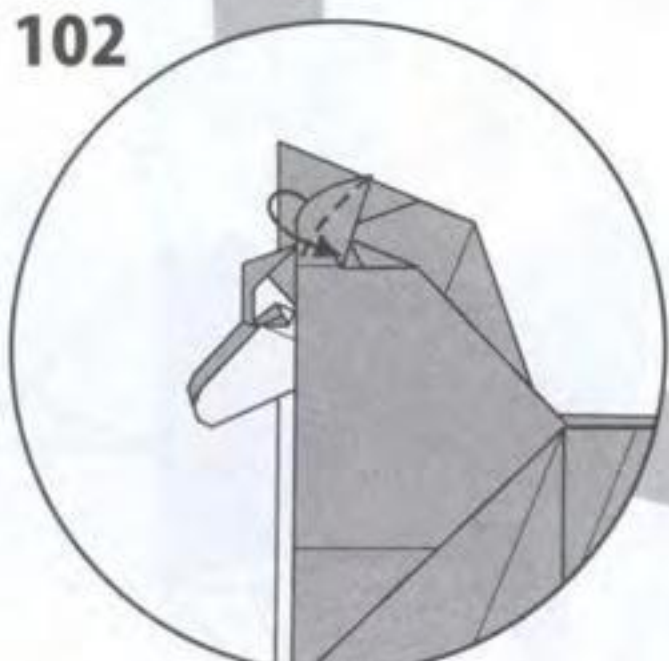


カドを起こすように折る

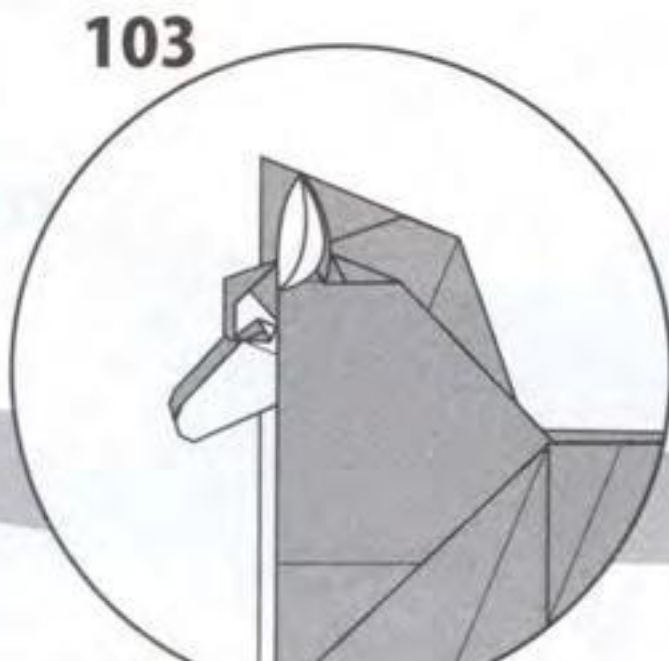
105

頭の部分を
ずらすように折る

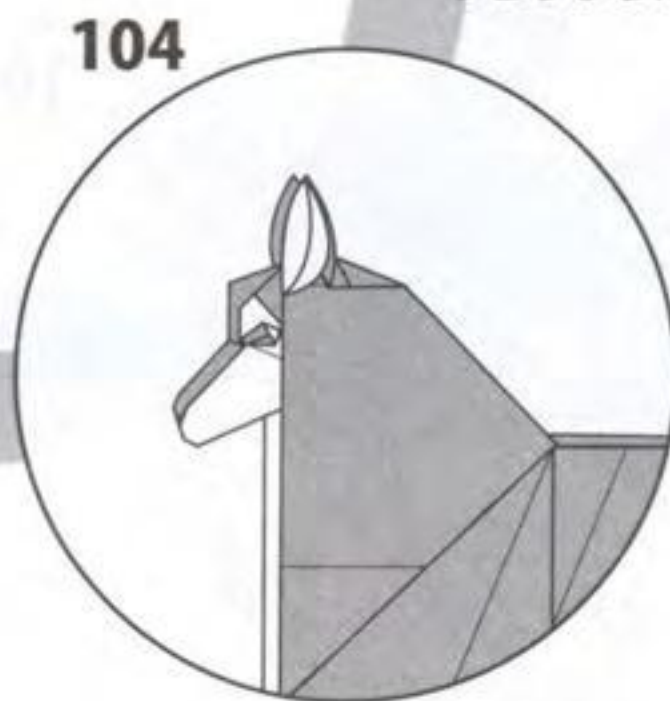
102

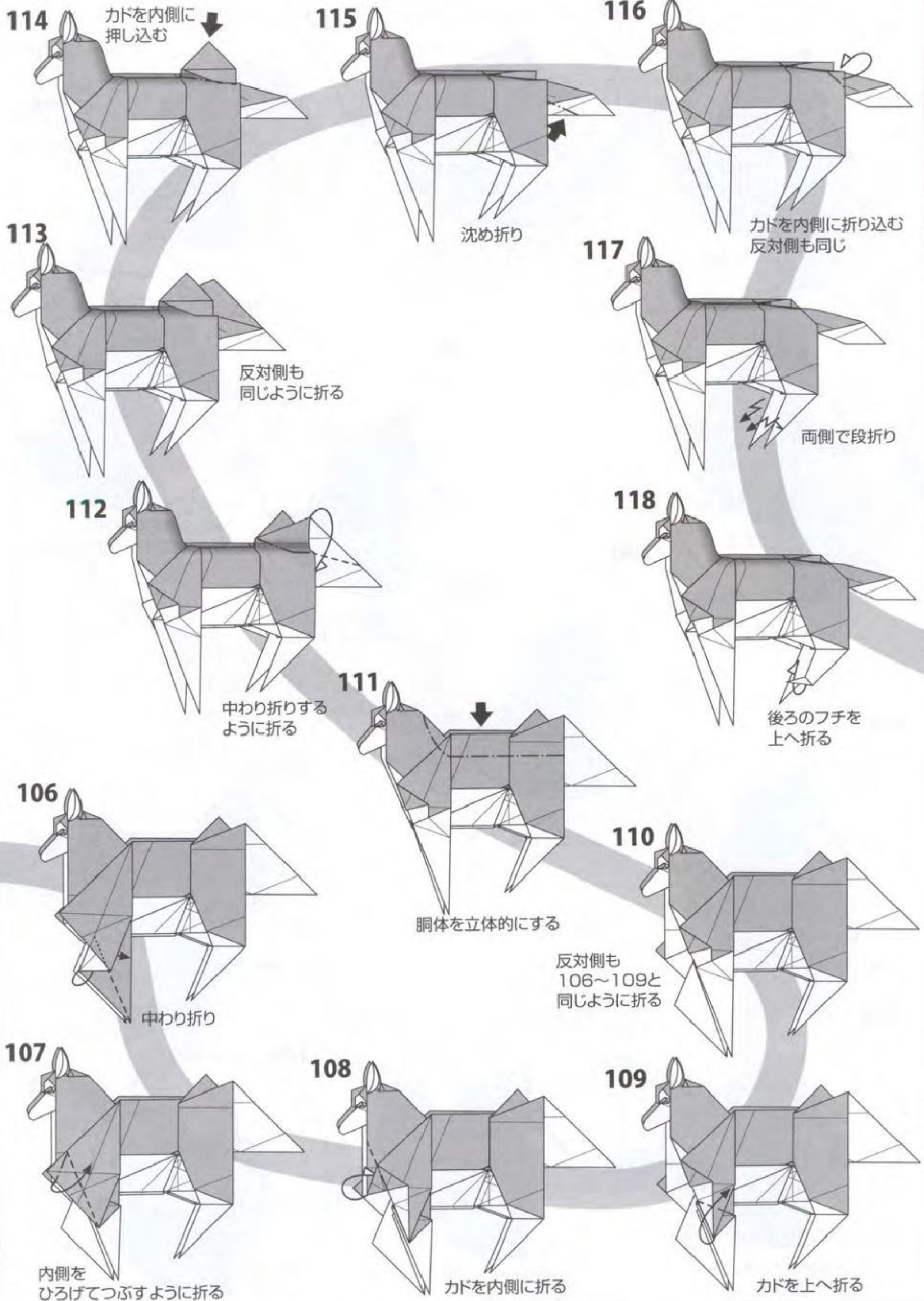
すき間をひろげるように
1枚だけ折る

103

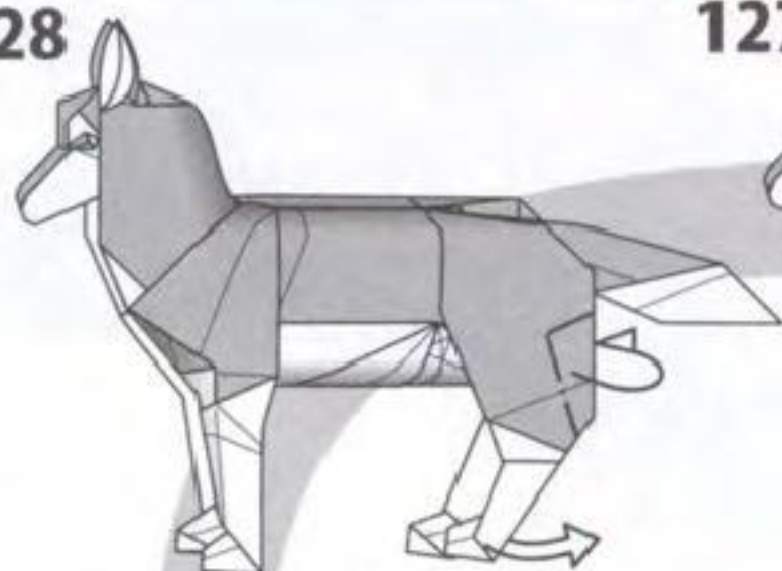
反対側も97～102と
同じように折る

104



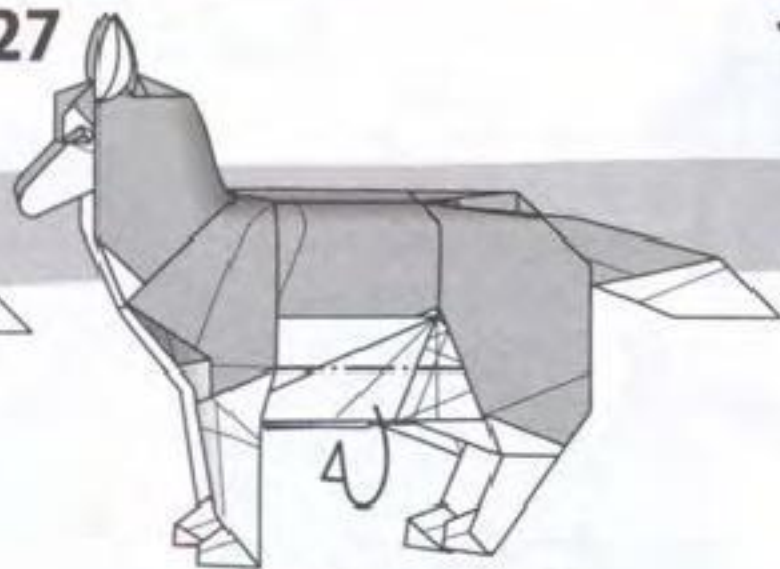


128



後ろ足を仕上げる

127

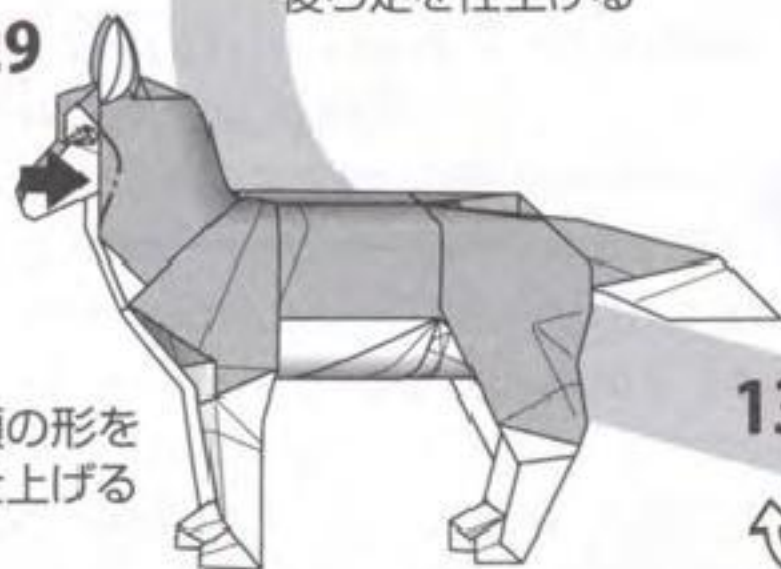


胴体を立体的にする

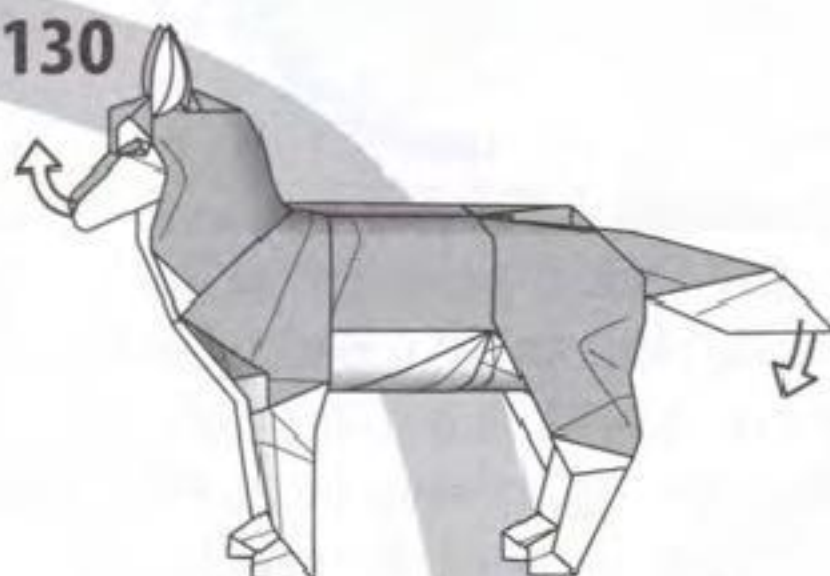
126

反対側も122~125と
同じように折る

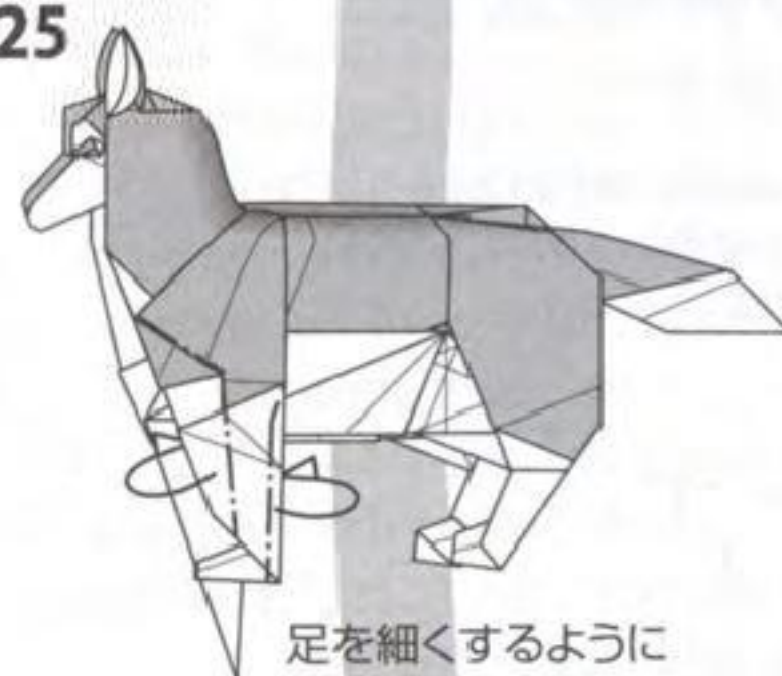
129

頭の形を
仕上げる

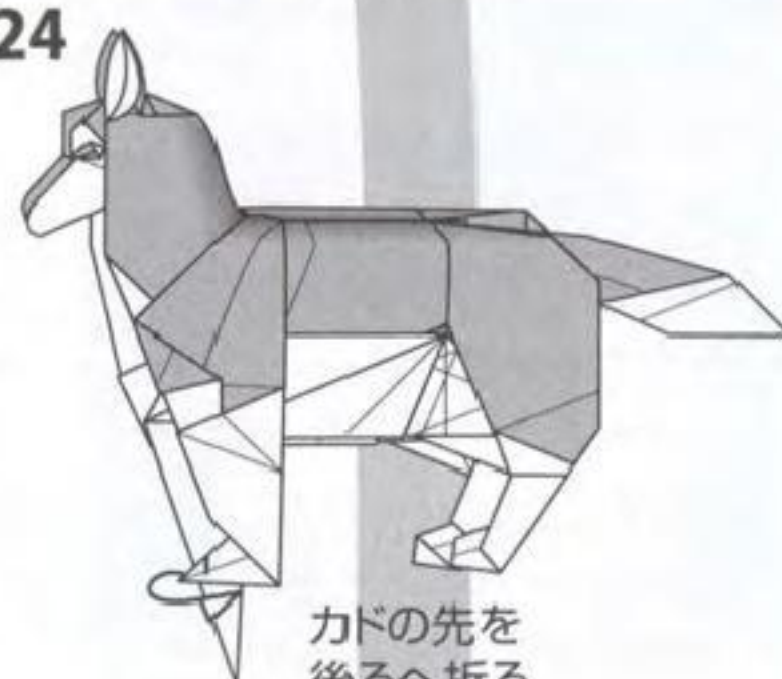
130

頭と尾の角度を調整して
形を整える

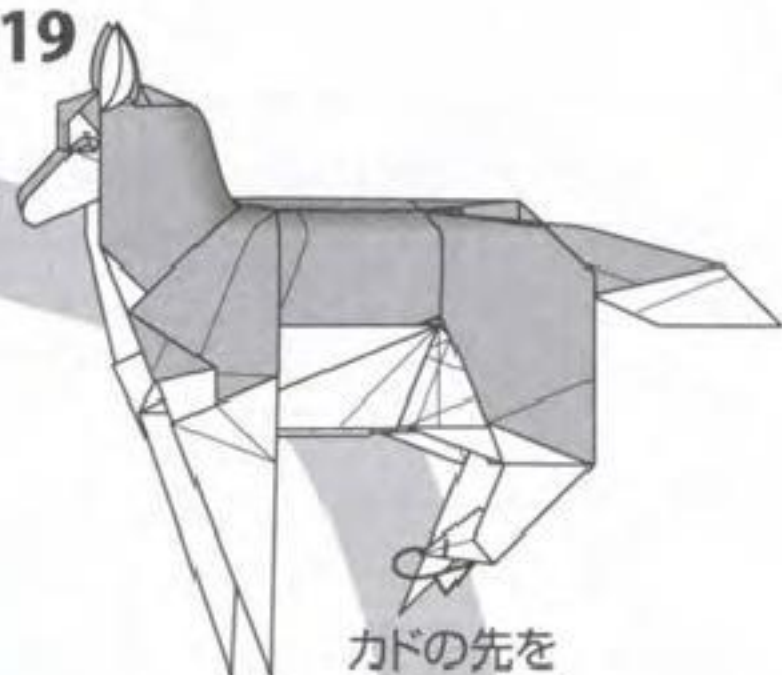
125

足を細くするように
折る

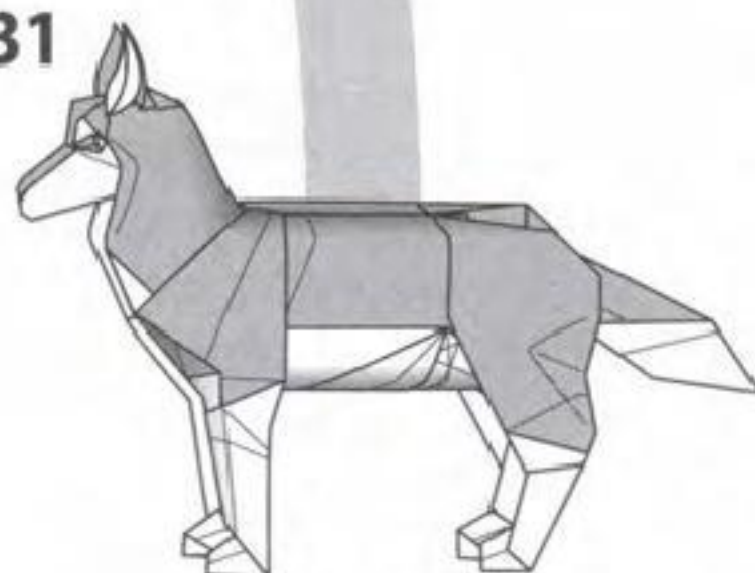
124

カドの先を
後ろへ折る

119

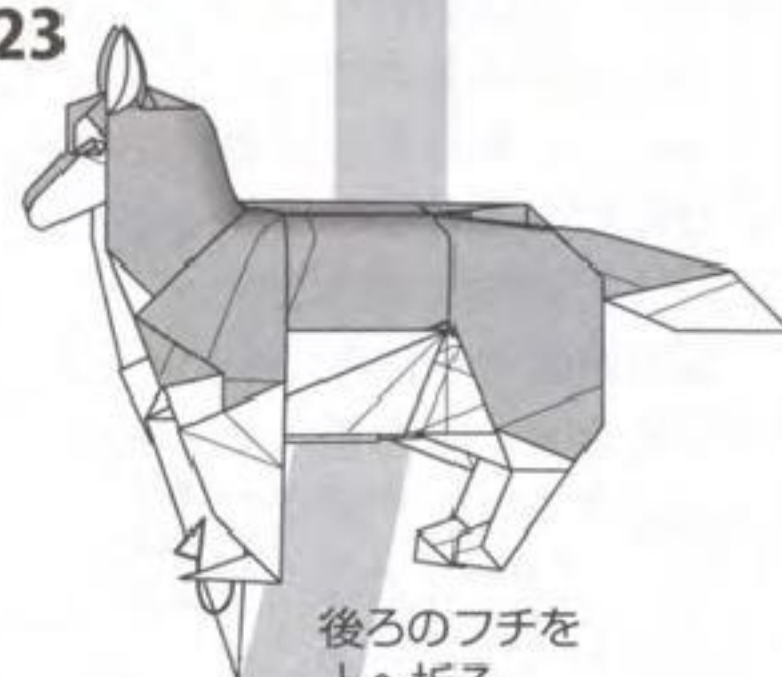
カドの先を
後ろへ折る

131

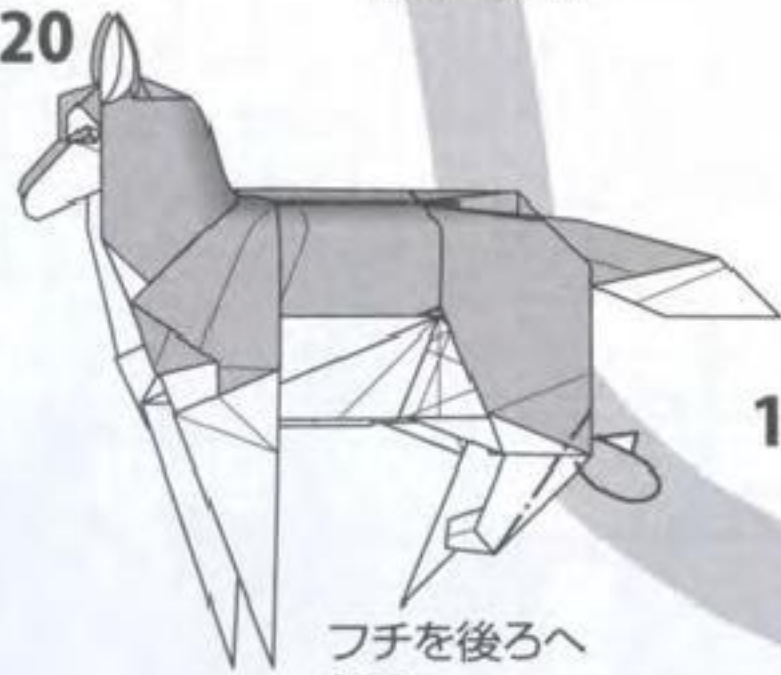


できあがり

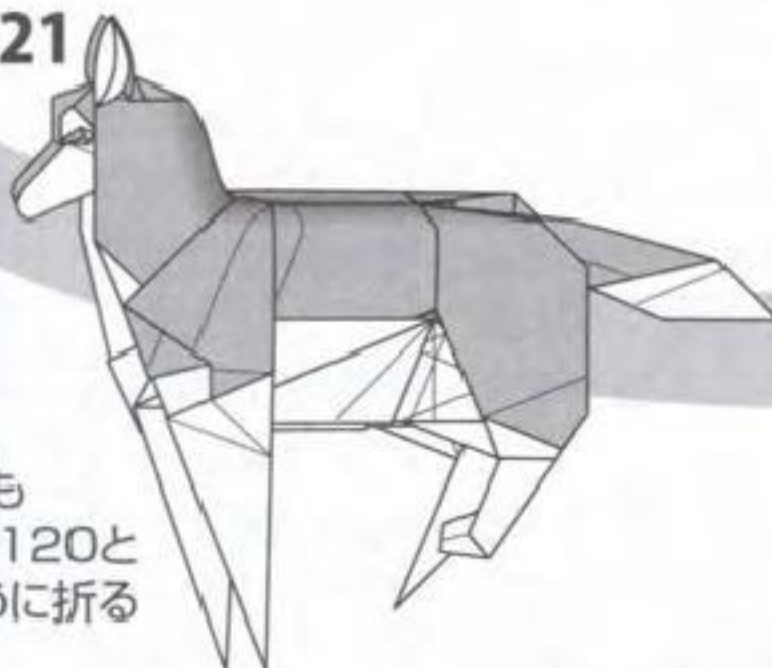
123

後ろのフチを
上へ折る

120

フチを後ろへ
折る

121

反対側も
117~120と
同じように折る

122



両側で段折り

展開図折りに挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第100回

シャコ

Squilla

今井幸太

Imai Kota

Created: 2015/12/26

Paper Size: 50cm×50cm

Length: 17cm



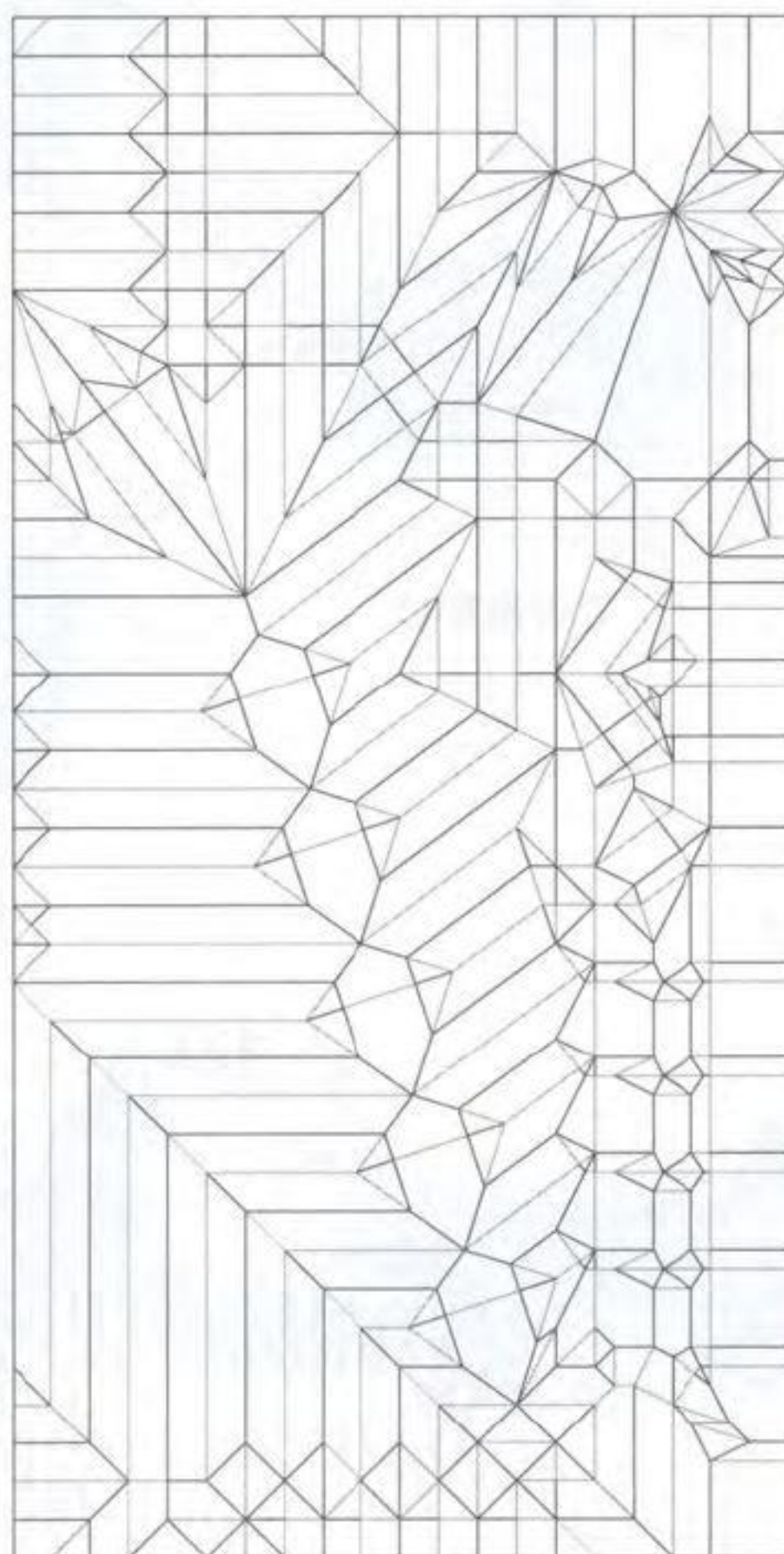
シャコを折ろうと思ったのは、見た目の奇妙さに加え、あまり創作例がないことがきっかけとなりました。

創作の流れを、構造の解説を交えながら書いていきます。まず、胴体の基本的な構造をある程度固め、脚など各部の長さや幅を決定しました。胴体の幅は蛇腹4マス分欲しかったので、中央に2マスの帯領域を設けることにしました。幅変換を使うことも考えましたが、脚を胴体の端から折り出すのに都合が良かったので、この構造を採用しています。このままだと、中央部分に紙の重なりが少なくなるという問題がありますが、端の蛇腹の一部を中央に持ってきて、紙の重なりを分散させることで解決しました。ここまでに決まった構造を、ORIPAで描いてみたところ、胴体の節と腹肢を、神谷パターンを使うことで同時に折り出すことを思いつきました。なかなか面白い形になり、この構造が決まったことで、モチベーションが保たれ、なんとか完成までこぎつけました。

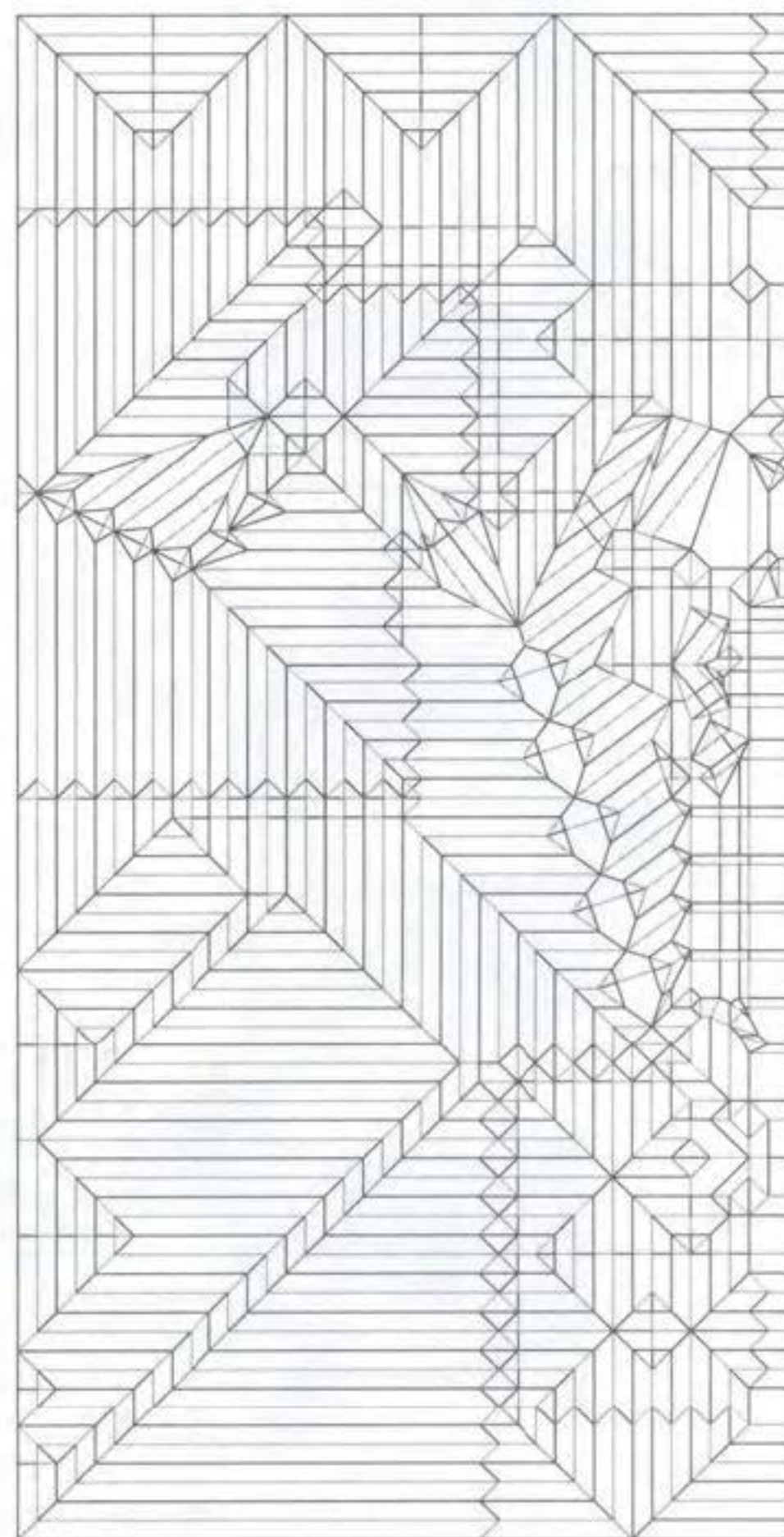
80等分蛇腹がベースになっています。胴体の細か

い折り筋は拡大図を参考にしてください。カマの部分など、紙の重なりで厚くなるため、なるべく薄い大きな紙を薦めます。折り畳みに関しては、蛇腹のセオリー通り、中央からまとめていくのが良いと思います。触角から脚

にかけて、紙が妙な動きをしているので、そのあたり注目しながら折ってみてください。展開図を折り終えたら、脚と触角を仕上げるだけでほぼ完成になります。思い思いのポーズで仕上げましょう。



胴体部分(左半分)



全体(左半分)

藤本修三

Obituary: Fujimoto Shuzo

In Memoriam Fujimoto Shuzo-sensei

Fujimoto-sensei influenced my life and work deeply and I hope these memories and thoughts will call to mind his kind and loving generosity and express my gratitude for all he gave to me.

We were separated by language, culture, space and now sadly for all time. I never studied formally in his workshop or in his classroom during his career

追悼

藤本修三先生を偲んで

藤本先生は私の人生及びキャリアに大変大きな影響を与えてくださいました。ここに先生の思い出およびそれにまつわる私の思いを綴ることで先生の愛すべき寛大さと先生が私にくださったものすべてに対しての感謝の気持ちが十分にお伝えできればと思います。

先生と私は、異なる言語、文化、場所により隔てられていましたが、ついに今永遠の別れを迎えることとなってしまいました。先生のワークショップや教室で教師としての先生に習ったことは一度もありませんでしたが、それでも私は自分自身のことを彼の弟子だと思っています。これからも。



▲ご遺族からお借りした写真、とても楽しそう

Yamaguchi Makoto

編集：やまぐち真

○藤本修三(ふじもと・しゅうぞう)＝大正11年(1922年)10月27日生まれ。大阪府出身、旧制浜松高等工業応用化学科卒(現：静岡大学工学部)。化学会社勤務後、兵庫県立篠山鳳鳴高等学校理科教諭、兵庫県立有馬高等学校、兵庫県立三木高等学校教諭。平成27年(2015年)7月28日大阪府箕面市の老人ホームで老衰のため死去。人生のほとんどは兵庫県篠山市郡家で過ごす。著書＝1976年7月『創造性を開発する、立体折り紙』(新写植出版)、1982年10月『創造する折り紙遊びへの招待』藤本修三・西脇正巳(共著)



as a teacher. And yet I always have and will consider myself his student.

I was through the help of his friends and family able to visit him a few times. During those brief visits despite the language barrier I felt an enthusiastic sense of play, love of beauty and desire to share it that I continue to be inspired by and follow.

From units slipped into each other to model crystal lattices to pleats as lines of a tiling with

先生のご友人やご家族にお手伝いいただき、何度か先生のもとをお訪ねすることができました。短い時間、言葉の通じない中でしたが、先生の時に大変熱い遊び心、美への愛着、そしてそれを共有する強い意思を感じることができ、それは今でもそしてこれからも私を励ましてくれることでしょう。

結晶構造の精緻に組み上げられたユニット作品から、ねじり折りをカドに、蛇腹折りを線分に使った格子構造作品群、また一枚の紙を多面体の筒状構造にまとめ、精緻で美しい手法で留めを施した箱に至るまで、先生の多岐にわたるアイデアは折り紙の世界をまるで大河のように流れて

swirling twists at the vertices to paper wrapped into a faceted tube with an elegant lock to hold it together as a box his multitude of good ideas run through modern origami like rivers. I believe his love will continue to flow through those who use his methods and fold his patterns outside of time, space and culture.

Chris K. Palmer



▲2009年、クリス・K・パルマー氏が布でねじり折りした作品を持って篠山にお訪ねしたとき。

いきました。先生の折り紙に対する愛情はこれからも彼の技法を使って作品を折る、時代、国、文化を超えたありとあらゆる人々の心の中を流れ続けていくことでしょう。

クリス・K・パルマー

藤本さんの作品を初めて見たのは日本折紙協会主催の第1回世界のおりがみ展であった。当時のNOAには理系が少なく藤本さんの作品はなかなか陽が当たらなかった。そうこうしているうちに海外での評価が高まり、まるで逆輸入するような形で国内でも人気が出てきて、あじさい折り、ねじり折り、藤本キューブと藤本ワールドが形成されてきた。

そんな藤本さんであるが、まるで飾りつけのない方でお会いするたび作品を見せて頂くのだが、使う紙も新

聞などに入ってくるチラシの紙を使って折っている事が多かった。初めてお会いして見せて頂いたきもそうで、それ以後も何度かお会いしたのだがその姿は変わりなかった。篠山のお宅に上記のクリス・K・パルマー氏、ロバート・J・ラング氏等とお訪ねしたのが昨日のようだ。ご冥福をお祈りいたします。

やまぐち真

ご遺族の方からのお願いです
いろいろ故人の事についてお尋ねがありますが、ご家族としてはそっとしてほしいという事です。

日本折紙学会(JOAS) 26期事業報告と27期予定

JOAS' Annual Report: Activities in the 26th Year and Prospects in the 27th Year

1) 会員・定期購読者

第26期は前期に比べ会員数、購読者ともに微増しており会員は初めて500名の大会にのりました。26期会員の皆様へは、今期の配付資料としてロバート・ラング氏の折り図「キリギリスHP」および小松英夫氏の折り図「カニ」を送付させていただいております。第27期につきましても日本折紙学会の活動理念にご理解をいただき引き続きご購読・会員継続していただきますようお願いいたします。

2) 吉野一生基金

「吉野一生基金」には2015年度も皆様のご寄付を頂いており、改めてお礼申し上げます。「吉野一生基金」では8月にジャン・ディン氏(アメリカ)、シュウキ・カトウ氏(アメリカ)を第21回折紙探偵団コンベンションに迎えることができました。5月の九州コンベンションにイサ・クライン氏(ブラジル)、11月の名古屋コンベンションに布施知子氏、2016年3月の関西コンベンションにデビッド・ブリル氏(イギリス)に対して助成を行いました。「吉野一生基金」ではこれまで19年間にわたりのべ63名の海外折り紙作家や活動的な愛好家を招待するとともに12名の日本人若手作家を海外コンベンションに送り出し、折り紙の国際交流の支援を続けてまいりましたが、ここ数年は年間のご寄付を上回るペースで支出してきております。一部有志の方から多額のご寄付を頂くことで、今期は基金残高が増加しておりますが、今後とも多くの方からのご理解を得て基金の維持発展を目指したいと存じます。

吉野一生基金2015年度収支報告

(2015年3月20日)

繰越金	928,090円
(2015年3月31日付)	
入金	677,000円
(振込による寄付金等)	
	11,000円
(名古屋コンベンション寄付)	
支出	610,000円
(海外招待4名、日本人1名および諸経費)	
残金	1,006,090円

※ 昨年の繰越残高に計算のミスを発見いたしました。訂正いたします。

3) 折紙探偵団コンベンション

2015年8月14～16日に第21回折紙探偵団コンベンションを東洋大学で開催し、400名を超える参加者を得て盛会に行うことができました。今大会は、会員と非会員の参加費に差をもうける措置をさせていただきました。大きな混乱もなく運営できましたこと、参加者の皆様には厚く御礼申し上げます。第22回折紙探偵団コンベンションも同様のシステムで2016年8月12～14日に東洋大学にて開催予定です。2015年度の地方コンベンションでは第5回九州コンベンション(佐賀大学)、第10回名古屋コンベンション(名古屋芸術大学)、第16回関西コンベンション(高槻現代劇場)を開催することができました。2016年度も5月に第6回九州コンベンション、11月の東海地区は第9回静岡コンベンション、2017年3月には第17回関西コンベンションを開催する予定です。世話役となっていています友の会の皆様にはこの場を借りて心よりお礼申し上げます。

4) その他の事業報告・計画

◆ 折り紙資料の收集整理を目的とした「折り紙図書館」事業では收集整理した資料の蔵書目録を増やしており、約2000点をウェブで検索できます。利用は会員の同席があればご友人や学校の折り紙サークル関係者など非会員の閲覧も、施設利用料(一般300円/回、購読者200円/回、会員は無料)をご負担いただくことで可能です。さらに活発なご利用をいただくために利用日を土・日・祝日に拡大いたしました。折り紙図書館の利用時間はウェブページ等でご確認ください。◆ 「折紙指導員」制度につきましては、2015年度は8名の方に新たに資格認定をさせていただきました。2014年度より開始いたしました折紙指導員に対する「折り紙講習等で使用可能な作品許諾リスト」の内容充実を進め、2016年度4月1日付からは新たな作家を加えたリストの公表準備を進めております。◆ 2015年度もJOASホールでの例会、折り紙教室の運営を行っており、東京友の会例会、神谷哲史氏など有名作家ならではの特徴ある講習会、若手作家による研究会、ATC研究会

が開催されています。また2015年12月には特別企画としてトム・ハル氏による講演・講習会も開催されました。さらに、定期開催されている折り紙の科学・数学・教育研究集会につきましては、6月に第18回が行われたほか、11月の第19回では北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)のシンポジウムに合わせて地方開催を試み、東京開催と変わらぬ盛会となりました。講師を務める作家の皆様、話題提供いただいている研究者の皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。今後とも折り紙の様々な活動拠点として有効に運営してまいります。

◆ 「Web折紙アートミュージアム」を2014年8月の6OSME開催に合わせて開設いたしました(<http://www.origami-art-museum.com/>)。現在は、「秘伝千羽鶴折形の再現」展のリニューアルを準備中です。多くのボランティアに支えられた充実した内容になっています。この場を借りて改めてお礼申し上げます。今後、さらにコンテンツの充実に向け企画を検討しております。◆ 2015年度から国内外の大学折り紙サークルや学生折り紙愛好家・作家に呼びかけ「国際大学折紙連盟(ICOA)」としての作品展を展開しています。初年度は、8月(折紙探偵団コンベンション)、11月(JAISTシンポジウム2015 於金沢市・北國新聞社)、11月(名古屋コンベンション)にて展示会を開催することができました。2016年度も新たな作品にて数回の展示会を計画中です。◆ 2015年度の学術誌『折り紙の科学』第5号を発刊する予定で編集作業を進めております。本誌への論文投稿をいただいた研究者の皆さんに感謝申し上げます。また、『折り紙の科学』のさらなる発信力の向上を目指して、掲載論文のオープンアクセス化を検討しております。『折り紙の科学』の充実、日本折紙学会の日本学術会議協力学術研究団体認定への核となる事業と位置付けております。◆ 折り紙の知的財産権検討に関しまして、折り紙の科学・数学・教育研究集会での研究報告など研究を進めております。さらに、日本折紙学会折紙指導員に対する作品許諾リストの公表も本研究に裏打ちされた活動となっています。これらの研究は専門の弁護士による調査やレビューを受けるようにしており、そのための「折り紙の知的財産権検討基金」へも皆様のご寄付を多数頂きありがとうございます(<http://origami.gr.jp/IPrights/>に寄付要項を掲載しております)。今後も折り紙の知的財産権の研究を着実に推進いたしますので、皆様のご理解

とご協力をよろしくお願い申し上げます。

「折り紙の知的財産権検討基金」

2015年度収支報告 (2015年3月10日現在)

繰越金	167,950円
入金	28,000円 (3名)
支出	0円 (今期の支出はありませんでした)
残金	195,950円

5) 総会・その他

◆日本折紙学会2015年度の会計報告につきましては、第22回折紙探偵団コンベンション開催期間中に予定しております総会においてご報告いたします。2016年6月30日までに第27期会員に登録いただきました皆様には追って総会のご案内をご送付申し上げます。◆日本折紙学会の役員体制は、三浦公亮(東京大学名誉教授)会長以下、評議員として川崎敏和(8)、川村みゆき(2)、小松英夫(6)、舘知宏(6)、立石浩一(4)、西川誠司(9)、羽鳥公士郎(7)、北條高史(8)、前川淳(7)、三谷純(9)そして、川畑文昭氏(1)に復帰いただき11名で運営を進めてまいります(カッコ内は評議員の勤続年数:最長任期9年)。津田良夫が評議員任期満了のため退任となります。評議員代表は津田良夫が代表任期/評議員任期満了となり、替わって西川誠司が務める予定です。今後ともますますのご支援よろしくお願い申し上げます。

1) Membership and Subscribers

In the 26th year, JOAS saw an increase in members and subscribers, and we now have more than 500 members. To the members in the 26th year, we distribute the special issue with diagrams of Robert Lang's "Katydid HP" and Komatsu Hideo's "Crab". We expect all members and subscribers to renew for the 27th year as well.

2) The Yoshino Issei Fund

We would like to thank you for your support of the Yoshino Issei Fund this year. We have invited Shuki Kato (USA) and Giang Dinh (USA) to the 21st Origami Tanteidan International Convention. In May, we invited Isa Klein (Brazil) to the Kyushu Convention, Tomoko Fuse to the Nagoya Convention in November, and David Brill (UK) to the Kansai Convention in March, with the partial aid from the Yoshino Fund. The Fund had invited 63 origami artists from abroad so far, and aided travel fees of 12 students who attended origami conventions outside Japan, contributing to international exchange of human resources related to origami. In recent years, however, we are having more expenses than donations.

Although the balance is in increase due to voluntary contributions in a large amount recently, we would like to keep the balance stable by your kind contributions.

As of March 20th, 2016, the Fund has 1,006,090 yen, with contributions from members (677,000 yen), the income at the auctions (11,000 yen) and expenses 610,000 yen (see above).

3) Origami Tanteidan Convention

We held the 21st Origami Tanteidan International Convention at Toyo University successfully on August 14-16, 2015. This year, we had more than 400 participants. We have decided that we require a little more expensive amount of fees to non-members. We thank everyone at the convention for your cooperation. We also had the 5th Kyushu Convention (Saga University), the 10th Nagoya Convention (Nagoya University of Arts) and the 16th Kansai Convention (Takatsuki Gendai Theater). We plan to have the 6th Kyushu Convention in May and the 9th Shizuoka Convention in November. We thank staff members of these conventions for their hard work.

4) Other Activities and Plans

The Origami Library have approximately 2,000 books and articles, searchable through the web. Non-members can also use the archive with fees (subscribers 200 yen, non-subscribers 300 yen) given that they come to the Origami Library with our member. We are waiting for your active use of the Library, so we decided that the Library will be open on weekends and holidays. For the use of the Library, see the JOAS web site.

We had licensed eight people as new JOAS Origami Instructors in 2015. We JOAS made open the list of models that can be used without notification in origami classes to the Instructors in 2014. We will open the renewed list.

The JOAS Hall is being used for regular meetings of Tokyo Tanteidan Group, origami classes by Kamiya Satoshi and other origami artists, study group meetings of young origami artists, origami ATC meetings, and so on. In December 2015, JOAS held a special lecture and workshop session by Tom Hull in the Hall. We held the 18th and 19th Workshop on Origami in Science, Mathematics and Education, and the 18th meeting was held at the JOAS Hall. We had the first workshop outside Tokyo for the 19th, at Japan Advanced Institute of Science and Technology (Kanazawa) and it was successful. We are grateful to the participants of the meetings for various kinds of stimulus to us. The Hall will welcome any origami-related activities. The "Origami Art Web Museum" had opened in August, 2014 when 6OSME was held (<http://www.origami-art-museum.com/>).

At present, the Museum is planning renewal of a thematic presentation of "Recreating Hiden Sembazuru Orikata". We appreciate hard work of volunteers who made this possible. The JOAS web site announces the future updates.

Starting 2015, we were holding exhibition events by International Collegiate Origami Association (ICOA), with contributions from origami artists in college origami circles/clubs of the world. This year, exhibition events are held in Tokyo (at the time of JOAS Origami Tanteidan International Convention), Kanazawa (at JAIST Symposium, sponsored by the City of Kanazawa and Hokkoku Shimbun) and Nagoya (at the time of Origami Tanteidan Nagoya Convention). We plan to have more events in 2016.

We are now in the process of editing the 5th issue of Origami Sciences in 2015. We thank contributors for their serious interest in the magazine. We are planning to make Origami Sciences an open access magazine, to make the origami-related academic works more accessible. This is a part of our project to make JOAS a recognized academic society.

JOAS continues their work on copyrights and intellectual property rights pertaining to origami. The "List" of models above to the Instructors is based on our concerns on copyrights. Of course, we are regularly consulting professional lawyers to make searches for the analysis. We are still calling for the Fund for the Intellectual Rights and Copyrights on Origami, the regulations of which are described on the web site (<http://origami.gr.jp/IPrights/>). We recognize that the issue must always be on our agenda. We thank you for your understanding and cooperation.

5) General Meeting and the Board

The fiscal report of JOAS in 2015 will be reported in the General Meeting immediately preceding the 22nd Origami Tanteidan Convention. Members will be notified of the meeting if they register their membership by June 30th, 2016.

The Board members for the 27th year will be: Kawasaki Toshikazu (8), Kawamura Miyuki (2), Komatsu Hideo (6), Tachi Tomohiro (6), Tateishi Koichi (4), Nishikawa Seiji (9), Hatori Koshiro (7), Hojyo Takashi (8), Maekawa Jun (7), and Mitani Jun (9) (numbers indicate the years for which they have been the Board members consecutively). Tsuda Yoshio's terms had ended, so he will not be the Board Member this year. Starting this year, Kawahata Fumiaki (1) will be a member. The chair of the Board will be Nishikawa Seiji. The Chair of JOAS continues to be Miura Koryo (Prof. Emeritus, Tokyo University). We thank you again for your continuing support.

Rabbit Ear つまみおり Information

第22回折紙探偵団コンベンション 折り図集原稿大募集

夏のコンベンションに合わせて発行される折り図集への投稿作品を、広く募集しています。自慢の楽しい作品(折り図)をお寄せください。

●応募資格 特にありません。アマ・プロ、年齢不問。本誌購読者及び日本折紙学会会員である必要もありません。採用者(ページ数の条件あり)には、掲載作品数に関係なく『第22回折紙探偵団コンベンション折り図集』を1冊進呈。

●応募作品の条件 創作もしくはアレンジの作品で、未発表の自作折り図に限ります。(アレンジ作品の場合は、オリジナルの原作者の了解を取った上で、名前も明記すること。)原稿はデジタルデータが基本となります。

●折り図投稿マニュアル入手方法

ダウンロード:折紙探偵団HPの「コンベンション特設ページ」より可能です。<http://origami.gr.jp/Convention/22th/>

◆応募締め切り:2016年6月末日

◆第6回折紙探偵団九州コンベンション参加者募集開始!

今年で第6回目となる九州コンベンションは5月最後の土日に佐賀大学本庄キャンパスをお借りして開催されます。海外ゲストはアメリカのコンプレックス系作家のセス・フリードマン氏です。日本語を話されるのでこの機会にぜひ直接お話しされてはいかがでしょうか。

九州コンベンションでは毎年韓国からの参加者・講師も多くいらっしゃいます。特別ゲストの講習とはまた違った雰囲気もお楽しみください!

そして今年も折り紙を使ったアーティスト・トレーディング・カード(ATC)の交換会を開催する予定です。参加者が年々増えていますので今回は2部門に分けることにしました。どちらも事前の申し込みが必要です。参加をご希望の方は申し込み用紙の「ATC交換会参加要項を希望」の欄にチェックを入れておいてください。別途申し込み用紙をお送りします。

また、今年の懇親会は場所を変えて着席形式となりました。

参加申込、ATC申込、講師申込などは九州友の会のブログから直接送信していただくことも可能です。プログラムなど

の各種情報も順次ブログに掲載していきます。

ご家族やお友達など、皆様お誘い合わせの上ぜひお越しください。九州友の会スタッフ一同、皆様のご参加をお待ちしております!

●日程=2016年5月28日(土)・29日(日)

●会場=佐賀大学 文化教育学部

●参加費=大人 4,000円/学生 3,000円
親子割引もあります。詳しくは案内用紙参照。

*海外参加者はそれぞれ半額になります。

●懇親会(ホテル千代田館)

28日(土) 18:00~20:00 5,000円

*コンベンション・懇親会とも申し込み後にキャンセルされる場合は必ず事前に、なるべく早くご連絡ください。

●OrigamiATC交換会

今年は以下の2部門を開催予定。大きさ=64×89mm、厚さ=5mm以下。カードの制作者名および使用作品の作者名や出典をカードの裏面に明記のこと。カード1種類につき1枚を受付に提出してください。引き換えに主催側が用意するタイトルカードを1枚お渡しします。

*参加にはどちらも事前申し込みが必要です(郵送参加も可)。参加ご希望の方には別途要項をお送りします。

・テーマ部門「青」 定員25名(予定)

参加者全員が全員と交換をする「スワップ」という形式で行います。

・自由部門 定員無し

会期中に各自で自由に交換する「トレード」という形式で行います。

●参加申し込み

5月13日(金)必着

同封の申込書をご利用ください。インターネット上でも申し込みができます。九州友の会ブログに掲載の申し込みフォームをご利用ください。

●お問い合わせ先

川村みゆき

メール:q-syu@plala.to

FAX:0952-33-2246(10:00~19:00
常時留守電になっています)

九州友の会ブログ:

<http://q-syu.squares.net/blog.cgi>

第10回JOAS 創作折紙コンテスト 作品募集

■JOAS賞 特別テーマ部門:「ロボット」

■JOAS賞 干支部門:「とり」

■おりがみはうす賞:テーマ無し(自由題)

▶1つの賞に1人1作品まで応募可▶いずれの賞でも複合は可▶切り込みは原則不可▶平面・立体作品のいずれでも可▶未発表の創作作品に限る。
募集条件等の詳しい内容はウェブサイトをご覧ください。

<http://origami.gr.jp/Convention/22th/index.html#competition>

●申込用紙入手方法

ダウンロード:折紙探偵団HPの「コンベンション特設ページ」より可能。

◆応募締め切り:2016年7月末日

◆審査と表彰式:2016年8月、東京で日本折紙学会が主催する「折紙探偵団コンベンション」開催中に行われます。



▲セス・フリードマン氏(左)と、パートナーのマーゴ・スナイダー氏(右)

◆ニワトリとモルモット 第16回折紙探偵団関西コンベンション

Chickens to Guinea-Pigs? The 16th Origami Tanteidan Kansai convention David Brill

どこであろうと折り紙コンベンションは大変楽しいものですが、日本でのコンベンションは格別です！ましてや招待ゲストならなおさら、それが3月、高槻で実現したのです。招待された御礼に、折り紙教室を2つと講演を、とのこと。3月2日に東京着、その日は時差ボケなどを治すのに過ごし、古くからの友人、山口真さんとまず京都旅行。コンベンションの初日は、140人ほどの参加者の皆さんが高槻に来られる間、展示、おりがみはうすの販売スペースなどのセッティングのお手伝いをしていました。参加受付の後、最近創作したニワトリを教えたが、実は、手順をまだちゃんと決めていなかったのです。講習に参加された皆さん

Origami conventions are great wherever they are, but especially in Japan! Even better if you are a Special Guest, as I was, in Takatsuki this March. I agreed to teach two designs, and to give a lecture in return for this wonderful invitation. Arriving in Tokyo on 2 March, I spent a day acclimatizing, before travelling to Kyoto with my old friend Makoto Yamaguchi. We set up exhibits and the bookshop, while some 120 delegates arrived at the Takatsuki meeting hall on the opening day. After registration, I taught a new chicken design, although the folding sequence isn't yet clear! So I hope my students didn't feel too much like guinea-pigs...

さんがモルモットにされたみたいに感じていなかったらいいのですが……。それでも、何人かは私より上手にニワトリを仕上げていましたので、有能な生徒さんのおかげとも思ったのです。

土曜日の講演は私のヨシモト・キューブの研究とそれに関係のある動く折り紙作品の紹介でした。講演と2つの教室を巧みにでも自然に訳してくださった立石浩一さんに心より感謝したく思います。2つ目の講習はTriangle Flexicube (三角パーツをベースにしたヨシモト・キューブ的構造)でしたが、1時間では足りなかったみたいです。それでも、何人かは作成に成功していたので、何よりでした。今でも思い出すのは、

Nonetheless, some managed better results than me, so my admiration goes to my talented students.

My lecture on Sunday morning described my exploration of Yoshimoto Cubes and related moving origami. Grateful thanks to Koichi Tateishi for his spontaneous translation for the lecture, and for both my classes. The second of these was a Triangle Flexicube, which over-ran its 1 hour slot, but once again I saw several successful results later.

Many lasting memories remain:
- Sho-chu and tomato juice (or Japanese Bloody Mary?)
- Spectacular snowcapped Fuji-san,

- ・焼酎のトマトジュース割り(日本版ブラッディメアリー?)
- ・京都に行く途中の富士山の冠雪の壮観
- ・旧友(前川さん、川崎さん、西川さん、山梨さん、羽鳥さん、などなど)との再会
- ・新しい才能(萩原さん、橋間さん、など)の発見
- ・竜安寺と三十三間堂の早咲きの桜
- ・コンベンションの後の長野での日々
- ・布施知子さんのもうすぐ始まる巨大展示の準備を見せてもらったこと
- ・鳥海太郎さんにドライポイントエッチングを教えてもらったことなどです。

関西の皆さんにブラボー！ ありがとう、JOAS(折紙探偵団)！

- enroute to Kyoto.
- Meeting old convention friends: (Maekawa, Kawasaki, Nishikawa, Yamanashi, Hatori etc...)
 - Discovering new talent: (Hagiwara and Hashima etc...)
 - Early cherry blossom at Ryoanji and Sanjusangendo.
 - Post convention days in Nagano prefecture.
 - Viewing preparations for Tomoko Fuse's imminent huge exhibition.
 - Trying dry-point etching with Taro Toriumi.

Bravo Kansai folders, and thank you, JOAS/Tanteidan!

◆おりがみはうすで「三谷純作品展」 4月1日(金)～24日(日) 三谷 純

2016年4月1日より、おりがみはうすにて作品の展示会を開催させていただけることになりました。このたびの企画に賛同くださり、貴重なスペースを提供くださる、おりがみはうすの皆さまに感謝申し上げます。

私が、コンピュータソフトウェアで設計した立体的な折り紙の創作を最初に行ったのが2008年の12月のことです。それから7年の時が経ちました。軸対称な造形であれば、簡単なアルゴリズムで完成図と展開図を作りだせることに気づき、画面に表示された立体を、実際に折って手に取ることができたときには、とても高揚したものです。その時は12月だったので、「クリスマスツリー」を作ってみたりしました。

その後も、いくつかのソフトウェアを開発し、作ることができる形の種類も増えてきました。形の原理を考え、ソフトウェアに落とし込み、見た目の面白い、または美しいと感じられる形を探し、そして実際に紙を折って作る、という一連のプロセスは、とても楽しいものです。

そこで作りだされた作品群をインターネット上で発表することで、国内外の多くの方に関心を持っていただくことができ、ワークショップや講演をさせていただく機会も得ることができました。なんとも恵まれた時代になったものだと思います。

今回の展示では、これまでに作られた作品群を皆さまにご覧いただいて、この7年間の歩みを感じていただければと思っています。(編注: P.24に関連写真)

◆三浦公亮先生が 日本地図学会より 学会賞を受賞

本会の三浦公亮会長がミウラ折りなどの研究に対して、日本地図学会より平成28年度の野村正七地図賞を受賞されました。同賞は地図および地図学の普及啓発、発展などに特に顕著な貢献があったと認められる者に与えられる賞です。このことは、折り紙の研究が、異分野の学会から認められたことの証でもあり、折り紙の研究者にとっても大きな励みとなることと思います。

三谷 純氏によるワークショップが、4月10日(日)と24日(日)に開かれます。
参加費:2,000円/場所:JOASホール/時間:13時～16時/要事前登録/おりがみはうすまでお申込みください。E-mail:info@origamihouse.jp

◆布施知子ORIGAMI展 ～紙と折りのリズム～

安曇野市豊科近代美術館では、2016年4月22日(金)より「布施知子ORIGAMI展 ～紙と折りのリズム～」を開催する。本展は、「箱」「螺旋」「平織り」「無限折り」などといったテーマごとに、40年に及ぶ布施氏の制作から作品200点が展示される予定だ。

会場：安曇野市豊科近代美術館
(〒399-8205長野県安曇野市豊科5609-3 TEL:0263-73-5638)

会期：4月22日(金)～6月1日(水)

入館料：一般600円、大学高校生400円
中学生以下無料

開館：午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

休館日：4月25日(月)、5月9日(月)、5月16日(月)、5月23日(月)、5月30日(月)

【関連イベント】

■作家によるギャラリートーク

日時：5月15日(日)午後1時30分～
予約：不要

参加費：入館料のみ

■ORIGAMIワークショップ

～ユニット折りで作る立体作品を作る～

日時：5月21日(土)
午後1時30分～3時

講師：布施知子

予約：要(美術館へ電話申し込み)

参加費：入館料のみ

◆折り紙の新刊読者プレゼント

■『オリガミ・ボックス かわいい!使える!不思議な箱がいっぱい!』山梨明子・著

■B5変形判、112P、箱作品28点収録 ■日貿出版社

版元の協力により、『折紙探偵団マガジン』購読者へ、この新刊書を5名様にプレゼントします。

応募方法：ハガキ又はメールにて、名前、住所、電話番号、年齢を明記し、本誌の感想なども添えて以下までお送りください。締め切り：4月30日。応募先住所：113-0001東京都文京区白山1-33-8-216 おりがみはうす宛。メールアドレス：info@origamihouse.jp



東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール/参加費=大人500円(非購読・非会員700円)、中学生以下300円(非購読・非会員500円)/時間=14:00～16:00/研究会=16:00～(開場は13:45、満員の場合は、先着順とします)

●4月2日(土)/講師：萩原元/作品：ラッコ

●5月14日(土)/講師：鈴木優作/作品：ハロウィンゴースト、講師：加藤 駿/作品：兜をかぶった鶴

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

会場=静岡の和紙処ますたけ(静岡市呉服町1-3-6 増武ビル3F)/参加費=500円(中学生以下200円)/時間=10:30～15:00 折紙用紙・昼食は各自ご用意ください。スリッパ等上履きをご持参下さい。

●4月3日(日)/講師：鈴木美恵子/作品：JEDI MASTER YODA(川畑文昭・作)

●6月5日(日)/講師：未定/作品：未定

東海友の会 ※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスA棟303号室/参加費=大人500円(中学生以下は200円)/時間=13:00～15:30

●4月16日(土)/講師：亀井浩平/作品：イエローハート、講師：田中幹人/作品：未定

●5月21日(土)/講師：未定/作品：未定

関西友の会 ※折り紙は各自持参

●4月3日(日)/時間=10:00～16:00/会場=京都市山科区・アスニー山科(京都市生涯学習総合センター山科)第1研修室/定員=40名/参加費=500円(中学生以下無料)

講師：吉田順/作品：星のオーナメント(つがわみお・作)、講師：稲吉秀尚/作品：馬、講師：山口之彦/作品：お座り犬、講師：稲吉秀尚/作品：折り鶴風箏袋

●次々回定例会は6月の予定。詳細が決まり次第、公式サイトにてご案内予定です。

http://tatekoo.net/KT/fold_it_or_go/

九州友の会 ※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ 4階/参加費=500円(中学生以下は100円)/時間=13:00～16:00

●4月17日(日)第3研修室B/講師：山北克彦/作品：おりとらまん

●6月26日(日)第5研修室/講師：未定/作品：未定 ※5月の通常の例会はお休みです。

JOASホール今後の予定

※それぞれ定員になり次第締め切ります

◆「OrigamiATC研究会」

4月6日(水)/参加費=1,000円(材料費別)/11:00～16:00/講習内容=ATC交換会、ATC作り、折り紙講習、折り紙の情報交換等/講師=松浦英子/定員=20名/初心者歓迎。ATC交換会は、郵送参加も受け付けています。4月6日のATC交換会のテーマは、「旅」です。郵送参加も受付中。詳しくはおりがみはうす公式サイトをご覧ください。

http://www.origamihouse.jp/

◆「ある折り紙作家の教室」

6月5日(日)/講師=神谷哲史/講習作品=未定/参加費=3,000円(材料費別)/11:00～16:00/定員=28名

※対象は、小学校5年生以上です。

※小学生の方が参加される場合は、必ず保護者の同伴をお願いします。

※会場へは参加者および同伴者(会場費500円が必要)のみ入場可能です。

※「ある折り紙作家の教室」は、2週間前(今回は5月23日以降)からキャンセル料(受講費の半額)が発生しますので、ご注意ください。

参加のお申し込みはメールinfo@origamihouse.jpで氏名、住所、Email、電話番号、参加希望教室名、希望日をお知らせください。

編集後記

■藤本さんの訃報を聞いて遺族の方へ必要以上の問い合わせがあるという。■そのご家族は困惑し、どうしたものかと悩んだそう。■そっとおいてあげてほしい。■藤本さんは新聞に入ってくるスーパーのチラシですぐ折ってしまうので、奥様は読めなく困ったそう。■時には請求書で折ってしまったこともあったそう。■関西コンベンションが盛況のうちに終わった。■今回の関西コンベンションでは心配されることがあった。■それは、NOAの京都支部中心のコンベンションと大阪支部の作品展とが同日開催となったからだ。■当初危惧された参加者数も過去最多となる140名を超えた。■ICOAの力になりそうな若手の参加者も多く今後が楽しみである。■ICOAといえば2年目を迎える今年は、東京のコンベンションの後にソウル、10月には佐賀大学の美術館で2週間開催される予定だ。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 http://www.origami.gr.jp/

折紙探偵団マガジン

2016年3月25日発行 第26巻6号 通巻156号

発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/津田良夫

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

■ORIGAMI TANTEIDAN MAGAZINE / No.156 / Published on 25, March 2016 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Siberian Husky" Produced by Morisawa Aoto, "Squilla" Produced by Imai Kota: Photographed by ORIGAMI HOUSE / Publisher: Tsuda Yoshio / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Elko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはずべておりがみはうすです。

日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第21回折紙探偵団コンベンション

折り図集vol.21

日本折紙学会 編 / 2,480円 / 送料430円
B5判 / 全288頁 / 57作品収録

収録作品: エキドナ: 川村みゆき / ステゴサウルス: 川畑文昭 / ヒツジ: 神谷哲史 / ドラゴン: 小松英夫 / 飛ぶカブトムシ: シュウキ・カトウ / HJ Rex: ジェイソン・クー / ネズミ: ロナルド・コウ / ヤギ: グエン・フン・クオン / クジャク: マーク・カーシェンバウムほか

書籍名 / 著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集	4,320円	国内一律 1冊 430円 (梱包込)	B5判 / 全228頁 / カラー口絵4頁 / 19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成
神谷哲史作品集2	4,320円		B5判 / 全323頁 / カラー口絵8頁 / 16作品収録 折り紙界の最先端、神谷氏の約8年ぶりとなる作品集
小松英夫作品集	4,320円		B5判 / 全323頁 / カラー口絵8頁 / 20作品収録 折り図も1つの作品として捉える小松氏の初作品集
西川誠司作品集	3,460円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫2」	3,780円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面～The Mask～	3,560円	書籍2冊の 送料は 540円です	B5判 / 全200頁 / 全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
エリック・ジョワゼル ー折り紙のマジシャンー	5,180円		B5判ハードカバー全144頁 / カラー80頁 2010年に逝去したジョワゼル氏の作品写真集
第20回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.20 日本折紙学会 編	2,480円	3冊以上の 複数冊は 本により 異なります お問い合わせ ください	B5判 / 全288頁 国内・外から集まった秀作 61 作品を収録
第19回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.19 日本折紙学会 編	2,480円		B5判 / 全288頁 国内・外から集まった秀作 53 作品を収録
第18回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.18 日本折紙学会 編	2,380円		B5判 / 全272頁 国内・外から集まった秀作 48 作品を収録
第17回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.17 日本折紙学会 編	2,160円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作 50 作品を収録

書籍2冊の送料は540円です。3冊以上は本によって異なりますので、お問い合わせください。書籍と紙はそれぞれ別発送となります。

商品名	価格(税込)	送 料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,080円	1～2セット 450円	35×35cm / 10枚入り / 70kgの洋紙(コルキー)に細かなウロコ柄を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット	1,300円		恐竜柄おりがみ用紙+ドラゴン(北條高史・作)の折り図セット
『折紙探偵団マガジン』専用ファイル	810円	1冊285円 2冊330円	193×268×28mm / 箔押しロゴ入り / 『折紙探偵団マガジン』1年分(6冊)と、会員特別配布物が収納可能なプラスチックファイル

折り紙用紙専門のオンラインショップ!

おりがみはうす オンラインショップ

<http://www.olshop.origamihouse.jp/>

おりがみのトーヨーの商品を

25%引きで販売中!

※創作専科・アウトレット商品等を除く / 発送は週1回木曜日

詳しくは
検索サイトで

おりがみはうす

検索

オンラインショップ限定価格で
一般店舗では取り扱いのない
大判折紙や単色折り紙等々、
700種類を超えるおりがみを
豊富に取り揃えています!



商品のお申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 00120-9-715400

加入者名 おりがみはうす

※PayPalによるお支払いも可能です。

詳細は公式HP <http://www.origamihouse.jp>まで

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は下記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間～10日です(お盆・年末年始等を除く)。

※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。



ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216

TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080

E-mail: info@origamihouse.jp

月～金 12時～15時 土・日・祝 10時～18時

JAPAN SUKASHI CHIYOGAMI

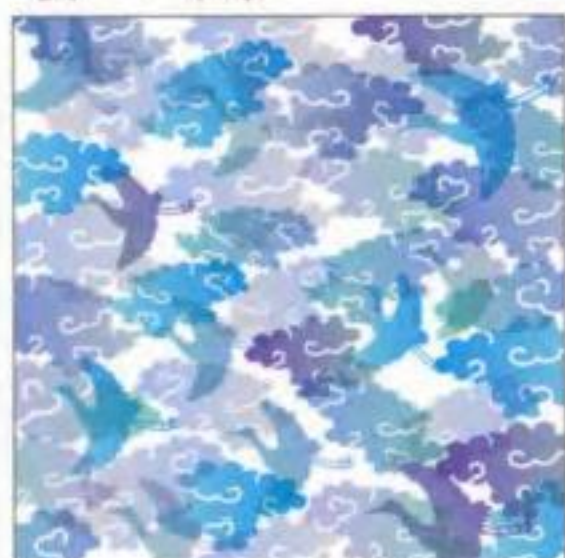
透かし千代紙



¥300
(税抜き)

透明感がある
トレーシングペーパーを
使用しています。
絵柄にも前後の透かしを
生かしたデザインにしています。

雲と鶴



松と折り鶴



花と蝶



桜と扇



●写真は印刷ですので実際の商品とは色が異なる場合があります。

※表示価格には消費税は含まれておりません。 ※内容・デザインは一部変更になることがあります。

株式会社トヨー
http://www.kidstoyo.co.jp

本社 〒120-0044東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡出張所